

令和2年度・令和3年度



滋賀県青少年赤十字
研究推進委嘱校

研究紀要

研究主題

主体的に学び、対話的に考えを深め合える子どもの育成
～児童の言語感覚を養い、『読み解く力』を高める指導の在り方～



滋賀県甲賀市立甲南第三小学校

はじめに

本校は、青少年赤十字の加盟校となって50年を迎える、今年表彰していただきました。甲賀市南部に位置し、南は三重県伊賀市に接しており、豊かな自然と人々とのつながりを大切にする地域に見守られた学校です。また、小規模校の良さをいかしながら、40年以上続いている「愛鳥活動」と「ふれあい交流」を柱とし、学校経営方針である『主体的に学び、一人ひとりが自ら輝く学校』を目指し、「気づき、考え、実行し、振り返る」行動目標として様々な教育活動に取り組んでいます。

この度、令和2年度・令和3年度と滋賀県青少年赤十字研究推進委嘱校の指定を受け、国語科を窓口に、「主体的に学び、対話的に考えを深め合える子どもの育成～児童の言語感覚を養い、『読み解く力』を高める指導の在り方～」を研究主題とし、児童の『主体的』な学びに向かう姿勢と『対話的』な学びの育成について研究を行ってきました。

多様な考えに触れる機会の少ない少人数で、いかに主体的に対話的な学びをつくり出すかが本校の大きな課題であることを全教職員が認識し、「ことば」にこだわった日常的な取組や授業の中でのしきけづくりなど、さまざまな手立てを打ってまいりました。また小規模校だからこそできる学年を超えた話し合いや学び合いの積み重ねにより、話して表現し合うこともできるようになってきました。

昨年度からのコロナ禍により、本校で大切にしている人と人との交流において、制約を余儀なくされました。今まで当たり前に実施してきた行事や教育課程を見直し、変えるべきところ、変えずに大切にしていくところなど、教職員全員で、できることを一生懸命考えてきました。学校再開後、子どもたちは友だちと再会し、一緒に学び合うことの楽しさやうれしさを、マスク越しではありますが、「からだ」と「こころ」の両方で表現していたように思います。そんな姿は、どこの学校でも見られたのではないでしょうか。学校でしか学べない大切なことはたくさんあるという原点に立ち返った私たちは、安全・安心、いのちを最優先しながら、新たな学校生活をつくりだしています。

子どもたちは地域で温かく大切に育ててもらっています。自然を大切に、友だちを大切に、さまざまなのちを大切にする心がすでに培われています。そんな自分のふるさとに誇りを持ち、未来をたくましく切り拓いていくための素地となる「気づき、考え、実行し、振り返る」実践をこれからも積み重ねてまいります。大人になったとき、自分ができることを考え実践できる、地域の担い手として活躍する姿を夢見て・・・

本研究を進めるにあたり、日本赤十字社滋賀県支部、滋賀県教育委員会、甲賀市教育委員会はじめ、関係機関の皆様に多大なご支援とご協力を賜りましたことに深く感謝いたします。

令和3年（2021年）11月19日
甲賀市立甲南第三小学校長 角出 昭子

目次

はじめに

I. 本校教育の全体像

学校経営管理計画	1
----------	---

II. 研究実践の概要

研究主題	3
------	---

特別活動年間指導計画	7
------------	---

JRC活動年間計画	8
-----------	---

実践目標に関する取組

「健康・安全」	12
---------	----

「防災」	14
------	----

「奉仕」	16
------	----

「国際理解・親善」	18
-----------	----

III. 令和2年度授業実践

ひまわり学級「国語科」	21
-------------	----

1年生「国語科」	29
----------	----

2年生「国語科」	38
----------	----

3年生「国語科」	46
----------	----

4年生「国語科」	54
----------	----

5年生「国語科」	62
----------	----

6年生「国語科」	70
----------	----

IV. 令和3年度授業実践

ひまわり学級「国語科」	81
-------------	----

6年生「国語科」	89
----------	----

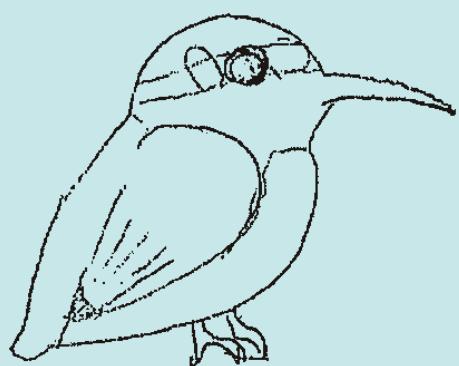
3年生「国語科」	99
----------	----

V. 研究のまとめ

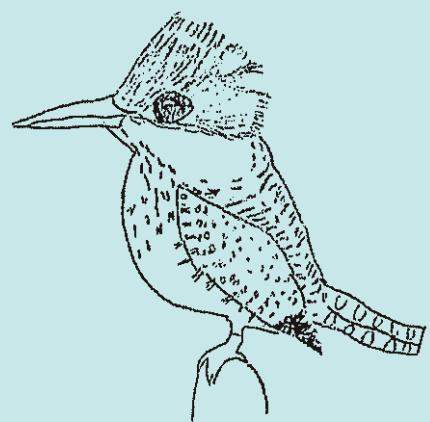
成果と課題	107
-------	-----

I. 本校教育の全体像

学校経営管理計画



カワセミ



ヤマセミ

学校教育目標：よく考え 心豊かで たくましく生きる 宮の子どもの育成

学校めざす子ども像： だいさん 大好き学び 生き生き体 Thank you, よく考える子 たくましい子 感謝の気持ち やさしい子

学校経営方針： 主体的に学び、一人ひとりが自ら輝く学校
～「気づき」「考え」「実行する」「ふり返る」～

- ◇意欲を持って行動し、主体的に学びあう学校
- ◇すこやかな心身をつくり、健康で明るい学校
- ◇互いを思いやり、あたたかい人間関係をつくる学校

豊かな心を育む
「育ち」部会

1. 「愛鳥活動」等の体験活動を通した豊かな心を育む教育の推進
 - 愛鳥の集い・野外観察会・給餌活動・学校周辺の鳥見つけ
2. 「校内人権の日」を中心とした人権教育とふれ合い交流教育の推進
 - 年6回「校内人権の日」の取組
 - 人権週間の取組・人権集会
 - 延寿会・保育園との交流
3. 自尊感情を高め、いじめや差別を許さない学校作りの推進
 - 児童会活動を中心としたいじめ未然防止の取組
 - 児童アンケートや「子どもと語る週間」での児童理解といじめの早期発見・早期対応
4. 社会性や思いやりの心を育む道徳教育の推進
 - 読み聞かせ等読書活動の推進
 - 道徳の授業公開・教材開発

確かな学力を育む
「学び」部会

1. 少人数を活かしたきめ細かな学習指導の推進
 - 個々の課題の見極めと指導の充実
 - 朝の学習・カワセミ教室（補充学習）
・漢字検定への取組と基礎基本の定着
 - 体験活動を通した学習の推進
 - 地域学習・生き方学習
 - 『ひまわり詩集』による表現指導
2. 子どもの「確かな学力」を育むための授業改善
 - 予習を活かした「一人学び」の習慣化と子ども同士の意見交流
 - 合同学習での子ども同士の学び合い
 - 『こうか授業術五箇条』の定着
3. 家庭と連携した望ましい学習・生活習慣の確立
 - 年5回「生活習慣振り返り週間」の取組
 - 年3回「家庭学習強化期間」の取組
4. 「外国語活動」を通したコミュニケーション能力の育成
 - 外国語講師・ALTとのティームティーチング
 - 国際交流機関との連携

たくましい心と体づくり
「育ち」部会

1. 「生活習慣振り返りカード」を活用した基本的生活習慣の定着
 - 家庭との連携
(早寝早起き・あいさつ・歯みがき・家庭学習・手伝い)
2. 体力作りと食育の推進
 - 体力作りの推進
 - 外遊びの推進と遊び文化の推進（昔遊び体験）
 - 栄養教諭と連携した食育指導
 - 継続的な栽培活動（カワセミ農園の活用・田んぼの学習）
3. 心身の健康の保持と健康教育の推進
 - 生活アンケートによる実態把握と保護者への啓発
 - 歯科衛生士による歯みがき指導
 - 養護教諭による保健指導
 - 「いのちの学習」「薬物乱用防止教室」「生き方学習」
 - 保健委員会による点検活動

地域力アップ

1. 学校評価を活用した学校運営の改善
 - 校報・ホームページ・学年通信等を通しての情報発信
2. 地域人材の活用と地域との連携
 - 運動会・フレンドリーシップ・梅干し作り・田んぼの子等
3. 命を守る安全教育の推進
 - 避難訓練・交通安全教室・防災教育・通学路点検等

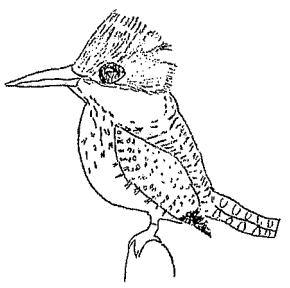
教師力アップ チーム「カワセミ！」

1. 授業力を高める校内研究や小中連携事業を通した教職員研修の充実 OJTの日常化
 - 授業研究会・職員研修の開催 ○小中合同交流会
2. 不祥事防止や資質向上を図るための教職員研修の充実
 - 体罰の根絶・いじめへの対応・保護者対応
交通事故防止・個人情報保護・I C T活用等

《チームカワセミ合言葉》

～自分で考えやってみよう！！ みんなでやりとげよう！！～
～思いやりの心をもって～

Memo



II. 研究実践の概要

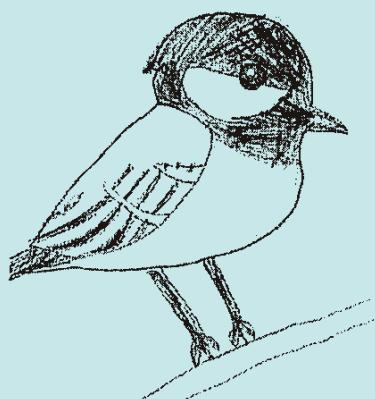
研究主題

特別活動年間指導計画

J R C活動年間計画

実践目標に関する取組

- ・「健康・安全」
- ・「防災」
- ・「奉仕」
- ・「国際理解・親善」



ヒガラ

校内研究・研修

(1) 研究主題

教科等	研究主題
国語科を主とする教科全般	「主体的に学び、対話的に考えを深めあえる子どもの育成」 ～児童の言語感覚を養い、『読み解く力』を高める指導の在り方～

(2) 主題設定の理由

本校では、平成30年度より国語科を窓口として研究を進めてきた。昨年度より全面実施となった新学習指導要領改訂の基本方針に挙げられている『主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進』にむけて国語科の授業改善を図るとともに、語彙を豊かにするための日常的な取組を全校で実施してきた。少人数校ならではの環境をいかし、児童一人ひとりの強みや弱みを分析するとともに、学習指導要領の指導事項から、単元ごとにつけたい力を絞り込み、児童の実態とつけたい力の両輪から単元計画を構想し、授業実践を行ってきた。

昨年度から二か年に渡りJRC研究委嘱校として「主体的に学び、対話的に考えを深めあえる子どもの育成～児童の言語感覚を養い、『読み解く力』を高める指導の在り方～」を研究主題とし、児童の『主体的』な姿勢と『対話的』な学びの育成について研究を行っている。具体的には主体的に学ぶための日常の取組と、『読み解く力』をはたらかせた主体的で対話的な授業のためのしきけづくりの2本の柱で研究を推進している。主体的に学ぶための日常の取組については、全教科・教育活動全般を通して「ことば」に対する資質・能力の向上を目指している。それとともに、児童自らが意思をもち、最後まで粘り強くやり通そうとする主体性を湧きあがらせるような指導者の「しきけ」づくりについて研究を進めている。

授業改善については、第Ⅱ期学ぶ力向上滋賀プランの中の視点1に挙げられている「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる「読み解く力」の視点を踏まえた授業づくりのなかの、Bの側面『主に他者とのやりとりから読み解き理解する力』について重点を置き、少人数ならではの対話的な学びの実現にむけて研究を進め、国語科で身に付けた力が他教科や教育活動全般に汎用できるようにしていきたい。

昨年度末の校内研究会のまとめの際、日常的な取組である読書活動の推進や、家庭学習の定着については一定の成果が見られるようになったことから、「見える化」の規模を縮小しつつ児童自身に読書や家庭学習の定着が進むような方法への転換が必要であるということを共通理解した。

「ことばの力」に関わる取組に関して、国語科の授業だけでは十分に補いきれない部分を補填し、児童の「ことばの力」を充実させていくためにも、一層の改善が必要であることを確認した。

授業改善については、平成30年度からの研究を継承しつつ、昨年度提供された授業について振り返り、次の授業実践にいかすための方法について検討し、再度実践する「R-P D C Aサイクル」に則った授業研究会を実施する。

これらは、JRCの態度目標である「気づき・考え・実行する」を関連させた形の取り組みである。また、学校教育目標に掲げている『主体的に学び、一人ひとりが自ら輝く学校～「気づき」「考え」「実行する」「振り返る」～』を具現化したものである。カリキュラムマネジメントの視点を踏まえ、JRCの実践目標の一つである「健康安全」の中から特に「防災」に関する内容と、国語科で身に付けた力を汎用させられるように教科横断的な学習の方法について考え、実践し振り返ることができるような研究の形をひとつのゴールとして捉え、推進していきたい。

(3) 研究の仮説

国語の授業を軸とする学校生活の中で児童の言語感覚が養われ、対話の質や量が高まれば、児童は考えを深め合うことについて意味を見出すことができ、主体的に学んでいく姿が見られるようになるだろう。

(4) 研究内容と方法

1) 主体的に学ぶための日常の取組

- ①話し合い活動の取組…学級会、委員会活動等での児童を主体とした話し合い活動の充実
- ②朝学習（ことばタイム）の改善…毎週水曜日朝学習の時間に全校または学年部単位で「ことば」の力向上のための学習継続
- ③カワセミ教室の改善…「学び①」「学び②」「ほん」「すこやか」に分かれた自主的な学びの推進
- ④ひまわり詩集の取組…正進社『話す聞くスキル』を活用した工夫読みの実施
- ⑤家庭学習チャレンジ期間の充実…各学期1回、1週間の集中的な取組の継続

2) 『読み解く力』を働かせた主体的で対話的な授業のためのしきけづくりの改善

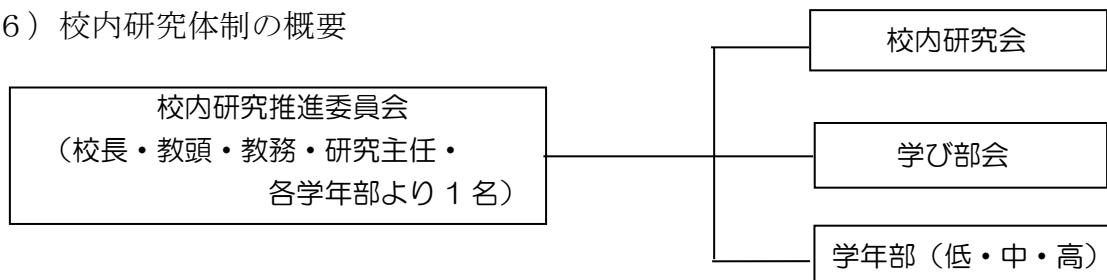
- ①付けたい力を明確化するための児童の実態把握
→指導案「児童の実態」のところに教科に関する児童の様子（得意なこと・力をつけていきたいところ等）を明記する。
- ②児童の躊躇の予想とそれに対する手立て
→昨年度の授業の成果と課題を踏まえ、読み解く力の2つの側面と3つのプロセスをもとに児童にとって難しいところはどこかを考え、それに対する手立てについて指導案に明記する。
- ③振り返りの充実
→児童が学びの実感を「ことば」にして振り返りができるように指導していく。授業者自身が児童にどのような振り返りをさせたいのか明確化するところから1時間の授業づくりを行う。
- ④児童目線での授業研究会
→児童の躊躇に対して支援が適切に働いていたか、児童がどのような場面で情報の比較ができるのか、知識が再構築できたか等『読み解く力』を働かせることができていたのかについて研究を進める。

(5) 研究・研修

- ・校内研究会については、昨年度の実践を踏まえ、特別支援学級・低学年・中学年・高学年の年間4回授業研究会を実施する。
- ・JRC研究発表大会の際には、特別支援学級・低学年・中学年・高学年それぞれ国語科と防災教育を兼ね合わせた授業公開を行う。
- ・随時OJTを実施し、授業公開や事後研究会を通して、授業改善を図る。
- ・そのほか市の授業研究会や、自己研鑽のための授業研究会を適宜実施する。

月	推進委員会・校内研究	職員研修・OJT
4	12 推進委員会 (研究の方向・計画) 28 校内研究会 (研究の方向・計画)	アレルギー対応について【松本】 個別の支援計画, 指導計画の作成【鈴木】 春の野外観察研修【外部講師】
5	17 推進委員会 (ひまわり学級指導案検討) 24 授業研究会 (ひまわり学級)	「読み解く力」伝達講習 (国語) 【寺川】
6	2 推進委員会 (6年指導案検討) 30 授業研究会 (6年)	
7	26 推進委員会 (1学期の反省・夏休み計画) 28 校内研究会 (JRC発表大会に向けて①)	
8	18 校内研究会 (JRC発表大会に向けて②) 25 校内研究会 (JRC発表大会に向けて③)	地域教材の開発【全員】 道徳教育の推進について【上田】
9	1 推進委員会 (3年指導案検討) 22 授業研究会 (3年・学ぶ力向上)	
10	20 校内研究会 (学年部指導案検討) 27 推進委員会 (学年部指導案検討)	学ぶ力向上伝達講習 (算数・外国語) 【林田・寺川】
11	10 校内研究会 (JRC発表大会に向けて④) 17 校内研究会 (JRC発表大会に向けて⑤) 19 JRC研究発表大会 (授業公開) 24 授業研究会 (1年)	
12	6 推進委員会 (JRCまとめ)	
1	26 校内研究会 (今年度の成果と課題)	冬の野外観察研修【外部講師】 不審者対応研修
2	16 校内研究会 (次年度に向けて)	
3		学校評価 (反省・次年度に向けて)

(6) 校内研究体制の概要



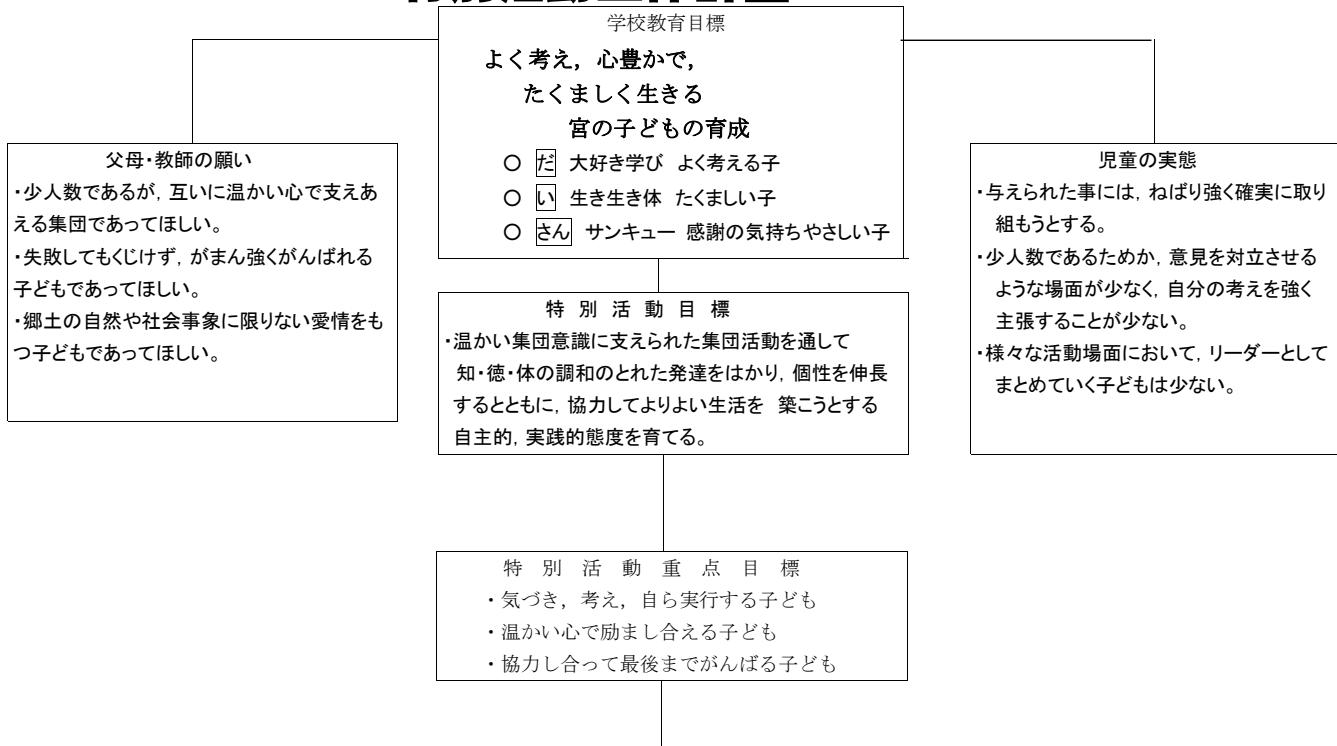
(7) 過去5年間の研究主題および指定研究歴

年 度	研 究 主 題	分 区
平成 28年度	「思いを豊かに伝え合い, 主体的・協働的に学び合う子どもの育成」 ～予習を活かした学習を通して～	市
平成 29年度	「思いを豊かに伝え合い, 主体的・協働的に学び合う子どもの育成」 ～わかる喜びと学び合う楽しさが実感できる授業をめざして～	市
平成 30年度	「思いを豊かに伝え合い, 主体的・対話的に学び合う子どもの育成」 ～「ことば」にこだわり, 互いに読みを深められる子どもをめざした授業づくり～	
令和 元年度	「思を豊かに伝えあい, 主体的・対話的に学び合う子どもの育成」 ～説明的文章を読み解くための授業づくり～	
令和 2年度	「主体的に学び, 対話的に考えを深め合える子どもの育成」 ～児童の言語感覚を養い, 『読み解く力』を高める指導の在り方～	県

国語科における「考えの形態」に関する系統的研究

特別活動全体計画

甲賀市立甲南第三小学校



学級活動	児童会活動		クラブ活動	地区別児童会	学校行事	
<u>目標</u>	<u>目標</u>		<u>目標</u>	<u>目標</u>		
・学級や学校での生活をよりよくするための課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、学級での話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに、自主的、実践的に取り組むことを通じて、資質・能力を育成することをめざす。	・異年齢の児童同士で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立てて役割を分担し、協力して運営することに自主的、実践的に取り組むことを通じて、資質・能力を育成することをめざす。		・異年齢の児童同士で協力し、共通の興味・関心を追求する集団活動の計画を立てて運営することに自主的、実践的に取り組むことを通じ、個性の伸張を図りながら、資質・能力を育成することをめざす。	・登下校や、地域での生活の仕方を話し合うことにより、安全で、地域に根ざした活動ができるることをめざす。		
<u>内容</u>	<u>内容</u>		<u>内容</u>	<u>内容</u>		
(1) 学級や学校における生活作りへの参画 ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決 イ 学級内の組織作りや役割の自覚 ウ 学校における多様な集団の生活の向上 (2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 ア 基本的な生活習慣の形成 イ よりよい人間関係の形成 ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成 エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現 ア 現在や将来に希望や目標を持って生きる意欲や態度の形成 イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解 ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用	<p>児童会活動</p> <p>委員会活動</p> <p>ねら ね ら い ら い</p> <p>学校の仕事をみんなで分担し、やりとげ充実した学校生活を送る。 (年間9回)</p>		<p>児童総会</p> <p>(R3年度実施クラブ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aクラブ ・うしとらクラブ <p>内容</p> <p>年間10回の活動で、児童中心で内容を決め活動する。</p>	<p>地区別児童会</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・馬杉（上・下） ・野川（上・下） ・柑子 <p>内容</p> <p>学期ごとに、反省や予定を話し合い、実践していく。</p>	<p>学校行事</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校又は学年の児童で協力し、よりよい学校生活を気づくための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養いながら、資質・能力を育成することをめざす。 <p>内容</p> <p>儀式的行事 文化的行事 健康安全・体育の行事 遠足・集団宿泊の行事 勤労生産・奉仕の行事</p>	

JRC活動年間計画（健康・安全・防災〈★〉）

	1学期	2学期	3学期
全校	学級の鳥とめあてを考えよう（学）	2学期の計画（学）	3学期の計画（学）
	交通安全教室【歩行】（行）	避難訓練【地震が起きたら】（行）	避難訓練【不審者対応】
	避難訓練【火事が起きたら】（行）	交通安全教室【自転車】（行）	全校遊び（児）
	歯科検診・ブラッシング指導（行）	第三地域学区民運動会（行・体）	地区別児童会（児）
	新体力テスト（体）	歯科検診・ブラッシング指導（行）	春休みの過ごし方（学）
	雨の日を楽しく過ごそう（学）	持久走大会・業間マラソン（体）	生活習慣振り返り
	プールでのきまり（学・体）	全校あそび（児）	
	救急救命法講習会（行）	地区別児童会（児）	
	水難防止教室（体）	冬休みの計画を立てよう（学）	
	夏休みの過ごし方（学）	生活習慣振り返り	
	全校あそび（児）		
	地区別児童会（児）		
1年	ハンカチ・はなかみ・爪チェック（児）		
	生活習慣振り返り		
	おいしいたのしいきゅうしょく（学）	〈★〉 じしんがおこったら（学）	じぶんできれいにしよう（学）
	〈★〉 なにをしているのかな（道）		〈★〉 はしれさんりくてつどう（道）
2年	きをつけてあるこう（学）		
	じょうぶな体（学）	すききらいなく食べよう（学）	早ね早起き（学）
	もぐもぐきゅうしょく（学）	〈★〉 あぶないよ（道）	手あらいうがいでげん気いっぱい（学）
3年		目の健康と姿勢（学）	〈★〉 助かった命（道）
		パワーいっぱい！朝ごはん（学）	毎日の生活と健康（保）
		安全なくらしを守る（社）	
		〈★〉 宮の防災マップを作ろう（総）	

JRC活動年間計画（健康・安全・防災〈★〉）

	1学期	2学期	3学期
全校	学級の鳥とめあてを考えよう（学）	2学期の計画（学）	3学期の計画（学）
	交通安全教室【歩行】（行）	避難訓練【地震が起こったら】（行）	避難訓練【不審者対応】
	避難訓練【火事が起きたら】（行）	交通安全教室【自転車】（行）	全校遊び（児）
	歯科検診・ブラッシング指導（行）	第三地域学区民運動会（行・体）	地区別児童会（児）
	新体力テスト（体）	歯科検診・ブラッシング指導（行）	春休みの過ごし方（学）
	雨の日を楽しく過ごそう（学）	持久走大会・業間マラソン（体）	生活習慣振り返り
	プールでのきまり（学・体）	全校あそび（児）	
	救急救命法講習会（行）	地区別児童会（児）	
	水難防止教室（体）	冬休みの計画を立てよう（学）	
	夏休みの過ごし方（学）	生活習慣振り返り	
	全校あそび（児）		
	地区別児童会（児）		
4年	ハンカチ・はなかみ・爪チェック（児）		
	生活習慣振り返り		
	ケータイ・スマホ教室（学）	〈★〉お父さんのじまん（道）	いのちの学習（学・総）
		滋賀県の自然災害（社）	食べ物の働きを知ろう（学・理）
		〈★〉宮の防災マップを作ろう（総）	育ちゆく体とわたし（保）
5年	ケータイ・スマホ教室（学）	栄養バランスを考えた食事（学・家）	成長するわたしの心と体（学・理）
	健康で楽しい毎日（学・保）	雲と天気の変化（理）	自然災害から人々を守る（社）
	フローティングスクール（理）	流れる水の働き（理）	
	〈★〉えがおの力（道）		
	台風と気象情報（理）		
	さまざまな土地のくらし（社）		
6年	ケータイ・スマホ教室（学）	運動会の合言葉を決めよう（学）	ストレスとの上手な付き合い方（学・保）
	日常に隠れた危険（学）	目の愛護について（学・保）	これからの日本とわたしたち（社）
	自然災害からの復旧や復興の取り組み（社）	食を考える（学・家）	
		〈★〉ぼくたちの学校（道）	
		大地のつくりと変化（理）	

JRC活動年間計画（奉仕）

		1学期	2学期	3学期
全校	係や当番の仕事を決めよう（学）	係を決めて活動しよう（学）	係を決めて活動しよう（学）	
	掃除のしかた（学）	2学期の計画（学）	3学期の計画（学）	
	おたっしゃ広場（行）	草引き大会（児）	給食に感謝しよう（学・児）	
	クリーン作戦（学）	ゴミ〇運動（学）	ふれあい交流（学）	
	夏休みの過ごし方（学）	赤い羽根募金（児）	ペットボトルキャップ・ブルトップ回収	
	愛校作業	冬休みの計画を立てよう（学）	生活習慣振り返り	
	ペットボトルキャップ・ブルトップ回収	ペットボトルキャップ・ブルトップ回収		
	生活習慣振り返り	生活習慣振り返り		
1年	ひとりひとりのしごと（学）	ひとりひとりのしごと（学）	ひとりひとりのしごと（学）	
		いつもぴかぴかそうじうばん（学）	120てんのそうじ（道）	
2年	2年生になって（学）	教室をうつくしく（学）	六そう会を せいこうさせよう（学・生）	
		ボランティア活どう（学）	ボランティア活どう（学）	
		学きゅうのために（学）		
3年		ボランティア活どう（学）		
		学級のみんなのために（学）		
4年	クラブや委員会について考えよう（学）	ネコの手ボランティア（道）		
	掃除に学ぶ会（学）			
5年	クラブや委員会について考えよう（学）	わたしの役割（学）		
	掃除に学ぶ会（学）			
	フローティングスクール（総）			
6年	クラブや委員会について考えよう（学）	ボランティア活動（学）	6年間を振り返って（学）	
	学校のリーダーとして（学）	自分の役割って何だろう（学）	愛校作業（学）	
	掃除に学ぶ会（学）			

JRC活動年間計画（国際理解・親善）

		1学期	2学期	3学期
全校	全校遊び・たてわり遊び（児）	全校遊び・たてわり遊び（児）	全校遊び・たてわり遊び（児）	
	児童総会（児）	親子人権教室（学）	6年生を送る会（行）	
	JRC結団式（児）	フレンドリーシップ（行・総）	ふれあい交流（学）	
	外国語活動・外国語（外）	外国語活動・外国語（外）	ミシガン州中学生との交流会（学・外）	
	おたっしゃ広場（行）		外国語活動・外国語（外）	
1年	きょうから 1ねんせい（学）	ちいきのかたにおしえてもらおう（教科）	あたらしい 1ねんせいを むかえよう（学・生）	
	がっこうは たのしいね（学）		六そう会を せいこうさせよう（学・生）	
	1ねんせいに なって（学）			
	げんきに おはようございます（学）			
2年	2年生になって（学）	名まえを きちんと よぼう（学）	六そう会を せいこうさせよう（学・生）	
	げん気に あいさつを しよう（学）			
3年	1日のあいさつ（学）	男女仲良く（学）	六そう会を せいこうさせよう（学・総）	
		ふわふわ言葉をいっぱい使おう（学）		
4年	あいさつを使い分けよう（学）	言葉づかいを考えよう（学）	六送会の準備をしよう（学・総）	
	自分や友だちのよいところさがし（学）	友だちを大切にしよう（学）		
	やまのこ学習（総・理）	3校交流学習（学・教科）		
5年	クラブや委員会について考えよう（学）	一人ひとりが輝く運動会（学・体）	六送会の準備をしよう（学・総）	
	男女が仲良く（学）	人権について（学・道）	新入児1日入学を成功させよう（総）	
	気持ちのこもったあいさつ（学）	5・5交流（学・総）		
	フローティングスクール（総・理）	3校交流学習（学・教科）		
	ミシガン大学との交流会（学・外）	フレンドリーシップでおもてなしをしよう（家）		
6年	クラブや委員会について考えよう（学）	一人ひとりが輝く運動会（学・体）	六送会に向けて（学・総）	
	人間関係をつくるあいさつ（学）	人権について（学・道）	6年間を振り返って（学）	
	男子と女子、力を合わせて（学）	3校交流学習（学・教科）		
	3校交流学習（学・教科）	フレンドリーシップでおもてなしをしよう（家）		
	ミシガン大学との交流会（学・外）			

JRC 実践目標『健康・安全』に関する取組

水難防止教室

本校では水泳学習の一環として、命を守るための水難防止教室を行っています。例年であれば、講師の先生に招き、全校児童でライフジャケットの重要性を学び、実際に着用した状態で浮く活動を実施しています。昨年度は、水泳学習が中止となり、今年度も規模を縮小しての水泳学習となったため、児童の実態に即して、校内で学年部ごとの実施となりました。

今年度は着衣泳を行ったり、ペットボトルなどの身近にあるものを使って、おぼれてしまった時の対処の仕方を学んだりしました。体操服1枚でも水を吸うとともに重たくなることを肌で感じることができ、慌てず力を抜いて浮くことが大切であると実感することができました。また、溺れている人を見つけた時には、近くの大人を呼ぶことや、自分で助けにいかず、周りにある身近なものを投げ入れることが効果的であることも学びました。



救急救命講習会

いのちを守る学習の一環として、毎年日本赤十字の方による『救急救命講習会』を行っています。例年、全校児童と保護者が一緒に講習会を行い、倒れている人を発見した時の適切な行動を学んだり、AEDや「あっぱくん」を用いての心肺蘇生法などを学習したりしています。今年度はコロナウイルス感染拡大防止のために、5・6年生の児童とその保護者のみ実技を行うこととなり、1~4年生の児童とその保護者はまわりで見学することになりました。

たおれている人を見つけた時の行動や、心臓マッサージを行う際の手順などを実践することで、周りの力をかりることの重要性や、心肺蘇生は思ったよりも力がいることに気づき、救急救命に対する知識を深めることができました。

1~4年生の児童・保護者も講師の先生の話を聞き、高学年の児童や保護者が実践する様子をよく見て、どうすれば人のいのちを守ることができるかを考えることができました。



生活習慣振り返り週間

健康で規則正しい生活が送れるよう、家庭と協力し、2～3か月おきに生活を見直す週間を設けています。『早寝・早起き』『あいさつ』『歯みがき・洗顔』『お手伝い・仕事』『その他がんばりたいこと(各自で決める)』の5項目をおうちの人と一緒にチェックしていきます。集計結果から見えてきた課題によって、あいさつの呼びかけを6年生が行ったり、歯科衛生士さんを招いて、ブラッシング指導を受けたりと生活習慣の改善に向けた取組も行っています。

生活習慣振り返り週間カード		名前
1. お手洗い	○	○
2. 朝ごはん	○	○
3. お手伝い	○	○
4. お風呂	○	○
5. お寝かせ	○	○
6. お手洗い	○	○
7. 朝ごはん	○	○
8. お手伝い	○	○
9. お風呂	○	○
10. お寝かせ	○	○
11. お手洗い	○	○
12. 朝ごはん	○	○
13. お手伝い	○	○
14. お風呂	○	○
15. お寝かせ	○	○
16. お手洗い	○	○
17. 朝ごはん	○	○
18. お手伝い	○	○
19. お風呂	○	○
20. お寝かせ	○	○
21. お手洗い	○	○
22. 朝ごはん	○	○
23. お手伝い	○	○
24. お風呂	○	○
25. お寝かせ	○	○
26. お手洗い	○	○
27. 朝ごはん	○	○
28. お手伝い	○	○
29. お風呂	○	○
30. お寝かせ	○	○
31. お手洗い	○	○
32. 朝ごはん	○	○
33. お手伝い	○	○
34. お風呂	○	○
35. お寝かせ	○	○
36. お手洗い	○	○
37. 朝ごはん	○	○
38. お手伝い	○	○
39. お風呂	○	○
40. お寝かせ	○	○
41. お手洗い	○	○
42. 朝ごはん	○	○
43. お手伝い	○	○
44. お風呂	○	○
45. お寝かせ	○	○
46. お手洗い	○	○
47. 朝ごはん	○	○
48. お手伝い	○	○
49. お風呂	○	○
50. お寝かせ	○	○
51. お手洗い	○	○
52. 朝ごはん	○	○
53. お手伝い	○	○
54. お風呂	○	○
55. お寝かせ	○	○
56. お手洗い	○	○
57. 朝ごはん	○	○
58. お手伝い	○	○
59. お風呂	○	○
60. お寝かせ	○	○
61. お手洗い	○	○
62. 朝ごはん	○	○
63. お手伝い	○	○
64. お風呂	○	○
65. お寝かせ	○	○
66. お手洗い	○	○
67. 朝ごはん	○	○
68. お手伝い	○	○
69. お風呂	○	○
70. お寝かせ	○	○
71. お手洗い	○	○
72. 朝ごはん	○	○
73. お手伝い	○	○
74. お風呂	○	○
75. お寝かせ	○	○
76. お手洗い	○	○
77. 朝ごはん	○	○
78. お手伝い	○	○
79. お風呂	○	○
80. お寝かせ	○	○
81. お手洗い	○	○
82. 朝ごはん	○	○
83. お手伝い	○	○
84. お風呂	○	○
85. お寝かせ	○	○
86. お手洗い	○	○
87. 朝ごはん	○	○
88. お手伝い	○	○
89. お風呂	○	○
90. お寝かせ	○	○
91. お手洗い	○	○
92. 朝ごはん	○	○
93. お手伝い	○	○
94. お風呂	○	○
95. お寝かせ	○	○
96. お手洗い	○	○
97. 朝ごはん	○	○
98. お手伝い	○	○
99. お風呂	○	○
100. お寝かせ	○	○
101. お手洗い	○	○
102. 朝ごはん	○	○
103. お手伝い	○	○
104. お風呂	○	○
105. お寝かせ	○	○
106. お手洗い	○	○
107. 朝ごはん	○	○
108. お手伝い	○	○
109. お風呂	○	○
110. お寝かせ	○	○
111. お手洗い	○	○
112. 朝ごはん	○	○
113. お手伝い	○	○
114. お風呂	○	○
115. お寝かせ	○	○
116. お手洗い	○	○
117. 朝ごはん	○	○
118. お手伝い	○	○
119. お風呂	○	○
120. お寝かせ	○	○
121. お手洗い	○	○
122. 朝ごはん	○	○
123. お手伝い	○	○
124. お風呂	○	○
125. お寝かせ	○	○
126. お手洗い	○	○
127. 朝ごはん	○	○
128. お手伝い	○	○
129. お風呂	○	○
130. お寝かせ	○	○
131. お手洗い	○	○
132. 朝ごはん	○	○
133. お手伝い	○	○
134. お風呂	○	○
135. お寝かせ	○	○
136. お手洗い	○	○
137. 朝ごはん	○	○
138. お手伝い	○	○
139. お風呂	○	○
140. お寝かせ	○	○
141. お手洗い	○	○
142. 朝ごはん	○	○
143. お手伝い	○	○
144. お風呂	○	○
145. お寝かせ	○	○
146. お手洗い	○	○
147. 朝ごはん	○	○
148. お手伝い	○	○
149. お風呂	○	○
150. お寝かせ	○	○
151. お手洗い	○	○
152. 朝ごはん	○	○
153. お手伝い	○	○
154. お風呂	○	○
155. お寝かせ	○	○
156. お手洗い	○	○
157. 朝ごはん	○	○
158. お手伝い	○	○
159. お風呂	○	○
160. お寝かせ	○	○
161. お手洗い	○	○
162. 朝ごはん	○	○
163. お手伝い	○	○
164. お風呂	○	○
165. お寝かせ	○	○
166. お手洗い	○	○
167. 朝ごはん	○	○
168. お手伝い	○	○
169. お風呂	○	○
170. お寝かせ	○	○
171. お手洗い	○	○
172. 朝ごはん	○	○
173. お手伝い	○	○
174. お風呂	○	○
175. お寝かせ	○	○
176. お手洗い	○	○
177. 朝ごはん	○	○
178. お手伝い	○	○
179. お風呂	○	○
180. お寝かせ	○	○
181. お手洗い	○	○
182. 朝ごはん	○	○
183. お手伝い	○	○
184. お風呂	○	○
185. お寝かせ	○	○
186. お手洗い	○	○
187. 朝ごはん	○	○
188. お手伝い	○	○
189. お風呂	○	○
190. お寝かせ	○	○
191. お手洗い	○	○
192. 朝ごはん	○	○
193. お手伝い	○	○
194. お風呂	○	○
195. お寝かせ	○	○
196. お手洗い	○	○
197. 朝ごはん	○	○
198. お手伝い	○	○
199. お風呂	○	○
200. お寝かせ	○	○
201. お手洗い	○	○
202. 朝ごはん	○	○
203. お手伝い	○	○
204. お風呂	○	○
205. お寝かせ	○	○
206. お手洗い	○	○
207. 朝ごはん	○	○
208. お手伝い	○	○
209. お風呂	○	○
210. お寝かせ	○	○
211. お手洗い	○	○
212. 朝ごはん	○	○
213. お手伝い	○	○
214. お風呂	○	○
215. お寝かせ	○	○
216. お手洗い	○	○
217. 朝ごはん	○	○
218. お手伝い	○	○
219. お風呂	○	○
220. お寝かせ	○	○
221. お手洗い	○	○
222. 朝ごはん	○	○
223. お手伝い	○	○
224. お風呂	○	○
225. お寝かせ	○	○
226. お手洗い	○	○
227. 朝ごはん	○	○
228. お手伝い	○	○
229. お風呂	○	○
230. お寝かせ	○	○
231. お手洗い	○	○
232. 朝ごはん	○	○
233. お手伝い	○	○
234. お風呂	○	○
235. お寝かせ	○	○
236. お手洗い	○	○
237. 朝ごはん	○	○
238. お手伝い	○	○
239. お風呂	○	○
240. お寝かせ	○	○
241. お手洗い	○	○
242. 朝ごはん	○	○
243. お手伝い	○	○
244. お風呂	○	○
245. お寝かせ	○	○
246. お手洗い	○	○
247. 朝ごはん	○	○
248. お手伝い	○	○
249. お風呂	○	○
250. お寝かせ	○	○
251. お手洗い	○	○
252. 朝ごはん	○	○
253. お手伝い	○	○
254. お風呂	○	○
255. お寝かせ	○	○
256. お手洗い	○	○
257. 朝ごはん	○	○
258. お手伝い	○	○
259. お風呂	○	○
260. お寝かせ	○	○
261. お手洗い	○	○
262. 朝ごはん	○	○
263. お手伝い	○	○
264. お風呂	○	○
265. お寝かせ	○	○
266. お手洗い	○	○
267. 朝ごはん	○	○
268. お手伝い	○	○
269. お風呂	○	○
270. お寝かせ	○	○
271. お手洗い	○	○
272. 朝ごはん	○	○
273. お手伝い	○	○
274. お風呂	○	○
275. お寝かせ	○	○
276. お手洗い	○	○
277. 朝ごはん	○	○
278. お手伝い	○	○
279. お風呂	○	○
280. お寝かせ	○	○
281. お手洗い	○	○
282. 朝ごはん	○	○
283. お手伝い	○	○
284. お風呂	○	○
285. お寝かせ	○	○
286. お手洗い	○	○
287. 朝ごはん	○	○
288. お手伝い	○	○
289. お風呂	○	○
290. お寝かせ	○	○
291. お手洗い	○	○
292. 朝ごはん	○	○
293. お手伝い	○	○
294. お風呂	○	○
295. お寝かせ	○	○
296. お手洗い	○	○
297. 朝ごはん	○	○
298. お手伝い	○	○
299. お風呂	○	○
300. お寝かせ	○	○
301. お手洗い	○	○
302. 朝ごはん	○	○
303. お手伝い	○	○
304. お風呂	○	○
305. お寝かせ	○	○
306. お手洗い	○	○
307. 朝ごはん	○	○
308. お手伝い	○	○
309. お風呂	○	○
310. お寝かせ	○	○
311. お手洗い	○	○
312. 朝ごはん	○	○
313. お手伝い	○	○
314. お風呂	○	○
315. お寝かせ	○	○
316. お手洗い	○	○
317. 朝ごはん	○	○
318. お手伝い	○	○
319. お風呂	○	○
320. お寝かせ	○	○
321. お手洗い	○	○
322. 朝ごはん	○	○
323. お手伝い	○	○
324. お風呂	○	○
325. お寝かせ	○	○
326. お手洗い	○	○
327. 朝ごはん	○	○
328. お手伝い	○	○
329. お風呂	○	○
330. お寝かせ	○	○
331. お手洗い	○	○
332. 朝ごはん	○	○
333. お手伝い	○	○
334. お風呂	○	○
335. お寝かせ	○	○
336. お手洗い	○	○
337. 朝ごはん	○	○
338. お手伝い	○	○
339. お風呂	○	○
340. お寝かせ	○	○
341. お手洗い	○	○
342. 朝ごはん	○	○
343. お手伝い	○	○
344. お風呂	○	○
345. お寝かせ	○	○
346. お手洗い	○	○
347. 朝ごはん	○	○
348. お手伝い	○	○
349. お風呂	○	○
350. お寝かせ	○	○
351. お手洗い	○	○
352. 朝ごはん	○	○
353. お手伝い	○	○
354. お風呂	○	○
355. お寝かせ	○	○
356. お手洗い	○	○
357. 朝ごはん	○	○
358. お手伝い	○	○
359. お風呂	○	○
360. お寝かせ	○	○
361. お手洗い	○	○
362. 朝ごはん	○	○
363. お手伝い	○	○
364. お風呂	○	○
365. お寝かせ	○	○
366. お手洗い	○	○
367. 朝ごはん	○	

JRC 実践目標 『防災』 に関する取組

避難訓練 消火器体験

1学期は、火災を想定した避難訓練を行っています。今年度は、家庭科室から火災が起きたという想定での訓練でした。中庭へ一次避難し安全を確保した後、グラウンドへ二次避難をしました。実際の災害はどんなことが起こるかわかりません。これで大丈夫と気を抜かずに、より安全な方法を常に考えながら避難することがいのちを守ることにつながると実感しました。グラウンドへ避難完了後甲賀消防署より消防士さんを招き、消火器の使い方も学びました。

何気なく見ている消火器も、いざ手に取ってみるとどうやって使うのだろうとためらってしまうことがあるかもしれません。普段から、火災が起きたらどうするのか、どこから避難するのかを意識しながら生活していくと身を引き締めることができました。



避難訓練 起震車体験

2学期は、地震を想定した避難訓練を行っています。一昨年度は甲南消防署より消防士さんを招き、体育館へ避難完了後、地震が起きたときの避難のしかたについて学びました。起震車を使った地震体験も行い、実際の揺れを体験しながら、身を守る方法を学習しました。また、職員も起震車に乗り、実際の揺れを体験することで、子どもたちを守るためにどんな行動をとらなければならないのか再確認することができました。

いつどこで地震が起くるかわかりません。いつ起こっても自分のいのちを守ることができるよう、普段から備えておくことが大切だと改めて気づきました。



防災教室

地域の方にも参加をよびかける学校行事「フレンドリーシップ」では、3年に1度、防災についての取組をしています。前回は、「避難所体験～災害救助用炊飯袋を使っての炊飯体験をしよう～」「災害に備えよう～ハザードマップで避難場所や災害危険地域を確認しよう・防災グッズを知っていますか？～」「スマート体験～煙の中を避難するには・・・～」「防災倉庫見学」「災害救護テント生活体験」「クロスロード～もしも宮地区で災害が起こったら・・・～」を行いました。災害に備えて自分たちが知っておくべきことや準備しておくべきこと、避難場所でのさまざまな価値観の人との過ごし方などについて考えるきっかけとなりました。



はじめよう 防災

4年生では、総合的な学習の時間に「はじめよう 防災」の学習をします。社会科の「滋賀県の自然災害」の学習と関わらせ、自分たちの住む宮地域について、今後起こり得る災害の予測や災害に対する施設や設備、緊急時への備えや対応について調べます。調べたことは、防災マップにまとめます。そして、地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることを考えます。普段意識していなかった危険や安全のための取組に気づき、子どもたちの防災に対する意識も変わりました。



JRC 実践目標『奉仕』に関する取組

クリーン作戦・ゴミ〇運動

クリーン作戦は、毎年7月1日『びわ湖の日』琵琶湖一斉清掃に合わせて、校内でいつもは手の行き届かない部分を掃除します。毎週火・木・金曜日の掃除だけでは行き届かない部分を美しくすることで、身の回りを整えることの重要性に気づくことができます。また、「掃除をすることは自分の心を磨くこと」にもつながる第一歩となっています。

ゴミ〇運動は毎年10月下旬に、子どもたちと教職員が一緒に通学路を歩きながら、ゴミ拾いをします。日頃の通学では気づかないところにも目を配りながら歩くことで、道端に落ちているゴミにも気づくことができます。また、いつもお世話になっている宮地区の方々にむけた地域貢献のひとつにもなっています。



掃除に学ぶ会

毎年、『滋賀掃除に学ぶ会』の方を招き、4・5・6年生が参加して学校中のトイレ掃除をしています。トイレ掃除を通して当たり前のことの大切にする『凡事徹底』の重要性を学んでいます。

トイレは汚いところ、掃除は面倒くさいものと思いがちですが、正しい掃除の仕方や道具の使い方を学ぶことで、「掃除をすることの意味」を理解できるようになります。この活動を通して子どもたちは「いっしょにがんばることは心地よいこと」を体感し、学習の終了が近づくにつれ膝をついて便器をピカピカに磨く子どもの姿も見られるようになります。

学習の最後には、子どもたち一人ひとりがトイレ掃除を通して学んだことを振り返ります。「最初は嫌だと思っていたけれど、掃除しているうちに便器がきれいになっていくと、だんだん掃除が楽しくなってきた。」と子どもたちの中に心情の変化が生まれていることがわかります。



草引き大会

本校には、緑に囲まれた大きなグラウンドがあります。このグラウンドでは、地域の方と一緒に学区民運動会を実施しています。運動会前には、グラウンドに生えた草を抜く作業が必要になります。執行委員会の子どもたちが中心となって、環境を整えるために夏休みに全校で草引き大会を実施しています。4つのチームに分かれて一輪車いっぱいになるまで、草を抜きます。一輪車いっぱいの雑草を見た子どもたちは達成感にあふれた表情をしています。



愛校作業

本校は、環境整備作業も全校児童・保護者そして、地域の方々と一緒に実施しています。夏休みに登校日を設け、2学期から快適な学校生活が送れるように全員が協力して、グラウンドや中庭、学校周辺の草刈りや、窓ふきなどの作業をします。



地域と連携しながら

本校では、地域とのつながりを大切にしています。学習でお世話になっている第三地域市民センターさんには、学校で育てたサルビアやマリーゴールドなど花の苗を届けたり、児童の作品を届けたりして、学校の様子を地域の方へ発信しています。

また、やまなみ工房さんの取組に協力するために、ペットボトルキャップやプルトップの回収も行っています。執行委員会の子どもたちは、活動の中でペットボトル回収の意味を紹介したり、やまなみ工房さんへの引き渡しのお手伝いをしたりしています。



JRC 実践目標 『国際理解・親善』に関する取組

おたっしゅ広場

おたっしゅ広場は、子どもたちが地域の方と交流することによって、先輩の知恵を学び、地域の良さを知り、地域の一員として支えられていることに気づいたり、さまざまな人との交流によって地域・地域の人の大切にする心を育てたりすることを目的に実施しています。

各地区でその年の貼り絵にするモデルの鳥を学校で決めます。3・4年生が主体となり、決定した鳥に必要な色を和紙で作成します。その和紙等を地域に持つていき、地域の人と一緒にみんなで力を合わせて、鳥の貼り絵をします。一緒にしていただいたお礼に肩たたきもします。どの地区も出来上がった鳥の貼り絵作品は、公民館や集会所に大切に展示してくださっています。いつも温かいほのぼのとした時間が流れています。



ふれあい交流

毎年、子どもたちが延寿会の方と交流することによって、先輩の知恵や技術を学ぶ機会をもっています。この年は、延寿会の方々に来校いただき、一緒に「おじゃビンゴ」をしました。

お互いに初めは緊張気味ですが、自己紹介をしていただき、一緒に「おじゃビンゴ」をする中で会話も弾んでいきます。1年生からお年寄りまで楽しめる「おじゃビンゴ」は、みんなを笑顔にしてくれます。

交流会の最後には、子どもたちを代表して6年生がお礼を言ったり、お礼の肩たたきをしたりして1時間の交流を振り返ります。

『わたしは、おじいちゃん、おばあちゃんとおじゃビンゴをして楽しかったです。おじゃビンゴをいっしょにしていたら、いつのまにかなかなかよくなり、話せるようになったのでうれしかったです。』(子どもの作文より)



ミシガン大学との国際交流

毎年、甲賀市にはミシガン大学の留学生が来日します。その活動の1つとして市内の子どもたちと一緒に作陶をする体験があります。

学校の特色である「愛鳥」を生かし、子どもたち一人ひとりが好む鳥をモチーフにした作品をミシガン大学の方と一緒に共同で制作します。自分の思いや考えを簡単な英語や身振り手振りで伝え、コミュニケーションを図っていきます。

「どんな形にしたい?」「もう少し大きいほうがいいー。」「やったー、できた~。」自分の思いがうまく伝わった時の楽しさや嬉しさを感じ、自然と緊張感が解け、笑顔があちらこちらで見られます。心を合わせて、素敵な作品が次々に出来上がっていきます。どの子も達成感・充実感を味わうことができています。



ミシガン州中学生との国際交流

甲賀市の中学生は、姉妹都市アメリカ・ミシガン州との交換留学をしています。本校でも毎年交流を続けています。交換留学生の方々に自己紹介をしてもらい、交流を始めます。折り紙をしたり、福笑いをしたり、ゲームをしたりと楽しい活動が続ります。

活動の中では、普段学習している外国語を使いながら「Please look!」「What is this?」「もっとRight Right!」など楽しそうな声が聞こえてきます。

さまざま活動を通して、交流の終わりをむかえるころにはすっかり打ち解けた様子が見られます。最後は、みんなでアーチを作つてお見送りをします。お別れするのはとても名残惜しいですが、どの子も笑顔で見送る姿が見られます。



フレンドリーシップでの地域交流

毎年、フレンドリーシップでは、地域の方々から学んだことをそれぞれの学年に応じて発表します。その後、地域の方々と交流します。

子どもたちが米作り体験で収穫したお米と学級菜園で栽培した野菜を使った昼食も準備しています。豚汁づくりは、高学年児童が計画、材料調達、調理実習を進めていきます。保護者の方の協力を得て大人数分の豚汁が出来上がります。みんなでいただくおいしい昼食の時間です。

午後からは、地域の方と一緒にニュースポーツや防災学習などの体験をします。子どもから大人までとても楽しいひと時です。



国際理解教育

令和2年度は、フレンドリーシップの後半に親子人権教室を開催しました。『「国際理解」10ヶ国の方々と交流しよう』をテーマに、中国・インド・アメリカ・韓国・イギリス・インドネシア・ブラジル・フィリピン・ロシア・ペルー出身の方々に集まっていただきました。お一人おひとりから自己紹介をしてもらい、言葉を学びました。非識字体験ゲーム「ここは、何色？」をしながら、さまざまな国の方々と交流していきます。教えてもらった読み方と色を組み合わせると、絵が浮かんできます。最後には「ふるさと」を全員で合唱し、言葉は違っていても「ふるさと」を大切に思う心は同じだということを再確認しました。



III. 令和2年度授業実践

ひまわり学級「国語科」

1年生「国語科」

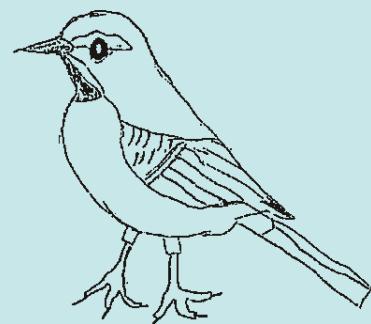
2年生「国語科」

3年生「国語科」

4年生「国語科」

5年生「国語科」

6年生「国語科」



キセキレイ

ひまわり学級 国語科 実践事例

日時：令和2年7月1日 5校時

指導者：鈴木 健悟

1. 単元名 楽しいゲームを紹介しよう～先生たちと“ワードウルフ”で遊ぼう～

2. めざす子どもの姿

(1) この単元で身に付けさせたい個別の力 (単元目標)

- ・相手に伝わるように、話す事柄の順序に気を付け具体例を挙げながらゲームのルールが説明できる。
- ・相手に伝わるように、話す事柄の順序に気を付け、必要な事柄を落とさずにゲームのルール説明ができる。
- ・自分が負けたり、うまくいかなかったりしてもすねずに気持ちを切り替えることができる。(自立)

(2) 身に付けさせたい力に関する子どもの実態

本学級の児童は明るく元気な性格であり、人と接することが大好きである。休み時間には交流学級の友だちを交えて楽しく遊べており、学校再開後も明るく過ごしている。学習課題は、自分の思いや言いたいことを相手にわかりやすく伝える力が弱いということだった。そのため、本学級では毎週月曜日に「お休みトーク」を行っている。休日の過ごし方を互いに伝え合うことで、相手にわかりやすく休日の過ごし方を説明したり、相手の話を聞いて、気になったことやもっと知りたいことについて、質問したりする力を養ってきた。まだ始めて間もなかったが、意欲をもって話ができていた。意欲を高めるため、教師自身もスピーチをすることで、質問することへの意欲が高まってきた。

3. 題材の特質と学びのつながりを生む単元構成の工夫 (教材と指導について)

本単元は、国語科学習指導要領解説（平成29告示）第3学年及び第4学年

1. 知識及び技能

日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようとする。

2. 思考力、判断力、表現力 A 話すこと・聞くこと

(2) 筋道を立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人の関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようとする。

- ア 目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。
- イ 相手に伝わるように、理由や事例を挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。
- ウ 話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。

言語活動

- ア 説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたり、それらを聞いたりする活動。
- ウ 互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。

1. 知識及び技能

日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようとする。

2. 思考力、判断力、表現力 A 話すこと・聞くこと

(2)順序だてて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようとする。

- ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。
- イ 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。
- ウ 伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。
- オ 互いの話に关心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。

言語活動

- ア 紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。
- イ 尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。

に基づいて構成したものである。本単元では、言葉をテーマにしたゲームを教材とし、交流学級の児童や学校の教師にそのゲームの楽しさを伝え、楽しく言葉遊びを行うことを学習のゴールとした。児童にとっては楽しい遊びの活動であるが、ゲーム大会を開催するためには、ゲームのルールをわかりやすく相手に説明する力が必要不可欠であった。児童の実態でも述べたように、本学級の児童は「相手にわかりやすく伝える力」にそれぞれの課題を抱えており、自分たちのゲーム大会を成功させるという目的意識をもつことで、どのように説明すれば相手は理解してくれるのかを主体的に考えることを狙いとした。本学級では毎週月曜日の生活単元学習で「お休みトーク」を行い、休日の過ごし方をスピーチする時間を設けていたが、開始して2週目であったため、不慣れな部分も多く、説明能力に個人差も大きかった。相手によりわかりやすく伝える力を養うため、今回の単元での学習を通して、どのように言えば相手により伝わるのかを考えさせていくことをめあてとした。

また、休み時間に「ワードウルフ」を楽しんでいたが、様子を見ていると、語彙数にも大きな個人差が見られた。今回の単元では、ゲームをより楽しむために事前にお題となる言葉についてマッピングなどを用い、お題となる言葉の特徴を表す表現を考えさせることで語彙を増やしたり、相手の話している内容との相違に気づいたりできるように支援した。

4. 校内研究と関わって

「主体的に学び、対話的に考えを深め合える子どもの育成」
～児童の言語感覚を養い、『読み解く力』を高める指導の在り方～

校内研究に関連して、本単元では以下のことに取り組み指導を行った。

- ①児童の躊躇の予想とそれに対する手立て

・説明の際、順序が逆になったり、重要な言葉が抜けたりしてしまう。

→ルール説明の原稿を作成する際、「まず、次に、最後に」などの順序を表す言葉を示し、それを用いて原稿を作成させた。また、一度書いた文を養護教諭や事務職員に聞いてもらうことで、わかりにくい部分を教えてもらい、書き方を再考させた。

・ゲームの際、会話が途切れてしまう。または、相手に質問ができない。

→事前に、ゲームのお題となる単語を決めておいた。その単語について会話が膨らむよう、マッピングなどを
行いお題となるワードに関してのイメージを膨らませておいた。

お題に関して相手にどのような質問ができそうかをあらかじめ考えさせておいた。本番で困った際にすぐ
に思い出せるよう、ヒントカード集として、教室に設置しておいた。

②対話的な学びを進めるために児童に与える視点

・振り返りにおいて、「説明が伝わってよかったです。」「ルールをわかつてもらえてよかったです。」といった内容が書
けるよう、わかりやすい説明を意識させた。のために、自分たちが楽しむだけで終わるのではなく、相手に
も楽しんでもらうためにはどのように説明すればよいかを意識させた。

・振り返りの際、「自分と違うことを言っている人を見つけられてよかったです。」「○○先生は自分と違う単語の
ことを話しているとわかった。」といった相手との会話内容の違いに着目した振り返りが書けること意識さ
せたかった。のために、ゲームをより楽しめるよう、自分からどんどん発言や質問をしていけるよう意識
づけた。

③児童目線での授業研究会

・児童は相手意識を持ち、わかりやすい説明を意識してルールの説明ができていたか。

・ゲームをより楽しみ、自分と違う言葉について話している先生を見つけるため、積極的に自分から質問や發
言ができていたか。

5. 評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	主体的に学習に取り組む態度
・説明したり自分と違う 単語を見つけたりする ために必要な語句を探 そうとしている。 【(1) (ア)】	・「話すこと・聞くこと」において、相 手にわかりやすく伝えられるよう、 順序や具体例を用いることに気を 付けながら、ゲームのルールを話そ うとしている。【A 話す (イ)】	・相手にわかりやすく伝えられるように、 積極的に説明文を考え、ゲームの説明を しようとしている。

6. 単元計画（全9時間）

次	時間	主な学習活動	指導内容及び支援【評価の観点】
一	①	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学習活動の見通しをもつ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">○「ワードウルフ」のゲームを実 際に体験する。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">○先生を呼んで、一緒にゲームを することを知り、次時からする ことに見通しを持つ。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">○実際に自分たちでゲームをしてみることで、ゲームの面白さ に気づかせる。休み時間にも遊びを開放する。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">○ゲームの大まかなルールを理解させる。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【主】まずは自分たちがゲームを楽しみ、学習内容について見 通しを持つことで、これからゲームの準備をしていくこ とに意欲を持っている。（発表・行動観察）</div>
	②	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">○先生たちに「ワードウルフ」を 楽しんでもらうためには、どの ような準備が必要か考える。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">○わかりやすいルール説明が重要であることに気づかせる。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">○ゲームを楽しくするためには既存のカードではなく、オリジ ナリの準備物を作ることを意識させる。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【主】ゲームを楽しんでもらうために必要な準備を考え、意欲 的に意見を発表できる。（発表・行動観察）</div>

二	③	<p>「ワードウルフ大会」の開催に向けて、必要な準備をする。</p> <p>○ゲームルールの説明原稿を作る。</p>	<p>○説明の際に必要となる言葉を黒板に列挙したうえで、順序を表す言葉を示し、どのように文を繋いでいけばわかりやすいかを考えさせる。</p> <p>【知】順序を表す言葉を使い、自分の伝えたいルールをわかりやすく原稿にまとめようとしている。(発表・プリント)</p>
	④	<p>○原稿を読みあい、わかりやすいものになっているか推敲する。</p>	<p>○言葉だけでの説明が難しい場合、具体例を入れたり、実際に見せてみたりすることも有効であることを伝える。</p> <p>○原稿を教師に聞いてもらうことで、自分たちでは気付かなかった改善点を意識させる。</p> <p>【知】助言をもとに文章の組み立てを再考しようとしている。(発表・プリント)</p>
	⑤	<p>○「ワードウルフ」でテーマとする、第三小学校ならではのテーマを決め、お題カードを作る。</p>	<p>○2～3つのテーマに絞って、決めさせる。</p> <p>○第三小学校ならではのテーマを考えさせることで、意欲を高める。</p> <p>【主】どのようなテーマにすれば、第三小学校らしさができるかを考え、進んで発表しようとしている。(発表)</p>
	⑥	<p>○自分たちで決めたお題について会話が弾むよう、単語からイメージすることや、どのような質問をすれば会話が盛り上がるかを考える。</p>	<p>○マッピングを用いて、お題についてのイメージを書き込ませることで、会話を弾ませたり、単語ごとの違いを意識したりするための言葉を考えさせる。</p> <p>○出てきた言葉は当日のヒントカードとして使えるよう、カードにまとめる。</p> <p>【知】言葉の持つ特徴や、単語ごとの違いを表す言葉を見つけ、書き込んでいる。(発表・プリント)</p>
	⑦	<p>○ゲーム大会に向けて交流学級の児童を相手にして、リハーサルを行う。</p>	<p>○声の大きさや、説明する速さ、目線についてポイントを絞って提示し、練習の際に意識させる。</p> <p>○練習の様子を動画で撮影し、自分たちで見返すことで、自分で改善点に気付けるようにする。</p> <p>【知】声の大きさ、速さ、目線を意識し、相手にわかりやすい説明をしようとしている。(発表・行動観察・動画)</p>
	⑧ (本時)	<p>○第三小学校の先生を招き、ゲーム大会を開催する。</p>	<p>○ゲームのルールを黒板に拡大提示しながら説明をさせる。</p> <p>○⑥で作成したヒントカードを用意しておく。</p> <p>【思】相手にわかりやすく伝えられるよう、順序や具体例を用いることに気を付けながら、ゲームのルールを話そうとしている。(発表)</p>
三	⑨	<p>学習活動を振り返る。</p> <p>○説明はうまくできたか、会話を盛り上げることはできたかについて振り返る。</p>	<p>○「わかりやすい説明」と「話している言葉の違いについての気付き」の2観点に絞って振り返りをさせる。</p> <p>○参加してくれた教師にも感想を述べてもらい、子どもたちに成功感や達成感を感じさせる。</p> <p>【主】進んで自分たちの活動を振り返り、良かった点やもっとこうしたかった点を考えさせる。(発表・プリント)</p>

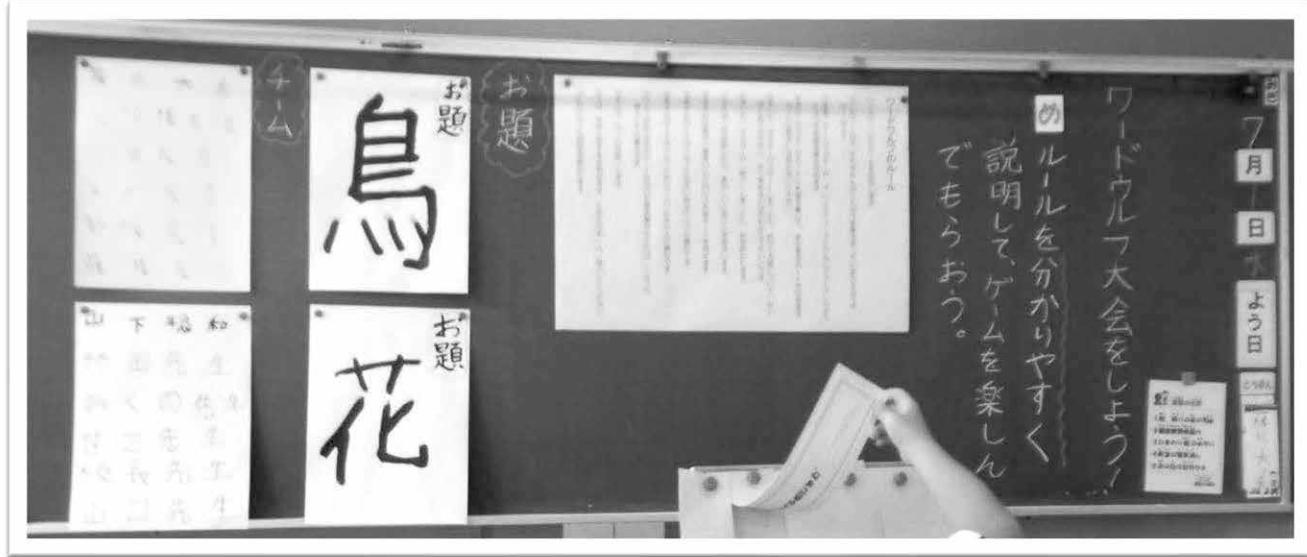
7. 本時の目標

- ・相手に伝わるように,話す事柄の順序に気を付け具体例を挙げながらゲームのルールが説明できる。
- ・相手に伝わるように,話す事柄の順序に気を付けてゲームのルールの説明ができる。
- ・言葉の違いがわからなくても,すねずに気持ちを切り替えることができる。(自立)

8. 本時の展開 本時 (8時間目／9時間中)

学習活動 ◎予想される児童の反応	指導のポイント・留意点	評価・評価方法
1. 前時までの学習を振り返る。 2. 学習課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習内容を思い出し,本時ですることを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">めあて:「ワードウルフ」の遊び方を説明し,先生たちと言葉ゲームを楽しもう。</div>	
3. ○先生に「ワードウルフ」の方法を説明する。 ○先生と「ワードウルフ」のゲームを実際に行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉での説明のほかに,作成したゲームルールの拡大図を提示しておく。 ・意欲が高まるよう,おもちゃのマイクを使用させる。 ・これから児童はプレイヤーとなり,ゲームの進行は教師で行う。 ・児童に,自分たちのグループで話すテーマカードをくじ引きさせる。 ・違う言葉を話す人を見つけやすくするために,グループに分けてゲームを行う。 ・話題が途切れた際に,自分から発言できるよう,事前に作成したヒントカードを用意し,活用を促す。 	<p>【思】相手にわかりやすく伝えられるよう,順序や具体例を用いることに気を付けながら,ゲームのルールを話そうとしている。 (発表)</p>
4. 本時の活動を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りシートに書き込ませる。 ・観点は3つに絞り,「わかりやすい説明」「自主的な発言」「相手と話している内容の相違への気付き」に着目して書かせる。 ・自己評価に迷う場合,その場にいる教師にインタビューさせる。 	

9. 板書



10. 考察

①児童の躊躇の予想とそれに対する手立て

【成果①】

本学級の児童は話すことが好きな反面、改まった場面となると緊張や不安から「話す活動」に対して抵抗を見せることがあった。話すことへの課題は大きく、学習に向かう意欲にムラが大きかった。そのため、今回は「ワードウルフ」というゲームを題材にして学習を組み立てた。いかにして、「この学習をしてみたい」と思わせることが重要であった。そのため今回、言葉を使った「ゲーム」を題材にすることで、学習に対してのハードルを下げ、主体的に学びに向かおうとする姿勢を引き出すことを心がけた。幸い両名とも今回のゲームに強く興味を持つことができた。自分たちが楽しむためだけでなく、楽しさを広めるためにゲームのルールをわかりやすく伝えるという目的が明確になり、児童は、進んで学習そのため今回は楽しみながら言語感覚を養うことができた。



【成果②】

本学級の児童は楽しい学習は大好きであるが、反面、自分に自信がないと人前に立つことを極度に嫌がったり、不安になったりすることが多かった。今回、初めに学習の流れを大まかに示し、いつまでに何をするのか、いつ何を練習するのかをはっきりさせることで、学習に対して安心感を持たせることができたのではと思われる。また、当日に向けて、何度も練習を繰り返したほか、プレ説明会として、交流学級に協力してもらい、5年生教室で慣れ親しんだ関係性の友だちの前で説明を行って遊んでもらう活動を取り入れた。当初は少し不安も見られたが、説明がうまくいき、友だちが楽しんでくれる姿を見たことで、自信につながり、不安を解消した状態で本番を迎えることができた。そして、学習が終わってから、児童から「ほかの学年も招待したい」という声があがつたことは大きな成果であると考えている。自信が結果へつながり、さらに次への意欲とつながっていったことは自分自身も予



想しなかったことであり、大きな成果であると考えている。

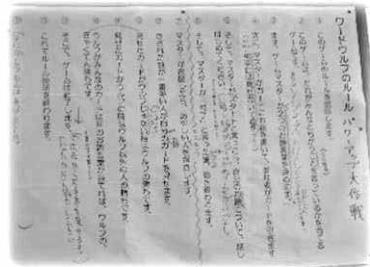
【課題】

今回の学習を通し、ゲームの説明については大きな成果が見られたが、反面、弱さも見られた。後半のゲームを楽しむ時間において、ゲーム内でのかけひきをできていなかったことが原因として挙げられる。相手への質問の仕方や、相手からの質問の返答に対して、「相手の裏をかく」や「相手にわかりにくくする」といった意識が弱く、すぐに自分が少数派であることがばれてしまうという場面が多かった。ゲームのルールや質問の仕方などを工夫することで、児童の課題に向き合うことができるようになるのではないかと思われる。例えば、ゲーム内での会話の時間で「ごまかし」を解禁することで、すぐにわかつてしまう話し方ではいけないと気づき、話し合いの意識を変えていくことができるのではと考えている。

②対話的な学びを進めるため児童に与える視点の提示

【成果】

本時を迎えるにあたり、事前の学習でルールを説明する文章の推敲に力を入れた。自分たちが十分にゲームを楽しみ、ルールを理解した後に説明原稿を書く活動を行った。当初は自分たちで「これなら伝わる！」と考えていた原稿であったが、実際に職員室の教師に聞いてもらい、理解できたか確かめると、思わぬ質問が返ってきたり、さらなる説明を求められたりする場面が見られた。十分だと思っていた原稿が不十分であるということが実感としてとらえられたことにより、その後もう一度原稿を練り直す活動へつながった。質問を受けた箇所の文書を修正することで、意欲をもって説明原稿づくりに取り組むことができていた。原稿を練り直す活動を行う中で、「見本を示したほうがよいのでは？」といった児童の中での気づきも生まれ、実際の様子を見せながら説明を行うようになっていった。当日は、早く説明をしたいという意欲も前面にみられ、よりわかりやすく説明を行うことができた。児童にも「協力することで説明がうまくいった」と言う達成感も生まれ、その後の活動の自信にもつなげることができた。



【課題】

今回学習を進めるうえで、「相手にわかりやすく伝える」ということをめあてに設定した。学習の中で十分にめあてを達成できたと思えるが、それはあくまで教師としての実感であり、児童がどの程度自己の成果として感じることができたかに関しては、課題が残った。本時では学習のまとめの時間に、自分でワークシートに振り返りを書く活動を取り入れたが、教師がゲストとして教室に滞在していることを、もっと生かすことができたのではないかと考えている。ワークシートに自分の思いを書いて終わるのではなく、本当にゲームのルールがよくわかつてもらえたのかを、自分たちからインタビューさせることで、めあての達成度に児童自身がせまることができたのではないかと考えられる。自己評価だけで終わるのではなく、大勢がいるという場の利点を生かし、他者からの目線を振り返りに反映させることで、より実感のあるふりかえりを行なうさらなる話し合いにつなげていくことができたのではと考えている。



校内研究だより

研究主題

主体的に学び、対話的に考えを深め合える子どもの育成
～児童の言語感覚を養い、『読み解く力』を高める指導の在り方～

7月1日（水）5校時 第1回 授業研究会 ひまわり学級

「楽しいゲームを紹介しよう～先生たちと“ワードウルフ”で遊ぼう～」

1. 参観のポイント（討議の柱）

- ①児童は相手意識をもち、わかりやすい説明を意識してルールの説明ができていたか。
- ②ゲームをより楽しみ、自分と違う言葉について話している先生を見つけるため、積極的に自分から質問や発言ができていたか。

2. 授業の様子



めあてを考える際にどんな説明をしたらいいのか、ゲームの時には誰が楽しく参加できたらいいのか目的や相手を意識してから学習スタート！



「めっちゃどきどきした～！」といいながらゆっくりとしたスピードで先生たちを相手にルール説明。そして、友だちを優しく見守ります。



いよいよゲーム大会スタート！ウルフカードも自ら配ってくれました。トークタイムでは、自分のカードがウルフじゃないかドキドキしながら慎重に質問する子、自分のカードの情報を積極的に説明しようとする子と、それぞれの個性が出ていました。



3. 研究会より（○…成果 ●…課題 ↗…改善点）

- 「ワードウルフ」というゲームを題材にすることで楽しみながら言語感覚を養うことができた。
- ルール説明の原稿が練られていたのは、わかりやすく伝えるというねらいを達成するためによい手段だった。

○目的意識が明確で、学習の見通しがしっかりとてていた。学習の成果を次につなげたいという意欲も見ることができた。

○ルールの説明に関して、練習した成果が自信として表れていた。伝えたい気持ちが表れていた。

●めあてに対してのふりかえりが必要。

☞「先生たちに楽しんでもらえたか」をふりかえることで、ルールの再認識ができたのではないか。一方的に自分の話ばかりになって、自分の手札がすぐにはばれてしまうことに疑問を持たせることも必要

●やりとりの部分で、児童がもっている「弱さ」が見られた。

☞ゲームのルールや質問の仕方などを工夫することで、子どもたちの課題に向き合うことができるようになるのではないか。「ごまかし」を解禁することで、話し合いの意識を変えていけるかもしれない。

☆次回の授業研究会に向けて☆

- ・「話す・聞く」ことを指導するだけでなく、相槌や目線などノンバーバルなコミュニケーションの部分についても指導していきましょう！！

鈴木先生、貴重な授業提供ありがとうございました！

第1学年 国語科 実践事例

日 時：令和3年2月16日 2校時
指導者：棚橋 良介

1. 単元名 みんなで考えよう！～箱の中には何がある？～
(教材文「これはなんでしょう」光村図書1年生下)

2. めざす子どもの姿

(1) この単元で身に付けさせたい言葉の力 (単元目標)

- ・身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選び、やり取りを行うことができる。
【思考力・判断力・表現力等A (1) ア】
- ・身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、話の中で使うことができる。
【知識及び技能 (1) ア】

(2) 身に付けさせたい力に関する子どもの実態

本学級の児童は、明るく元気に友だちや上級生と関わっている。学習における話し合い活動では、全員が自分の考えを発表することができる。全体での交流では、自分の考えを大きな声でゆっくりと話すことができるようになってきているが、時には言葉で上手に表現することができなかつたり、他者の思いを理解できなかつたりして、考え方を広げることができず、最終的に自分本位な考えに行きついてしまうことがあった。

話す・聞く単元「どうぞよろしく」や「すきなもの、なに」などの学習を通して、話し方・聞き方、挨拶の仕方、自分の気持ちの伝え方など「話すこと・聞くこと」の基本や質疑応答の仕方を学んできた。これらの力は、国語科の学習だけでなく、学校生活全体の中で、話したり聞いたりする経験を積み重ねながら身につけさせていくことが大切であると考え、学習したことを生かして話す姿や聞く姿を評価し、価値づけ、全体で共有することを繰り返してきた。

3学期より、週明け最初の朝の会で、週末の出来事を書いた日記を発表し合う取り組みを始めた。児童はノートを持って、友だちの前で話したり、友だちの話を聞いて質問したりしていた。互いの話を聞くことに関心を持ち、相手を見て聞こうとする態度が育ちつつあったが、積極的に質問しようとする児童は限られていた。また、質問しようとするが、相手を意識しないで思うままに質問をしたり、集中して聞いているが、大切なことを聞き落したりすることもあった。また、3人のこれまでの生活経験の差は大きく、思考能力や思考速度も異なり、その場で分かる児童と、十分に理解しきれない児童がいた。

こうした学級の実態を踏まえて、本単元では、『箱の中身はなんだろな』というクイズゲームを通して、箱の中にある題材に沿った特徴を見い出して述べ、分からぬことを聞くなど、全員でやり取りしながら問題を解決する楽しさを味わいながら、話題に沿って話し合うことの有効性を全員で共有することを目指した。どの児童も、クイズという活動を楽しみにする様子が見られた。本単元では、特にクイズの答えとなる題材の特徴を「形」、「色」、「動き」、「仕事」などの観点に沿って、分かりやすく伝えられるかに焦点を当てた。「題材の特徴を伝える側」、「解答する側」を全員が体験し、それぞれの立場から得られる経験を基に、「ヒントを考えるときに大切なことは何か」、「○○さんのヒントの内容や話し方で良かったこと、もっとこうしたら良かったこと」を振り返らせ、成果や改善方法を考えられるように仕向けて。そして、学習をまとめていく際には、それぞれの物事の見方・考

え方の違いについても触れながら、話型の有用性についても必要に応じて指導者が内容を補足しながら実感させ、慣れ親しませていきたいと考えた。

3. 題材の特質と学びのつながりを生む単元構成の工夫 (教材と指導について)

本単元は、国語科学習指導要領解説（平成29告示）第1学年及び第2学年

1. 知識及び技能

- (1) ア 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。

2. 思考力、判断力、表現力 A 話すこと・聞くこと

- (1) ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。

言語活動

- (2) ウ 尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。

に基づいて構成されたものである。

低学年における「話すこと・聞くこと」の学習では、児童の「話したい・聞きたい」という思いを生かした体験的な学習活動を通して、これまでの経験と関連付けながら思考したり、表現したりすることを繰り返して知識・技能の習得を目指すことが重要であると考えた。また、思考力や表現力についても、繰り返し練習することで、定着したり洗練されたりするものだ。完成された表現をすぐに提示してしまうのではなく、子どもが自然に使う言葉を価値づけ、未完成の表現や未熟な表現も認めながら、ねらいとする思考力・表現力を高められるように、どのように改善すればよいのかについて考えさせていくこととした。

本単元では、話題に沿って話し合うこと、必要な事柄を選んで話し合うこと、相手の話を聞いて分からぬところを質問すること、復唱して確かめることに慣れ親しみ、クイズを通して話し合いの基本的な形式を体験しながら、大事なことを伝え合う力を高めていくことを目指した。実際のクイズでは、児童らは「題材の特徴を伝える人」と「特徴を聞いて箱の中にある物を答える人」の役割を交互に経験した。前者は解答者に「箱の中にある物の特徴」を伝え、解答者は分からぬことをさらに質問し、その質問に「ヒントを出す人」が答えるまでの流れを繰り返し行った。箱の中にある物が何なのか、両者が共通の答えをもてるまでのやり取りの仕方や伝え方の変容を見取った。なお、普段あまりよく見ていなかった物に対して、観察したことを言葉で伝え合うことで、身近な物を表す語句について理解しながら、物の概念化を進めることにも適した教材でもあったため、児童の実態に合わせて学習の進め方を工夫できるようにもした。

第1次では、まず「箱の中身はなんだろうな」クイズを体験することを通して、子どもたちの興味関心を引き出しながら、学習活動の見通しをもたせた。また、指導者は改善を要するモデル役に徹し、児童と一緒にクイズに参加した。児童が指導者の改善点を見い出し、大事なことを伝え合うために有効な話し方や、やりとりの進め方の必要性を実感させ、よりよい話し合いの仕方について考える意識づけとポイントを焦点化できるようにした。

第2次では、「クイズをより楽しいものにする」という目的を持って、改善を要するモデル(指導者)を用いて、どのように改善すればよいのかという視点で、よりよいヒントの出し方や伝え方について考えさせた。相手の話を受けて質問する必要性も実感できるように、指導者と児童が、それぞれの役割に分かれて、模擬クイズを繰り返し、ねらいとする思考力を高められるように支援した。

第3次では、学習を進める上で見えてきた、やりとりを上手に進めるポイントを明確に位置付けた板書や掲示物の情報を頼りに、「クイズを上手く進めるポイント」、「ヒントを考えるときに大切なこと」について投げかけ、理由や考えの根拠も考えさせながら、子どもたちが進んで学習内容をまとめられるよう実践を行った。

4. 校内研究と関わって

「主体的に学び、対話的に考えを深め合える子どもの育成」
～児童の言語感覚を養い、『読み解く力』を高める指導の在り方～

校内研究に関連して、本単元では以下のことに取り組み指導を行った。

①児童の躊躇の予想とそれに対する手立て

ヒントを出す際に、題材の特徴が捉えられなかったり、重要な言葉が抜けたりしてしまうこと。

→物事に対する生活経験の違いから、言葉で上手に表現することができなかったり、題材そのものについて深く知らないことにより、題材の特徴を上手く伝えたりすることができなくなることが予想された。その際には、「お助けボタン」を使用できることとし、指導者が題材に関する情報を写真で提示したり、友だちと相談してヒントの内容を決めたりすることができることとした。そうすることで、積極的に友だちと関わったり、学習の見通しをもって思いや考えをもったりしながら、言葉をよりよく使おうと粘り強く学習できるのではないかと考えた。

②対話的な学びを進めるために児童に与える視点

- ・「〇〇さんのあのヒントがあったから、正解することができた。」、「〇〇くんは、自分が考えていたヒントとは違ったけれど、そんな伝え方もいいなと思った。」といった内容の振り返りを書く子どもたちが見られるように、模擬クイズやクイズを行った後、お互いの話し方について良かったところ、改善するとよいことを確認させた。
- ・学習活動を通して「楽しいクイズとは～」、「ヒントを考えるときに大切なことは～」という視点で振り返らせた。やりとりを上手に進めるポイントやよりよい話し方について改善の方策を考え出した中から、共通する内容を、キーワード化して掲示した。それによって、子どもたちは学びの足跡を確認しながら、よりよい話し合いの仕方について、クイズを楽しみながら気付けるのではないかと考えた。

③児童目線での授業研究会

- ・子どもたちは、クイズに正解して楽しむという目的をもって、ヒントを出したり、わからないことがあれば質問したりするなどのやり取りを行っていたか。
- ・形式的に応答したりするのではなく、相手のことを考えながら話したり聞いたりしていたか。

5. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、話の中で使っている。【知（1）ア】	「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選び、やり取りを行っている。 【A 話す・聞く（ア）】	これまでの経験や学習を生かして、言葉を通じて積極的に友だちと関わったり、学習の見通しをもって思いや考えをもったりしながら、言葉をよりよく使おうとしている。

6. 単元計画（全8時間）

次	時間	主な学習活動	指導内容及び支援【評価の観点】
一	1	学習活動の見通しをもつ ○「箱の中身はなんだろな」クイズを実際に体験する。 ○体験を通して、クイズをもっと楽しく行うためには、どうすればよいか考え、これから学習の見通しをもつ。	○実際に、自分たちでクイズをしてみることで、面白さや楽しさに気付かせる。 ○ヒントを出す役を指導者が行い、正解にたどり着きにくいヒントを出すなど、敢えて悪いモデルを示すことで、次時において子どもたちがクイズを楽しむために必要なことを気づかせる。 ○クイズに出題する物：「とけい」・「大縄」・「のり」 ○クイズの大まかなルールや進め方を理解させる。 【主】 自分がクイズをやってみた経験をもとに、学習内容について見通しを持つことで、これからクイズをもっと楽しめるようにしていくことに意欲を持っている。 (発表・観察)
	2	学習計画の立案 ○「箱の中身はなんだろな」を楽しめるようにするために、どんな順番で学習すればよいかを考え、学習計画を作成する。	○話す時に気をつけることについて確認し、よりよい話し方について考えさせる。 ○学習過程をキーワード化したカードを提示し、子どもたちが並べかえながら、学習計画を立案する。 ○前時の経験から、出題される物の観察と、観察を通した気づきを言葉で表現する重要性を意識させる。 ○既存のルールだけでなく、誰もが楽しめるように必要に応じてオリジナルルールを加えてよいことを確認する。 【主】 ゲームを楽しむために必要なことを考え、積極的に自分の意見を発表できる。(発表・観察)
二	3	○身の回りにある物を観察し、題材の特徴を「形」、「色」、「長さ」、「重さ」、「におい」、「手触り」、「素材」、「ある場所」、「使う場所」、「仲間」、「動き」、「仕事」の観点に沿ってまとめる。	○題材の特徴や働きを説明する際に、子どもが自然に使う言葉を価値づけ、未完成の表現や未熟な表現も認めていく。 ○説明をする際に使う言葉を列挙したうえで、様子を表す言葉を示し、どのように特徴を説明すれば、より分かりやすいかを考えさせる。 ○多様な視点で見ることや、これまでの生活経験と関連付けて考えられるように、「はさみ」と「色鉛筆ケース(色鉛筆入り)」を本時の題材として準備する。 【知】 様子を表す言葉を使い、自分の伝えたい題材の特徴をわかりやすくまとめている。(ワークシート①)
	4 ・ 5	○自分が考えた説明を発表し、分かりやすいヒントになっているかを分析し合い、ヒントを考えるときに大切にしたいことをまとめる。 • 題材 「毛筆(巨大習字で使用した物)」「体温計」	○言葉だけでの説明が難しい場合、物を実際に見せたり、触れさせたりして、その題材の特徴を感じさせてから、再度、言葉で表現することに取り組ませる。 ○お互いの気づきを交流させ、自分が気付かなかった題材の特徴に気付いたり、よりよいヒントの出し方を考えさせたりする。 【知】 題材をよく観察し、それらの表現の仕方を聞き合うことで、身近な物を表す語句を理解し、ヒントを考えるときに

		大切なことに気付いている。(発表・観察)
6	<ul style="list-style-type: none"> ○「箱の中身はなんだろうな」クイズの練習を行う。 ・題材 「毛筆(巨大習字で使用した物)」「体温計」「竹とんぼ(遊んでいる写真)」 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時では、児童は全員「解答者」、指導者は「題材のヒントを出す人」という立場でクイズを行う。指導者は、敢えて分かりにくいくらいヒントを提示する。 ○活動を通して、問題のヒントだけでは分からぬ時には、答えを特定するための質問やヒントの内容を確かめたりする必要があることに気付かせる。 <p>【思】ヒントの内容を理解したうえで、答えを特定するために必要な情報を選び出し、質問することができる。(発表)</p>
7 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○「箱の中身はなんだろうな」クイズを行う。 ・題材 「ヨギボー(写真)」「くじらぐも(写真)」「竹とんぼ(実物)」 	<ul style="list-style-type: none"> ○見通しを持ってクイズが行えるように、ルールや進め方を黒板に拡大提示しておく。 ○本時までの学習で追加したルールやお助けアイテムについても使い方を確認させる。 <p>【思】話題に沿って、伝え合うために必要な事柄を選び、答えが特定できるヒントを出したり、質問に対して応答したりできる。(発表・観察)</p>
三	8 学習活動を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○「答えが特定しやすかったヒントと、それがどうして分かりやすかったのか」と「分からぬときにはどうすればよかつたのか」という2つ観点を提示して振り返りをさせる。 ○参加してくれた教師にも感想を述べてもらい、子どもたちに成功感や達成感を感じさせる。 ○「楽しかった」「ヒントが上手に出せた」などの振り返りだけでなく、分かりやすかったヒントとその理由についても考えさせる。 <p>【主】進んで自分たちの活動を振り返り、良かった点やもっとこうしたかった点を考えさせる。(発表・プリント)</p>

7. 本時の目標

- ・話題に沿って、伝え合うために必要な事柄を選び、答えが特定できるヒントを出したり、質問に対して応答したりできる。

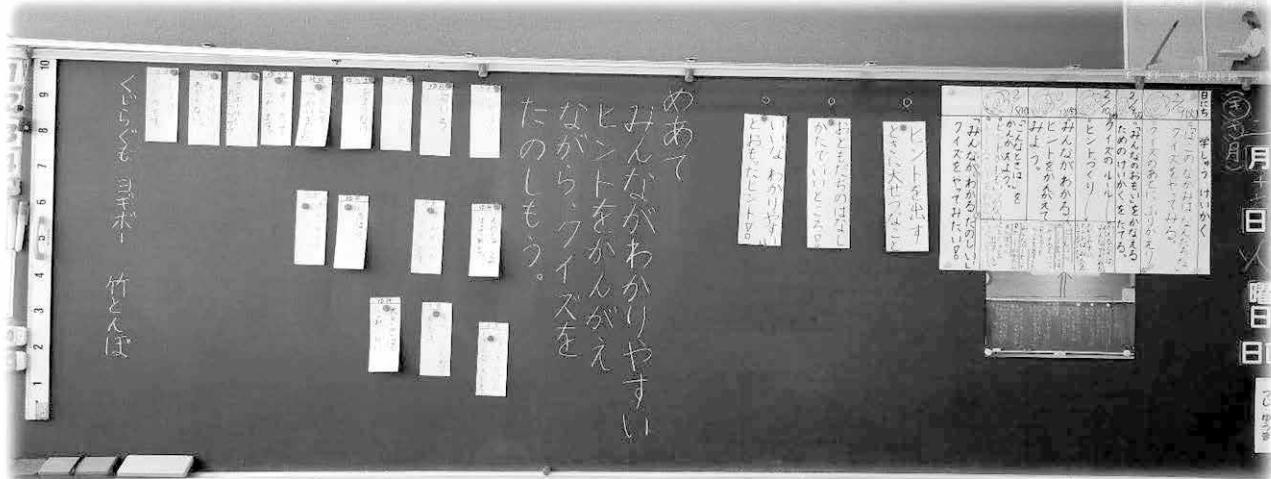
8. 本時の展開 本時 (7時間目／8時間中)

学習活動 ②予想される児童の反応	指導のポイント・留意点	評価・評価方法
1. 前時までの学習を振り返る。	・前時までの学習内容を思い出し、本時ですることを確認する。	
2. 学習課題を確認する。		

めあて：みんなが わかりやすい ヒントを かんがえながら、クイズを たのしもう。

<p>3. 「はこのなかみは なんだろな」クイズを行う。</p> <p>題材①「ヨギボー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎「青いいろで、ふかふかです。」 ◎「教室にあって、大きいです。」 ◎「きゅう食をたべたり、べんきょうしたりするときにつかった。」 <p>題材②「くじらぐも(写真)」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎「さわると、ふわふわしている。」 ◎「大きなさかなみたいなかたち。」 ◎「空をとぶことができる。」 <p>題材③「竹とんぼ(実物・写真)」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎「ふゆあそびでつかった。」 ◎「手でビュッとまわすととぶ。」 ◎「プロペラがついている。」 ◎「竹でできている。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しを持ってクイズが行えるように、ルールや進め方を黒板に拡大提示しておく。 ・本時までの学習で追加したルールやお助けボタンの使い方を確認する。 ・お助けボタンが使用された場合のパワーポイントを用意しておき、必要に応じて児童に提示する。 ・振り返りの際に、自分たちが話していたことが思い出せるように、児童らのやり取りを指導者がカードに記録する。 	<p>【思】話題に沿って、伝え合うために必要な事柄を選び、答えが特定できるヒントを出したり、質問に対して応答したりできる。(発表・観察)</p>
<p>4. 本時の活動を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「たのしかった」、「じょうずにできてうれしかった」という感想が予想されるため、「どんなところが楽しかったのか」など理由を具体的に考えるよう促す。 ・次の話し合い活動をよりよいものにするために困ったことを全体で振り返る時間をとる。 	

9. 板書



10. 考察

①児童の躊躇の予想とそれに対する手立て

ヒントを出す際に、題材の特徴が捉えられなかつたり、重要な言葉が抜けたりしてしまうこと。

【成果】

児童が「クイズを楽しくする」という目的をもって、楽しく話したり聞いたりしながら学習を進めることができたことが、本実践における一番の成果であった。その要因として、次の3点が考えられる。

一つ目は、学習計画の活用である。学習計画はこれまでの学習でも単元導入時に作成してきた。計画をもとにして、学習の見通しがもてるだけでなく、毎時間の児童らの気づきや、改善していきたいことなども記録した。そうすることで、学びの足跡を振り返ることができるだけでなく、本時のめあてを立てたり、クイズのルールを見直したりする際に、考えの糸口として活用することができた。二つ目は、「お助けボタン」である。これを用意したことにより、児童らはうまくやり取りができなくなつても、「お助けボタンが使える」という安心感があつた。本時では、使用する機会は少なかつたが、十分にやり取りが行えていない時に、児童らは積極的に「お助けボタン」を活用し、ヒントの出し方や



質問の仕方を工夫しようとする姿が見られた。三つ目は、「特徴カード」の活用である。これは、第3時の学習において、児童らが題材の特徴を考える視点として用意したものである。このカードを質問者がクイズを行う際にも使用できるようにしたことにより、やり取りが停滞している時(ヒントが出にくくする時)や質問者が題材を特定するために必要な情報を選ぶ時(ヒントの収集・内容の確認・情報の選定をする時)でも、児童の思考を手助けとなるツールとなつた。どのカードを使って質問しているのかを分析してみると、児童らの思考過程を推察して評価できるということも分かった。



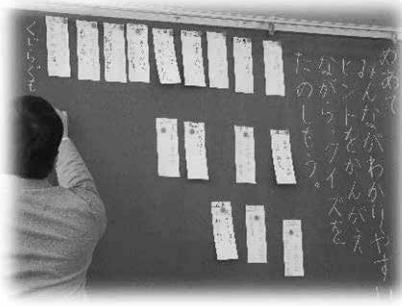
【課題】

実践を終えて、クイズの題材選びを児童にさせててもよかつたのではないかと考える。今回は、題材の特徴をうまく伝え合うやり取りの仕方に重点を置いて授業づくりをしたため、題材は児童に合わせて、これまでの生活経験に密着している物を指導者が選んだ。しかし、実際に児童のやり取りを見取る中で、題材の着眼点や話す内容は、どれも指導者が予想したものばかりではなかつた。例えば、段ボールに手芸綿をつけて作成した「くじら雲」を題材とした時には、「白いフワフワのもの」と話し、「竹とんぼ」が題材である時には「木でできている」などと話す場面があつた。「綿」という言葉を知らなかつたり、題材を正しく理解できなかつたりしてもよい。その際に、児童らが題材をどのように認識しているかを把握し、児童らの話し方の良い所を取りあげ、正しいことを学ばせていくことの積み重ねが大切であると実感したからである。児童が題材を選び、第三者に解答者をしてもらひ、やり取りを行うことで、児童は解答者に伝わりやすいヒントの出し方や内容を3人で相談・検討することができ、より良い表現の仕方や話し方について、より意欲的に考えようとする姿が見られるのではないかと思われる。児童らの生活経験の違いを肯定的に捉え、目の前の児童に合わせた学習が進められるように改善していく。

②対話的な学びを進めるため児童に与える視点の提示

【成果】

児童のやり取りを指導者がカードに記録し、クイズのやり取りをまとめ際に提示して見返すことができるようにして、「たのしかった」、「じょうずにできてうれしかった」だけでなく、「こんなところが楽しかった」、「〇〇さんのこのヒントや話し方が分かりやすかった」など理由をつけて具体的に考えることができた。これは、活発にやりとりが行われるようになってくると、全てのヒントや質問の内容を覚えておくことは難しいと考え、学習を進めていく中で取り入れ始めた。これを手がかりにして、児童は振り返りがしやすくなっただけでなく、クイズ中に気付いたことや疑問などを思い出し、発言する姿も見られた。また、指導者がやりとりの中から価値づけたい話し方を取り出して指導することもでき、めあてに照らし合わせながら、学習をまとめることができた。



【課題】

児童に振り返らせる視点として、「ヒントを出すときに大切なことは…」、「友だちの話し方でいいなと思うところは…」、「いいな、分かりやすいなと思ったヒントは…」の3点を同時に提示した。本時の学習においては3人とも「いいな、分かりやすいなと思ったヒント」について発言していた。他の2点については考えをまとめるこ

とまでには至らなかった。児童の思考に合わせて、一つずつの視点を提示して考えさせたり、やり取りを記録したカードを見直したりしながら、その場面を取り出して「この時なら、どんなヒントがもっと分かりやすいかな」など問い合わせ直しながら、児童の思考過程に投げかけていくことで、指導者がねらうところへ話し合いが進むように仕向けることも一つの手法であった。指導者が児童の話し合いをどのようにファシリテートしていくかについて、改めて考えていきたい。



校内研究だよい

研究主題

主体的に学び、対話的に考えを深め合える子どもの育成
～児童の言語感覚を養い、『読み解く力』を高める指導の在り方～

2月16日(火) 2校時 授業公開 1年生ヤイロチョウ学級

国語科：みんなで考えよう！～箱の中には何がある？～

(教材文「これは何でしょう」光村図書1年下)

1. 参観のポイント

- ①児童は、クイズに正解して楽しむという目的をもって、ヒントを出したり、わからないことがあれば質問したりするなどのやり取りを行っていたか。
- ②児童は、形式的に応答するのではなく、相手のことを考えながら話したり聞いたりしていたか。

2. 授業の様子



3. 研究会より (○…成果 ●…課題 □…改善点)

- クイズに出された題材(ヨギボー、クジラぐもなど)がよかったです。子どもたちが経験したものや学習したものを選んでいるところが素晴らしい。
- 前時の子どものふりかえりから、ルールを増やしていくことで「みんな」が楽しめるように工夫していると感じられた。
- めあてを子どもと一緒に決める際に、指導者が持っていくたいところまで子どものことばを十分出させていた。子どもたちも「自分たちがめあてを決めた！」という気持ちになれた。
- 児童一人ひとりの語彙の差は、授業の中でも埋めていく。正式名称を教えることも、それを自分たちが知っていることばで表現したことをほめることも大切。

棚橋先生、貴重な授業提供ありがとうございました！

第2学年 国語科 実践事例

日時：令和2年11月25日（水）5校時
指導者：林田 親子

1. 単元名 そうだんにのってください

（教材文「そうだんにのってください」光村図書2年生下）

2. めざす子どもの姿

（1）この単元で身に付けさせたい言葉の力（単元目標）

・グループでの話し合いを通して、互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる力。

【思考力・判断力・表現力等（1）オ】

・話を聞いてうなずいたり、首をかしげたりする動作や、質問したり同調したりすることによって、話し合いが進むことに気づくことができる力。【知識及び理解（2）ア】

（2）身に付けさせたい言葉の力に関する子どもの実態

本学級の児童は、少人数学級である。毎日明るく元気に過ごしている。話すことが大好きで、休み時間や給食の時間にさまざまな話をする様子が見られる。自分の興味関心が高い話題の時には、夢中になって話している。授業中には、活発に自分の意見を言える児童も多い。しかし、普段言いたいことを言っていても、いざ授業の中で発表するとなると、自分から発表できず、発表の声が小さくなる児童もいる。また、友だちの考えを集中して聞くことが苦手な様子も見られる。

国語科の学習においては、「たんぽぽのちえ」や「どうぶつ園のじゅうい」で順序や理由に気を付けて読んだり、「スイミー」で気持ちや場面の様子を想像しながら読み進めたりする学習を通して、読む力も少しずつ育つにつつあった。また、新出漢字を喜んで学習することができた。しかしながら、丁寧な文字で書こうという意識は個人差が大きかった。また、音読については、毎日「がんばりカード」で、繰り返し練習することで、音読が上達していく姿が見受けられた。更に音読への関心を持ち、子どもたち自身が楽しみながら音読の力の向上を図っていきたいと考えた。そして、話す・聞く活動については、話の途中に答えてしまったり、自分の話が終わると満足してしまい、次の人の話をじっくり聞けなかったりしてしまいがちなので、最後まで聞いて答えたり、友だちの話につなげて話したりする力を高めたいと考えた。

本単元では、児童が日常生活で感じているちょっとした困りごとや一緒に考えてほしいことを話題にして、少人数で話し合うことの基礎を養いたいと思った。身の回りの大人や先生ではなく、学級内の友だちに相談し、自分なりの解決策を導き出す成功体験は、児童の今後の実生活に生きるものであると感じた。また、解決とまではいかなくても、自分が困ったり、どうしようかなと考えている事柄を、友だちにさらけ出して相談したり、相手を思いやる心をもって相談を受けたりするという行為そのものが、これから時代の社会性を作るといつても過言ではないだろうと推測した。この単元を通して、相手の話を最後までしっかり聞いて、相手の話を受けてつなげて話す力を身につけさせたいと考えた。また、相談という手法を使いながら、話し合いの基本となる国語力も、しっかりと身につけられるようにしていきたいと考えた。

3. 題材の特質と学びのつながりを生む単元構成の工夫 (教材と指導について)

本単元は、国語科学習指導要領解説（平成29告示）第1学年及び第2学年

1. 知識及び技能

(2) ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。

2. 思考力、判断力、表現力 A 話すこと・聞くこと

(1) オ 互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。

言語活動

(2) イ 尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。

に基づいて構成したものである。

一対一の対話で尋ねたり応答したりする経験は1年生から積み重ねてきた。本単元の学習を通して、対話の基本を繰り返し行うことで、「まず人の話を聞く。受け止めてうなずき、自分の考えを言う。」という力を身につけさせたいと願い実践した。

本単元は、相談したいことを話題に話し合いの基盤となる「互いの話に関心をもち、相手の発言を受け入れて、話をつなぐ力」をつける単元であった。グループ内で、各自の考えを広げていく拡散的な話し合いとして「友だちの相談ごとに考えを出し合う」という活動を取り入れた。相手の困りごとを受け止めたうえで、関連した発言をすることで話をつなげていくという流れを理解することが求められたと考えた。また、相手の発言を受けて話をつなぐためには、質問する、復唱して確かめる、共感の気持ちを表す、感想を言うなどの力を育てていくことが必要だと考えた。

その手立てとして、一次では、本単元の学習活動の計画を確認できるように、学習の流れを全員で共有し、流れが分かるようにカードで提示し、やってみたいなという気持ちを喚起させた。二次では、実際に「そうだんにのってください」の話し合いの活動を段階的に進めた。初めは指導者が相談者となり、全員で話し合いを行うことで、話し合いの進め方やルールと一緒に学んでいく機会をもった。相談する内容についてもヒントとなるような話題で話し合った。そのうえで、3～4人のグループ活動を取り入れた。友だちに話したり、友だちの話を聞いたりすることを通して、考え方や思いが同じだったり、違っていたりするからおもしろい、楽しいと感じられるようになり、積極的に対話を図ることができるよう指導した。さらに、三次の学習のまとめでは、他教科などで話し合う場面においても、話してよかったです、話すことが楽しいといった気持ちで取り組むことができるよう、どの児童も達成感を味わうことえができるようにした。

相手の発言があつての自分の考え方であることをしっかりと押さえようとした。内容によっては、考えが出にくいうものもあるかもしれないが、ここでは、答えを出すというより、受け止めてつないでいくことが大切であることに気づかせたいと考えた。話し合いは、本人が考えを生み出すきっかけの活動でもある。話し合う活動を通して、話がつながることの楽しさ、話し合ってよかったですという実感も味わせたいと考えた。

4. 校内研究と関わって

「主体的に学び、対話的に考えを深め合える子どもの育成」

～児童の言語感覚を養い、『読み解く力』を高める指導の在り方～

校内研究に関連して、本単元では以下のことを取り組み指導を行う。

①児童の躊躇の予想とそれに対する手立て

相手の話を最後までしっかりと聞いて、相手の話を受けてつなげて話すことをめざしたいが、最後まで聞けな

かつたり、つなげて話すことが難しかったりすることがあるのではないかと予想された。そこで、話型や、話し合う時に心がける点及び話のつなぎ方等を提示し参考にさせた。

話型については、慣れてきたら話型から外れて、自分の言葉で話せるようになってほしいと願って提示した。

②対話的な学びを進めるために児童に与える視点

自分たちの話題での話し合いの前に、指導者から話題を提示し、みんなで相談にのる活動を取り入れることで、どのように話し合ったらよいのかを模擬体験させた。また、児童全員が話し合いに参加できるような話しやすい話題の設定に努めた。相談ごとの結論を出すことが目的ではなく、話をつなげていくことが大切であることを明確にしておいた。話し合う時には、友だちとの共通点や相違点を比べ考えながら聞くようにし、最後まで聞いてから話をするように確認しておいた。

③児童目線での授業研究会

- (1) 友だちの相談ごとを何とか解決しようと考え、話を聞いてうなずいたり、つなげようとしたりすることができたか。
- (2) 話題となる相談ごとは、今回の話し合いをもつ上で、適切な話題であったか。

5. 評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	主体的に学習に取り組む態度
話し合いにより友だちとの考え方の共通、相違を理解している。 【(知・技) (1) ア】	「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつないでいる。 【A 話す・聞く (1) オ】	積極的に相手の発言を受けて話をつなぎ、学習の見通しをもって話し合おうとしている

6. 単元計画（全7時間）

次	時間	主な学習活動	指導内容及び支援【評価の観点】
一	1	学習活動の見通しをもと ○「友だちの相談ごとを聞いて、考え方を出し合おう」という学習課題を設定する。	○学習の進め方を確かめ、活動の見通しをもたせる。 ○話をつなげることの大切さを伝え、解決を図るだけの話し合いでないことに注意させる。 【主】学習に関心をもち、相談ごとの話し合いに取り組もうとしている。（観察・発言）
二	2 ・ 3	話し合いの仕方を確かめよう ○つなげて話し合うための大切なポイントや話のつなぎ方を確認する。 ○指導者の相談ごとを話題にして、みんなで話し合いを行う。	○話し合ううえで心がける点や話のつなぎ方を確認する。 ○話し合うことの有用性を感じさせる。 【知】話し合いにより友だちとの考え方の共通するところや相違するところを理解している。（観察） 【主】話し合いのルールを守りながら、積極的に話し合おうとしている。（発言・観察）

	4	<p>話題を考えよう</p> <p>○友だちに相談したい話題を考え、決める。</p>	<p>○互いに关心をもって聞くことができる話題を選ばせる。話題を決める際にも、ペアで話し合うなどの対話的な活動を取り入れる。</p> <p>【思】友だちに相談したい話題を考え、ノートなどにまとめている。(観察・記述)</p>
	5 (本時) ・ 6	<p>話し合って、考えを出し合おう</p> <p>○グループで実際に話し合い、相談ごとについて考えを出し合う。</p>	<p>○グループで話し合った後には、うまくいったことやできなかったことについても話し合わせる。</p> <p>【知】話し合いにより友だちとの考えの共通するところや相違するところを理解している。(観察)</p> <p>【思】相手の話を聞いて受け止めたうえで、考えを話し、話をつないでいる。(発言・観察)</p>
三	7	<p>活動の振り返りをしよう</p> <p>○話し合ってよかつたことを振り返り、学習のまとめをする。</p>	<p>○友だちの話し方や聞き方でよかつたところを発表させる。「ふりかえろう」や「たいせつ」を使って、この単元で学んだことを振り返らせる。</p> <p>【主】話し合ってよかつたことを見いだし、他の学習などでもいかそうとしている。(発言・記述)</p>

7. 本時の目標

- 友だちの相談ごとに関心をもち、自分の考えを話すことで話をつなげることができる。

【(思・判・表) A 話す・聞く (1) オ】

8. 本時の展開 本時 (5時間目／7時間)

学習活動 ○予想される児童の反応	指導のポイント・留意点	評価・評価方法
1. 今までに学習した話し方や聞き方を振り返り、本時の学習課題を確認する	<ul style="list-style-type: none"> 今までに学習した話し方や聞き方を掲示しておき、活動の手がかりになるように確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">めあて：話し合って、考えを出し合おう。</div>	
2. 今日の自分のめあてを決める。 <ul style="list-style-type: none"> ○友だちにつなげて話そう。 ○りゅうを話そう。 ○友だちの考えとくらべて聞こう。 ○うなずきながら聞こう。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童一人ひとりが、意識して話し合いの活動に取り組めるように各自のめあてをもたせる。 	
3. 話し合いを行い、考えを出し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 3～4人のグループで行い、話し方の仕方を守るように呼びかけ 	<p>【思・判・表】 自分の考えを話し、話をつなげる</p>

<p>(グループ活動) 3～4人グループで話し合う。</p> <p>4. 本時の学習を振り返る。</p> <p>◎さいごまで、聞くことができた。</p> <p>◎うなずいてもらえて、うれしかった。</p> <p>◎なかなかつなげて話すことができなかつた。</p> <p>◎話が続かなかつた…。</p>	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わくわくしながら話題に出来るようにボックスの中に話題を入れ、引き当てるようする。 ・話し合いが早く終わったグループは、グループの中でよかつたと思うことを話し合ったり、一人ひとりの友だちのよいところを見つけたりするように声をかけておく。 ・自分がんばったことや友だちのよかつたことを振り返るようにする。 ・次の話し合い活動をよりよいものにするために困ったことを全体で振り返り時間をとる。 	<p>ことができている。(観察・発言)</p>
--	--	-------------------------

9. 板書計画

<p>考え方を出し合う時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分と同じかどうか話す。 ・自分とちがう時は、りゆうを話す。 ・しつもんやかんぞうを話す。 ・話をくりかえして、たしかめる。 	<p>聞く時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話している人の顔を見て、うなずきながら聞く。 ・友だちの話を自分の考え方と、くらべて聞く。 ・さい後まで聞く。 	<p>話す時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考え方とりゆうをはつきりと話す。 ・友だちの話をさい後まで聞いてから話す。 	<p>話し合いのすすめ方</p> <ol style="list-style-type: none"> ①話だいをたしかめる。 ②一人ずつじゅんに考えを出し合う。 ③いいなと思った考えをつたえる。 ④早めにおわったら、グループで、友だちのよかつたところをつたえ合う。
---	---	---	---

そ
う
だ
ん
に
の
つ
て
く
だ
さ
い

め
あ
て
話
し
合
う
、
考
え
を
出
し
合
う

10. 考察

①児童の躊躇の予想とそれに対する手立て

【成果】

学習計画をみんなで考え、足跡を残すことで、学習に見通しがもて、子どもたちも意欲的に取り組めた。全体の場でも、ペア学習やグループ学習の時でも、自分の考えと同じであるか違っているかを比べながら相手の話を最後までしっかり聞けるよう、話す時や聞く時の大切なポイントをみんなで考える機会を持つようにした。さらに、相手の話を受けてつなげて話をめざすために、話型や、話し合う時に心がける点及び話のつなぎ方等を提示し参考にさせた。どの児童も意識しながら、話をつなげようと思ふ命考え、話し合うことができた。

また、話し合うための話題をそれぞれが考えた。友だちに相談したい話題を楽しんで考えることができた。その時に関心があること、頑張っていることなどでちょっと迷ったり、困ったりしていることが出てきていた。クリスマスのプレゼントは何がよいかとか、どうしたら九九が覚えられるかなどかわいい悩みが出てきた。初めに提示した担任からの話題にも、真剣に話し合い、さまざまな意見を出し合うことができた。

【課題】

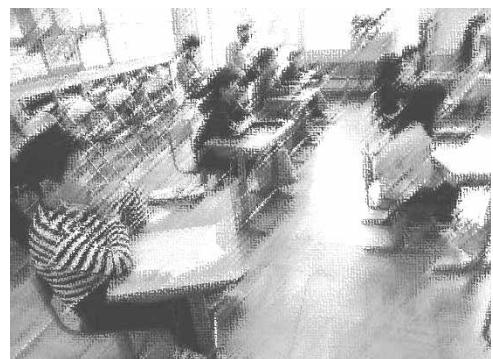
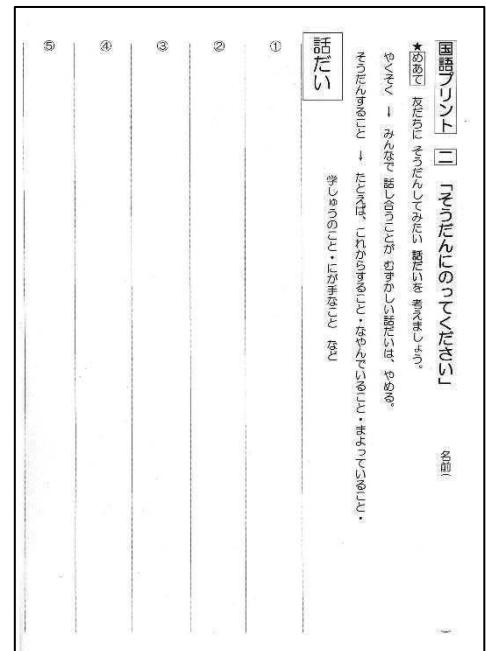
話題を設定する時に、「みんなが話し合うことがむずかしい話だいは、やめる。」という約束をして考え始めたが、もっと場面を限定したり、共通の話題となるように絞ったりすればよかったと思った。話題の設定については、それぞれの子どもたちの生活経験の差が大きく、話し合い時に大きな影響を及ぼしてしまうので、もっと条件を提示し、みんなが話し合いに自分のことのように参加できる話題になるようにしていかなければならないと感じた。話題については、指導前から懸念していたことではあるが、改めて話題の重要性を感じた。

話型については、提示物がなくてもだんだん自分の言葉で相手に伝わるように話していくほしいと思うが、なかなか個人差があるので、今後もいろいろな手立てを行っていく必要があると痛感した。

②対話的な学びを進めるため児童に与える視点の提示

【成果】

互いに関心をもって聞くことができる話題を選ばせ、話し合いがつなげられるように、カプセルにそれぞれの児童の話題を入れ、おみくじ感覚で引くように工夫した。少しあはくわ



ク感が増し、興味関心が高まることで、話し合いが活性化した。

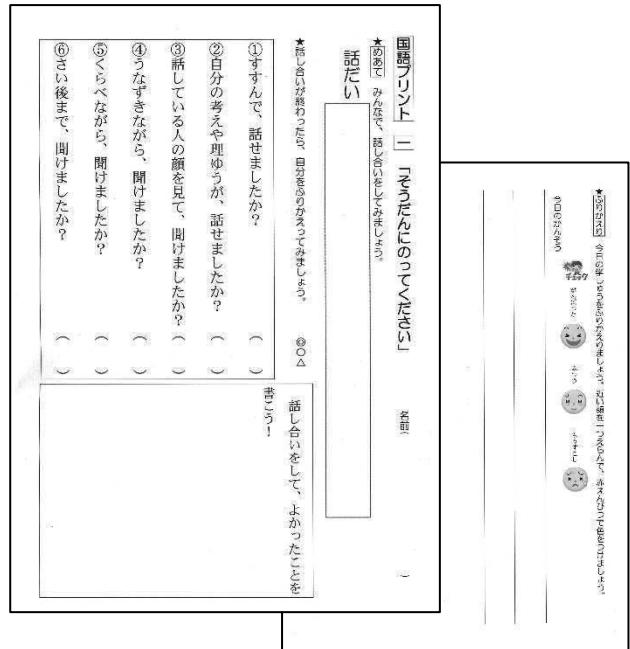
本時である自分たちの話題での話し合いの前に、指導者から話題を提示し、みんなで相談にのる活動を取り入れた模擬体験は、どのように話し合つたらよいのかを経験でき、話し合いの見通しがもてた。

【課題】

3グループに分けて、話し合いをした。グループ編成に配慮したつもりであるが、全員が話し合いに積極的に入れたわけではなかった。どのような組み合わせで、どのような場の設定をすればいいのか見極めていくことが大切だと感じた。

話し合いが続くための「言い方のいい」を各自持っていたが、どれだけ活用できたかは、定かでなかった。困っていた子にもっと声をかけ活用できるようにすればよかったと反省している。

本時には、2回話し合いを持ったが、1回目が終わった後で、一度振り返りを行うつもりであったが、3グループの進捗状況がまちまちであつたため、すぐに2回目に突入してしまった。1回目を振り返り、困ったことなどを出し合つて解決した後に2回目を開始すればよかったと思う。



指導者は、子どもたちの実態に合わせて、話し合いの場を考慮し、手立てを講じていかなければならない。

今後も話し合う人数やメンバー、話題を変えて繰り返し話し合いの経験を積み重ねていくことで、相手の発言を受けて話をつなぐことができる力を伸ばしていってほしい。また、話を聞いてうなずいたり、首をかしげたりする動作や、質問したり同調したりすることが自然と身につき、話し合いを楽しむことができるようになってほしいと願うばかりである。



校内研究だよい

研究主題

主体的に学び、対話的に考えを深め合える子どもの育成
～児童の言語感覚を養い、「読み解く力」を高める指導の在り方～

11月25日(水) 5校時 第3回 授業研究会 2年生コレリ学級

国語科「そだんにのってください」光村図書2年下

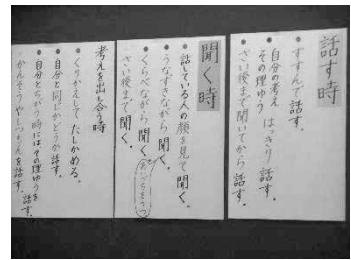
1. 参観のポイント(討議の柱)

- ①友だちの相談ごとを何とか解決しようと考え、話を聞いてうなずいたり、つなげようとしたりすることができていたか。
- ②話題となる相談ごとは、今回の話し合いをもつ上で、適切な話題であったか。

2. 授業の様子

まず話し合うときに大事なことを思い出しました。

- ・話す時
- ・聞く時
- ・考えを出し合う時



どうやったら
ちょっとにがて
なトマトや野菜
が食べられま
すか？

誰の相談かな～
(*^*)
(筒の中からガチャポンケースが飛び出します！)



もっと相談したい！



そうやな～()なんかないかな～



どうしたらいいかな～。
何かに混ぜて食べるとか…

3. 研究会より (○…成果 ●…課題 ↗…改善点)

- 子どもたち自身が困っていることを話題にしたことで、子どもたちは相手のことを考えて、一生懸命考え、話し合っていた。
- 自分が気をつけたいところ(めあて)が明確になっている児童は、話し合いたいという思いも高かった。
- 話し合いが滞ったときにどうすればよいか。
 - ↗2回めの話し合いを続けてせずに、困ったことなどを出し合い、解決してから2回目の話し合いをする。
- 話題が経験や自分が置かれている状況によって難しいものがあった。
 - ↗次の話し合いへ活かすため、教師が条件を出す。

☆次回の授業研究会に向けて☆

話し合いが深められるグルーピングや話題の設定、「話し合い」にするための手立ての講じ方に
ついて、児童の実態に合わせて考えていきましょう。

林田先生、貴重な授業提供ありがとうございました！

第3学年 国語科実践事例

日 時：令和2年12月16日（水）5校時
指導者：奥野 香

1. 単元名 山小屋で三日間すごすなら

（教材文「山小屋で三日間すごすなら」光村図書3年生下）

2. めざす子どもの姿

（1）この単元で身に付けさせたい言葉の力（単元目標）

・目的や進め方を確認して話し合い、互いに意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめる力。

【思考力・判断力・表現力等A（1）オ】

・比較や分類のしかたを理解し使うことができる力。

【知識及び理解（2）イ】

（2）身に付けさせたい言葉の力に関する子どもの実態

本学級の児童は、明るく素直で、学習中の発言も多い。わからないことも「わからない」自分の意見と異なるときは「ちょっと違っている」とはつきり意思表示できる児童もいる。自分のことについて話したい児童が多く、グループ学習をしても、話が絶えないことが多い。それぞれに自分の意見や理由も話すことができている。しかし、自分のことや自分の考えていることについて話すことに夢中になるあまり、友だちの意見に対して耳を傾けることが難しい様子が見られることもある。中には、ぼんやりしていたり話に集中できず違うことを考えていたりして、友だちの意見を聞いていない児童も見られる。指導者の一斉指導も聞き漏らしがあり、発問を最後まで聞かず突発的に答えてしまうため、話の主訴や全体像をとらえられないまま、思いついたことをそのまま話してしまう傾向がある。

1学期の「話す・聞く」単元『もっと知りたい、友だちのこと』では、まず自分自身のことで友だちに知らせたいことをまとめた。自分の話をしたがる児童が多いため、ほとんどの児童が自分自身のことで伝えたいことを文章にまとめ、しっかりと話すことができた。しかし、友だちの話を聞いて質問する場面になると、質問する児童が限られてしまい、何を質問すればいいのかわからない状態になっている児童が多く見られた。「質問する」ためには、疑問に思うことを探しながら聞く必要があるが、友だちの話を聞くよりも自分自身が話したい気持ちが優先し友だちのことに関心をもつことが難しいように感じられた。

このような実態を踏まえ、本単元では、『山小屋で三日間過ごすなら』という共通の話題について話し合う活動を通して、「考えを広げる話し合い」と「考えをまとめる話し合い」の両方を経験させていきたいと考えた。スキルを身につけることで、「話す力」だけでなく「相手の話を、目的をもって聞く力」を育てていきたかった。そうすることで、自分の考えと比べたり違いを見つけたりしながら、考えをまとめていく力を持つことができる予想した。そして、今後の学習活動や日常生活のさまざまな場面で生かせるようにしていきたいと考えた。

3. 題材の特質と学びのつながりを生む単元構成の工夫 (教材と指導について)

本単元は、国語科学習指導要領解説（平成29告示）第3学年及び第4学年

1. 知識及び技能

(1) ア 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。

2. 思考力、判断力、表現力 A 話すこと・聞くこと

(1) オ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。

言語活動

(2) ウ 互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。

に基づいて構成したものである。

低学年では相手の発言を受けて話をつなぐことが中心だったが、中学年になると目的や進行を意識して話し合い、互いの考えについて検討していくことが求められるようになる。その第一歩として、話し合いには段階があり、「考えを広げる話し合い」「考えをまとめる話し合い」それぞれに適した進め方があることを、本単元で押さえたい。一過性の活動としないためにも、それぞれの話し合いを経験させ、目的や進め方を共有して話し合うことの大切さを児童が実感できるような場とした。

本教材は、わくわくするような仮定の話題が設定されていた。自由に想像を膨らませ、話し合いに意欲がもてるようにならうと考へた。特に司会は立てず自由に話し合いを進めていく、その際、教科書にまとめられているそれぞれの話し合いで大事にすべきことを意識させ、目的に沿った発言をしているか、話し合いの段階に合った進行になっているかについて、相互に確認しあえるようにした。

第一次では、話し合いの目的・条件や話し合い方を確かめて3～4人のグループで話し合い、出た意見を分類しながら、考えを広げた。多くのアイデアを出し、それらを整理することが話し合いのゴールとした。前述の話し合いの目的や条件に照らし合わせたときにそぐわない発言が出てくる可能性もあるが、内容を絞るのは次の考えをまとめる話し合いの段階であることを確認し、相手の発言を否定しないことを徹底した。また、付箋を使って個々の考えを整理していった。子どもたちがしたいことや持つてきたいものを書いた付箋を画用紙に貼って、話し合いの土台として活用した。

第二次では、話し合いの目的・条件や話し合い方を確かめてグループで話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめた。取捨選択したり、優先順位を決めたりして、広げた考えをまとめていく段階であった。

考えをまとめる時に重要なことの一つは、目的に沿って優先順位を決めるうことだ。数多くの考えから数を絞るときに、指標がないまま自分の感覚で意見を述べると、議論が紛糾しかねないため、全員で共有している前提に立ち返って、アイデアの妥当性や優先順位を検討できるようにした。

もう一つは、より多くの意見が集まつたものに沿って結論を出すということであった。これは、多数決とは異なることを皆で確かめておく必要があった。単に多くの人が賛成しているからそれに決めるということではなく、そこを出発点にして意見をすり合わせ、全員が納得できる結論を出すのだということを伝えたかった。そうすることで、既に出てきている考えとはまた別の、よりふさわしい新たな考えにたどり着くこともあるからだ。

第三次では、グループで決まった持ち物を報告し合い、考えを広げたりまとめたりする話し合いにおいて、大切なことは何かを考えさせたかった。今後の学習活動や日常生活のさまざまな場面でいかせる力としたいと考えたからだ。

4. 校内研究と関わって

「主体的に学び、対話的に考えを深め合える子どもの育成」
～児童の言語感覚を養い、『読み解く力』を高める指導の在り方～

校内研究に関連して、本単元では以下のこと取り組み指導を行った。

①児童の躊躇の予想とそれに対する手立て

それぞれにわくわくしながら持つていきたい物を出し合うと予想された。そうする中で目的を示し、前提に立ち返って話し合いが進むよう、また、話し合いの論点にズレが生じないよう支援した。収集がつかないグループには、課題に立ち返れるように支援した。

②対話的な学びを進めるために児童に与える視点

話型を学ぶことによって、今何を目的に話し合っているのかをそれぞれが理解し、さまざまな意見を出し合いながらよりよい考えにまとめるよう指導した。

③児童目線での授業研究会

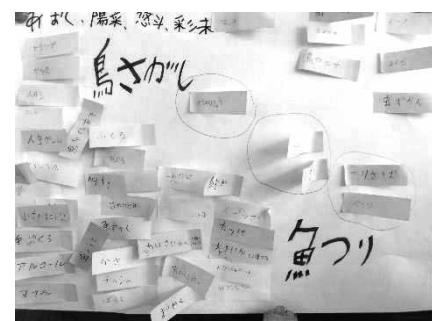
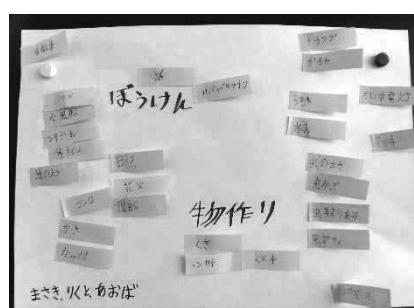
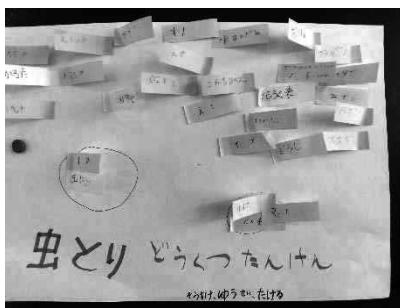
- ・目的に沿って共通点や相違点に着目し、話し合いが進められたか。
- ・話し合いで大事にすべきことを自分なりに考えていたか。

5. 評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	主体的に学習に取り組む態度
比較や分類のしかたを理解し使っている。 【知（2）イ】	「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、集めた材料を比較したり分類したりしている。 【A 話す・聞く（1）ア】	互いの意見の共通点や相違点に積極的に着目し、学習の見通しをもって、グループで話し合おうとしている。

6. 単元計画 (全3時間)

次	時間	主な学習活動	指導内容及び支援【評価の観点】
一	1	<p>学習活動の見通しをもつ</p> <p>① 単元の学習のめあてを確かめる。</p> <p>山小屋で三日間すごすなら何をもっていくか、グループで話し合って決めよう。</p> <p>② 話し合いの目的や条件と話し合いのしかたを確かめる。</p> <p>③ 考えを広げる話し合いの時に大事なことを確かめる。</p> <p>④ グループで考えを広げる話し合いをする。</p> <p>⑤ 振り返りをし、次時の見通しをもつ。</p>	<p>○山小屋の写真を掲示したり、キャンプに行った体験を話せたりするなどして、意欲を引き出すとともに、話題に対する理解を深める。</p> <p>○話し合いの目的や条件を全員に確かめる。</p> <p>○3, 4人のグループで、まず考えを広げてからそれをまとめという段階をふんで話し合うことを確認し、見通しを持たせる。</p> <p>○対話の仕方の付録のCDを聞いて留意点を確かめ、活動のイメージをもたせる。</p> <p>○話し合いを始める前に、もう一度話し合いの目的と条件を確かめ、共通認識のもと、活動に入れるようする。</p> <p>【態】 話し合いの目的や進め方を理解して話し合い、考えを広げている。(発言・観察)</p> <p>【知・技】 出た意見を目的に沿って分類し整理している。(観察)</p>
二	1 (本時)	<p>① 本時のめあてを確かめる。</p> <p>グループで話し合って、山小屋に持っていくものを決めよう。</p> <p>② 考えをまとめる話し合いのときに大事なことを確かめる。</p> <p>③ グループで考えをまとめる話し合いをする。</p> <p>④ グループで話し合いを振り返る。</p> <p>⑤ 振り返りをし、次時の見通しをもつ。</p>	<p>○前時に聞いた話し合いの例を振り返り、留意点を確かめ、活動のイメージをもたせる。</p> <p>○話し合いを始める前に、もう一度話し合いの目的と条件を確かめ、共通認識のもと、活動に入れるようする。</p> <p>○前時に引き続き、付箋を活用して考えを整理させる。</p> <p>○次時に話し合いの結果を報告し合うことを伝え、画用紙にまとめる。</p> <p>【思・判・表】 話し合いの目的・条件や進め方を理解して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめようとしている。(発言・観察)</p>



第一次より

三	1	① 本時のめあてを確かめる。	<p>○持ち物、持ち物を選んだ理由（したいこと）、話し合いでうまくいったこと、うまくいかなかったことの4点を報告する。</p> <p>○今後の学習活動や日常生活の具体的な場を挙げて、学習したことを利用しよう意識づける。</p> <p>【知・技】目的や条件に沿って話し合うことの大切さや、それぞれの話し合いで大事にすべきことを自分なりに考えている。（発言・記述）</p>
		<p>話し合いの結果を報告し合い、話し合うときに大事なことを考えるよう。</p> <p>② グループで決まった持ち物と話し合いの様子を報告する。</p> <p>③ 考えを広げたりまとめたりする話し合いにおいて大切なことをまとめめる。</p> <p>④ 単元の学習を振り返る。</p>	

7. 本時の目標

- ・話し合いの目的・条件や話し合い方を確かめてグループで話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめることができる。

8. 本時の展開 本時（時間目2／3時間）

学習活動 ◎予想される児童の反応	指導のポイント・留意点	評価・評価方法
1. 学習課題を確認する。	<p>学習課題：グループで話し合って、山小屋に持っていくものを決めよう。</p>	
2. 考えをまとめるとときに大事なことを確かめる。	<p>○本時のめあてから、山小屋に持っていく物の条件を示し、約束をする。</p> <p>○したいことを決めるときにも、理由を言っていた。</p> <p>○前の時間の話し合いで仲間分けしたこととともに、必要な順番を決めて持ち物を考えていた。</p> <p>○考えを広げる話し合いで出でいなくても、必要なものがあれば、持ち物に加えていた。</p> <p>○みんなの意見を確かめて、賛成かどうかをはっきりさせながら、話し合いを進めていた。</p> <p>3. グループで考えをまとめた話し</p>	
	<p>○付録のCDを聞いて留意点を確かめ、活動のイメージをもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的にそって、大事なことの順番を考える。 ・持つていける物は、5つまで。 ・より多くの人が大事だと考えた物を選ぶ。 <p>○話し合いを始める前にもう一度話し合いの目的と条件を確かめ、共通認識のもと、活動に入れるようする。</p> <p>○前時に引き続き、付箋を活用して</p>	

<p>合いをする。</p> <p>4. グループでの話し合いを振り返る。 ・2回の話し合いを通して、うまくいったことやうまくいかなかつたことを話し合い画用紙にまとめる。</p> <p>5. 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p>	<p>考えを整理させる。</p> <p>○「したいこと」「持っていきたいもの」は付箋に書かせ、動かせるようする。</p> <p>◆したいことがうまく決まらない グループには、昼に行うか夜に行うか、どのくらいの時間がかかるか、どのくらい体力を使うかなどの観点から、したいことも分類・整理できることを伝え、優先順位を決めさせる。</p> <p>○次時に話し合いの結果を報告し合うことを伝え、画用紙にまとめること。</p> <p>○どのように発表するのかまとめさせる。</p>	<p>【思・判・表】話し合いの目的・条件や進め方を理解して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめようとしている。(発言・観察)</p>
--	---	---

9. 板書

グループで考えをまとめる話し合いをしよう

例の会話文

☆考えをまとめるときに大事なことは?
 ・理由をはっきり言う。
 ・仲間分けしたことから必要な順番を決めて持ち物を考える。
 ・前の話し合いで出ていなくても、必要なものがあれば、持ち物にいれてもいい。
 ・みんなの意見をたしかめてさんせいかどうか決める。

山小屋で三日間すごす

ふだん子どもだけではできないことをして、しせんとふれ合う。

④グループで話し合って山小屋に持っていく物を決めよう



10. 考察

① 児童の躊躇の予想とそれに対する手立て

【成果】

第一次では、「山小屋で三日間すごす」という題材に、みんなが「ほんとに行ってみたい」とわくわくして取り組めた。それぞれに楽しく想像し、自分の持つていきたい物を好きに出し合うことができた。意見をたくさん出し合うことができたことにも喜び、授業後「楽しかったよ。ぼくは、○○がしたいから△△を持っていきたいねん。」と報告に来た児童も見られた。

本時では、グループごとに自然に話し合いが進められていった。話し合いの論点にズレが生じないように話し合いのめあてと目的を全体で確認した。Cグループでは、自然と共に共通で使えるものを見つけていくことができ、絶対に必要なもの、そうでないものに分けていった。お互いの意見を尊重しあうこともできていた。話し合いをする中で、目的に立ち返って話し合いを進めることができた。Aグループでは、普段自分の意見を通したがる児童も、この話し合いにおいては、周りの意見をよく聞いている様子がうかがえた。Bグループでは、自分のしたいことを提案しつつ、友だちの意見を聞いて考えを変えていくとする姿が見られる児童もいた。



【課題】

グループ分けが難しかった。話し合いの時間が限られていて、持っていくものを決定できなかったことや、自分の意見が通らなかったことに関して不満な様子を見せている児童もいた。課題に立ち返れるように支援したが、気持ちを切り換えることができるアドバイスができなかった。その都度、課題に立ち返りアドバイスできるようにさまざまな場面を想定しておく必要があると感じた。

② 対話的な学びを進めるための児童に与える視点の提示

【成果】

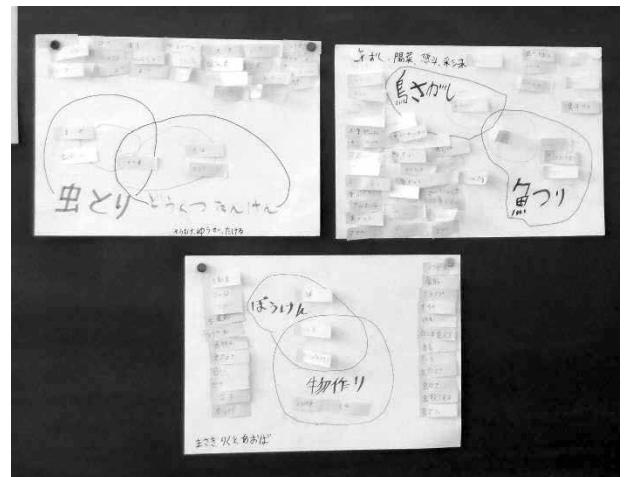
付録のCDを聞いて留意点を確かめ、活動のイメージをもつことができたグループは、さまざまな意見を出し合いながら話し合いが進められた。Cグループでは、お互いの意見をよりよい考えにまとめられ、本人達も満足している様子だった。



【課題】

付録のCDを聞いて留意点を確かめ、活動のイメージをもたせることで、話型を学ぶことができると考えたが、今何を目的に話し合っているのかを理解できていない児童もあり、意見がまとまらないグループもあった。

また、最終的に2択になってしまったときに、話し合いで解決するのではなく、じゃんけんで決めてしまうチームもあった。決めきれないグループについては、話の内容を早めに切り替えることが大切だと思った。次の話し合いに向かえるように指導者がタイミングを見て話し合いに入っていくようにしたい。



校内研究だよい

研究主題

主体的に学び、対話的に考えを深め合える子どもの育成

～児童の言語感覚を養い、『読み解く力』を高める指導の在り方～

12月16日（水）5校時 授業公開 3年生アカショウビン学級

国語科：山小屋で三日間すごすなら（光村図書3年下）

1. 参観のポイント

- ①児童は、目的に沿って共通点や相違点に着目し、話し合いが進められたか。
- ②児童は、話し合いで大事にすべきことを自分なりに考えていたか。

2. 授業の様子



3. 研究会より (○…成果 ●…課題 ↗…改善点)

- 共通で使えるものを見つけていく、絶対に必要なもの、そうでないものに分けていけるチームがあった。お互いの意見を尊重しあうことができていたチームだった。
- 自分のしたいことを提案しつつ、友だちの意見を聞いて考えを変えていくとする姿が見られる児童もいた。
- 普段自分の意見を通したがる児童も、この話し合いにおいては、周りの意見をよく聞いている様子がうかがえた。
- グループ分けが難しかった。話し合いの時間が限られていて、持っていくものを決定できなかったことや、自分の意見が通らなかったことに関して不満な様子を見せている児童もいた。
- 最終的に2択になってしまったときに、話し合いで解決するのではなく、じゃんけんで決めてしまうチームもあった。
- ↗決めきれないグループについては、話の内容を早めに切り替えることも大切。次の話し合いに向かえるように指導者がタイミングを見て話し合いに入っていくとよい。

奥野先生、貴重な授業提供ありがとうございました！

第4学年 国語科 実践事例

日 時：令和2年9月23日（水）5校時
指導者：上田 ひとみ

1. 単元名 あなたなら、どう言う

（教材文「あなたなら、どう言う」光村図書4年生上）

2. めざす子どもの姿

（1）この単元で身に付けさせたい言葉の力（単元目標）

・目的を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。

【思考力・判断力・表現力等（1）オ】

・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。【知識及び理解（1）ア】

（2）身に付けさせたい言葉の力に関する子どもの実態

少人数学級のため、目的に合わせてグループ分けを変えたりペア・グループから全体という形をとったりすることは難しい。それぞれ違う考えを持っており、意見の交流では違う見方や考え方に出会うことが多いが、違いにこだわり話し合いを深めるということはあまりなく、「そういう考え方もあるな。」と受け入れることがほとんどである。物語文の「白いぼうし」や「一つの花」では、疑問に思ったことについて考えを交流したが、そのときも自分の考えと違う友だちの考えもすんなりと受け入れていた。違いをすぐに受け入れるのは、自分の考えに對して根拠となるものがしっかりとしていないからということもあると考えられる。また、自分は自分、他の人は他の人と割り切っていて、考えをまとめたり、よりよいものにしたりしようという思いがあまりないからかもしれない。

1学期の話す・聞く単元「聞き取りメモのくふう」では、話の中の大事なことを落とさずに聞くために、聞き取りメモを工夫する学習を行った。メモの目的を明確にし、工夫して聞き取りメモを取る活動を通して、必要な情報を聞き取り、目的に合わせて簡潔にまとめる力をつけることをめざした。話の中で重要な情報は何か、またそれをどのようにまとめて記録すればよいのか、学習したことを活かすことは、難しかった。また、「話し方や聞き方から伝わること」では、相手と気持ちよくやり取りするために気をつけたいことについて考えた。「大きな声で、はきはきと話す」「相手の方を見て聞く」等基本的なことはわかっているが、人とのかかわりにあまり興味がないようで、結果が同じなら話し方や聞き方にはこだわらないようだった。受け止める意味が正反対であっても、それによって起きるすれ違いがどのような結果を招くか想像することが難しい児童もいた。

本単元では、一つの事象について異なる立場からやり取りをした。やりとりを通して、立場が違えば主張が変わること、主張の仕方で相手の受け止めが変わることをロールプレイを通して実感させたいと考えた。考えの収束先はどの児童も同じだと考えられるが、特に、発した言葉に対する互いの考え方や思いの共通点や相違点に着目するという点に焦点を当てた。一つのことを決めるという状況にいる児童が、互いの立場から何を思い、どのような言葉を発するのか、その言葉を受けた相手がどのような感情になるのかを経験し、その感じ方を共有する活動を通して、自分の思いや相手の思いはどのようなもので、どのように伝えることで誤解やすれ違いが減り、お互いに思いをかわすことができるのかを考えさせた。本単元では、姉弟のやり取りから対話について考えるようになに設定されているが、姉弟という特定の関係でのやり取りだけではなく、友だちとのやり取りについても考えていった。兄弟関係では、言葉に出さなくてもお互いの思いを分かっていたり、自分の感情をぶつけて言い争いに

なってもなんとなく仲直りできていたりする。しかし、友だち同士では、同様にはできないし、お互いに納得できるように伝え合わなければならない。言葉で伝えないと正確に伝え合うことができない関係の中で、お互いがどのように考え、受け止めているのか、どのように伝えればよいのかを学習を通して考えさせたかったからである。そして、同じ状況に対しての他者の感じ方を、言葉を介して知ることで、生活を共にする他者に対しての感度を高めさせたいと考えた。

3. 題材の特質と学びのつながりを生む単元構成の工夫 (教材と指導について)

本単元は、国語科学習指導要領解説（平成29告示）第3学年及び第4学年

1. 知識及び技能

(1) ア 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。

2. 思考力、判断力、表現力 A 話すこと・聞くこと

(1) オ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。

言語活動

(2) ウ 互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。

に基づいて構成したものである。

中学年は、自分と他者との違いに敏感になる時期である。自分が「こうしたい。」という意思がはっきりしているが、他者が自分とは違った考えに基づいて行動していることは想像しきれないことから、他者との衝突が課題になることもあった。このような時期だからこそ、「他者との関係をつなぐ言葉」を意識させたいと考えた。本単元では、同じ事柄を違った視点から考えていく活動を設定した。ロールプレイを通して、他者がその場面をどのように経験しているかを知ること、また、他の人ならどのような言葉をかけるのかを知ることで、他者に対してどのような言葉と関心を向けるのかを考えさせた。

本単元では、日常生活で起りうるコミュニケーションの不具合を取り上げ、実際のやり取りや客観的な立場でやり取りを観察する活動を通して、よりよい対話について考えることをめざした。ここで取り上げている「対話」とは、会話と違って他者との間に信頼関係を築くためのコミュニケーションツールであるといえる。児童が日常生活の中で、うまくやり取りができなかったことで、相手を傷つけたり怒らせたりした経験について振り返ることから学習を始め、対話について考えさせた。第1時では教科書教材を用い、姉と弟のやり取りから考えさせ、第2時では友だち同士のやり取りから考えさせた。

初めに、それぞれの思いを優先したやり取りを見ることで、本学習の課題を把握させた。そのうえで、それが納得するためにはどんな方法や言い方が有効か考えさせた。相手の都合や思いを理解するために、どんな関わり合いをすればよいのか、どのような言い方で伝えればよいのかを、実際のやり取りから考えたり話し合ったりする活動を通して、課題解決を図っていった。言葉のもつ働きに気づかせることで、他者を大切にし信頼関係を築くことの良さに気づかせたいと考えた。

4. 校内研究と関わって

「主体的に学び、対話的に考えを深め合える子どもの育成」

～児童の言語感覚を養い、『読み解く力』を高める指導の在り方～

校内研究に関連して、本単元では以下のこと取り組み指導を行う。

①児童の躊躇の予想とそれに対する手立て

自分たちの対話について話し合うことは、お互いに気遣って、見つけたよいところを中心の話し合いになったり、言葉による表現方法にこだわった話し合いにならなかつたりするかもしれない。そこで、第三者の話し合いの場面を設定し、それぞれが感じたことや思ったことを出し合い、どうしていけばよいのかを話し合わせた。

自分の感じ方や考え方、表現方法が他者のものと違っていても、自分は自分、相手は相手と考えて、どちらもそれでよいと考え、よりよいものについて考えようとしない場合、相手がどのように受け止めているか、またその受け止め方はそれぞれの立場で納得できるものかを中心によりよい表現方法を考えさせた。

②対話的な学びを進めるために児童に与える視点

言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づき、どのように対話すればお互いに納得できるのかを考えるために、他者のやり取りを見る活動を取り入れた。やり取りを第三者の立場で見ることにより、当事者はどのような思いから言ったのか、相手はどのように受け止めるのか、どのように伝えるとよいのか、ということについて考え、よりよい対話について考えさせた。それぞれの立場の思いを反映していない表面的な発言になってしまったりしたときには、用意してあるモデル（それぞれの自分中心な思いが表れたやり取り）から、お互いに納得できるためにはどのようなやり取りをしたらよいか考えさせた。

③児童目線での授業研究会

（1）話し合いを通して、「このような言い方をしたのは、こういう思いがあったからなんだな。」「このような言い方をしたら相手や周りの人はこのように感じるんだな。」ということに気づいていたか。

（2）思いや考え方によって、表現方法（言葉や口調、語尾など）が変わることを知り、よりよい表現方法があることに気づき、自分の生活に活かそうとしていたか。

5. 評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	主体的に学習に取り組む態度
言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。 【（知・技）（1）ア】	「話すこと・聞くこと」において、目的を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。 【A 話す・聞く（1）オ】	学習課題に沿って、さまざまな立場でやり取りを行い、互いの意見の共通点や相違点に着目して積極的に考えをまとめようとしている。

6. 単元計画（全2時間）

時	主な学習活動	指導内容及び支援【評価の観点】
1	<ul style="list-style-type: none">○「対話」についての経験を振り返り、 単元のめあてを設定する。 よりよい対話の仕方を考えよう。○対話の場面を確認する。○それぞれの立場でやり取りをする。○よりよい言い方について考える。 相手の気持ちを考えて話そう。	<ul style="list-style-type: none">○会話と対話の違いについて知らせる。○やり取りをする人とそれを見る人になり、感じたことを発表させる。○お互いが納得してやりたいことができるためにどうすればよいか考えさせる。○それぞれ主張があること、相手の立場に立って考えるとわかることがあることに気づかせる。【態】それぞれの立場でやり取りを行い、互いの意見の共通点や相違点に着目して積極的に考えをまとめようとしている。（発言）【知・技】言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあ

		ることに気づいている。(発言・記述)
2 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ○場面設定を確認し、やり取りを見る。 ○それぞれの立場について、感じたこと、どのように言えばよかったですのかを話し合う。 ○それぞれの立場でやり取りをする。 相手の気持ちを考えてよりよい話し合いをしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○それぞれの思いや言い分を想像させる。 ○お互いが納得できるよりよい対話について考えさせる。 【知・技】言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。(発言) 【思・判・表】互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめている。(発言)

7. 本時の目標

- ・言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。【知・技】
- ・目的を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。

【(思・判・表) A 話す・聞く (1) オ】

8. 本時の展開 本時 (2時間目／2時間)

学習活動 ◎予想される児童の反応	指導のポイント・留意点	評価・評価方法
<p>1. 前時を振り返り、本時の学習課題を設定する。</p> <p>学習課題: モデルを見て、お互いの主張の共通点と相違点について考え、よりよい話し合いの方法を見つける。</p> <p>めあて: 相手の気持ちを考えてよりよい話し合いをしよう。</p>		
<p>2. 場面設定を確認し、やり取りを見る。</p> <p>◎けんかしているみたいな言い方になっていたな。</p> <p>◎どうしてそんな言い方をしたのかな。</p> <p>◎どうしても、そうしたかったのかな。</p> <p>◎自分のことばかり言っていたから、もう少し相手の話を聞いた方がいい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3人の児童が話し合う場面であること伝え、会話の内容だけでなく、それぞれの主張や話し方についてどう思うか考えながら見させる。 ・それぞれの言い方についてどのように感じたか話し合う。 ・なぜそのような言い方をしたのか、それぞれの思いや言い分を想像させてから話し合うようにする。 ・どうすればお互いに納得して決めることができるか考えさせる。 ・対話は相手の思いや考えだけでなく、背景も理解しようとするものであることに気づかせる。 	<p>【態】学習課題に沿って、さまざまな立場について、互いの意見の共通点や相違点に着目して積極的に考えをまとめようとしている。(発言)</p> <p>【思・判・表】目的を確認して話し合い、互いの意見の共通点</p>

<p>んじやないかな。</p> <p>◎相手の気持ちも考えて話した方がいい。</p> <p>◎きつい言い方はしない方がいいと思う。</p> <p>◎相手の意見の理由を聞くことも大事だと思う。</p> <p>4. それぞれの立場でやり取りをする。</p> <p>◎よりよいと考えた言い方で話し合う。</p> <p>5. 本時の学習を振り返る。</p> <p>◎相手のことを考えて話そうと思った。</p> <p>◎言葉や言い方でお互いに気持ちよくなれると思った。</p>	<p>・どうすればお互いの思いを理解し合い、お互いに納得できるか考えさせる。</p> <p>・よりよい対話になりにくいときには、モデルから考えたよりよい対話の仕方を意識させる。</p>	<p>や相違点に着目して、考えをまとめている。(発言)</p> <p>【知・技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。(発言)</p>
---	--	--

9. 板書



10. 考察

① 児童の躊躇の予想とそれに対する手立て

【成果】

本時の「言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づく」「目的を確認して話し合い、互い

の意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめる」というめあてを達成するためには、話し合いがしっかりとおこなわれることが基盤になければならない。自分の考えをしっかりと持ち、話し合いを成立させるためには、話し合うための題材が、重要となる。題材を「植木鉢に植えるものをクラスのみんなで決めよう」としたこと、子どもたちにとって身近な設定であり、生活経験からも考えられ、意見が活発に出されていた。

【課題】

3人の教師による話し合いのモデルを見て、それぞれの主張や話し方についてどう思うか考えた際、Bさん（自分の考えをしっかりと持っておらず、他人の意見にすぐに流されてしまう）への気づきが少なく、着目しづらい部分があった。役割演技の際、B役の者は、Aにばかり同調するのではなく、Cにも同調して見せる必要があった。そうすることで、どっちつかずで自分の意見を言っていないことが強調され、気づきにつながっただろう。



② 対話的な学びを進めるため児童に与える視点の提示

【成果】

役割演技を見て、それぞれの立場についてどう思うか、気づいたことをすぐにメモできるように、ホワイトボードを用いた。子どもたちは、A,B,Cそれぞれに対して思ったことをその場でメモし、その後の話し合いに生かすことができた。



子どもたちは、Cさんの演技に対して、それぞれが違った認識や意見をもっていた。一人の児童から「こうしたほうがよかった」という意見が出た後、「そうかも」や「こうだったんじゃない?」とさまざまな意見が聞かれ、めあてである『互いの意見の相違点』への着目に繋がり、そこから改善点を考えられた。また、言葉以外にも「ため息」や「語気の強さ」など、ことば以外のしぐさや様子が相手に与える印象にも注目し、自分の気づきをホワイトボードに書きこみ、意見を交流していた。

この単元を通じた振り返りで、自分の考えに根拠や説得力を持たせることができなかつたため、考えを一つにまとめることができなかつたと振り返っている児童がいた。また、道徳科で、「相互理解・寛容」の価値にかかわって学習した際には、相手の意見を受け止め、最後までしっかりと聞くことや自分の考えを主張しきてもいいけないということが大切だということに気づくことができた。国語科の学習に限らず、自分の考えを伝えたり、話し合いで何かを決めたりする際には、これらの学習での学びや気づきを口にし、話し合いに生かそうとする姿がみられた。

【課題】

教師の役割演技を見て、第三者として改善点は見つけられたが、自分ごととして捉えるには至らない部分もあった。自分たちで話し合う際には、「どれにするか」ということに意識がいってしまいがちであった。

「どう言えばよいか」により一層注目させるために、再度めあてを意識させる声かけをしたり、台本を提示し、どう言えばよかったのか直していく活動をとりいれたりするほうがよかつた。また、自分たちで話し合いを実践するのであれば、自由に話し合わせるのではなく、「このようにしたほうがよい」と考えた役を選択

する形にしたり、役割演技を行った先生にもう一度演じてもらったりすることも有効だったのであろう。

その後、実際に植木鉢に植えるものを決める話し合いを行った。自分が植えたいものについて、その理由や調べたことなどをもとに話し合ったが、それぞれが自分の考えを主張し続け、考えをまとめることはできなかった。それぞれの考えの共通点や相違点に注目しながら、そのように考えをまとめていけばよいか、国語科や他教科、日常生活で経験を積んでいく必要がある。

第1時台本

姉：ただいま。
弟：あつ、お姉ちゃん。おかえり。
姉：もう。何散らかしているのよ。
弟：えつ、ぼく、散らかしてなんかないよ。
姉：友達が遊びに来るから、早くかたづけてよ。
弟：これからたなをきれいにするんだよ。せっかく物を出していたところなのに。
姉：なんで今きれいにするのよ。
弟：だって、今日お姉ちゃんの友達が遊びに来るなんて知らなかつたよ。
姉：いいから早くかたづけて。もう友達が来ちやうから。
弟：ああつ、勝手にたなに置かないでよ。置き場所が決まつているんだから。



本時台本

廊下から後ろの机の方へ入ってくる。

先生：クラスで、この植木鉢に植えるものを何にするか決めようと言していましたね。

みんな、何を植えたらいいか考えててくれましたか。

A, B, Cが植えたいものを書いたホワイトボードを見せながら

A：私は、柿の種がいいと思います。柿がいっぱいなつたらみんなが食べられるからです。

B：ぼくは、大根がいいと思います。秋になったらいつも大根を植えているからです。

C：私はチューリップがいいと思います。花が咲いたらきれいだからです。

先生：みんなよく考えててくれましたね。では、みんなで何にするか話し合っていきましょう。

A：大根やつたらサルに食べられるやろう。

B：たしかに、食べられてしまうかもなあ。ヘチマもとられたし・・・

A：柿の種がいいと思う。柿の木やつたら丈夫やし！(口調がきつくなっていく)

B：そうやな。柿の種がいいなあ！

C：植木鉢に柿の木ってどうやろう・・・

A：柿が一番いいと思う。絶対そうしよう！！

B：そうやな。柿の種がいいなあ！

C：じゃあ、それでいいよ・・・

先生：それでいいのかな・・・

あつ、チャイムが鳴ったので次の学級会で決めましょう。

(あいさつをして、休み時間になり、AとBは外に遊びに行く。)

(Cが先生のところにやってくる)

C：先生、あんなあ、私ら、1年生の時、チューリップを植えたやろ。次の1年生の入学式の時にチューリップが咲いて喜んでくれやつたし、花やつたら卒業する6年生にお祝いの気持ちが伝えられるなあと思っててん。

先生：そうやつたん。

校内研究だよい

研究主題

主体的に学び、対話的に考えを深め合える子どもの育成
～児童の言語感覚を養い、「読み解く力」を高める指導の在り方～

9月23日(水) 5校時 第2回 授業研究会 4年生シジュウカラ学級

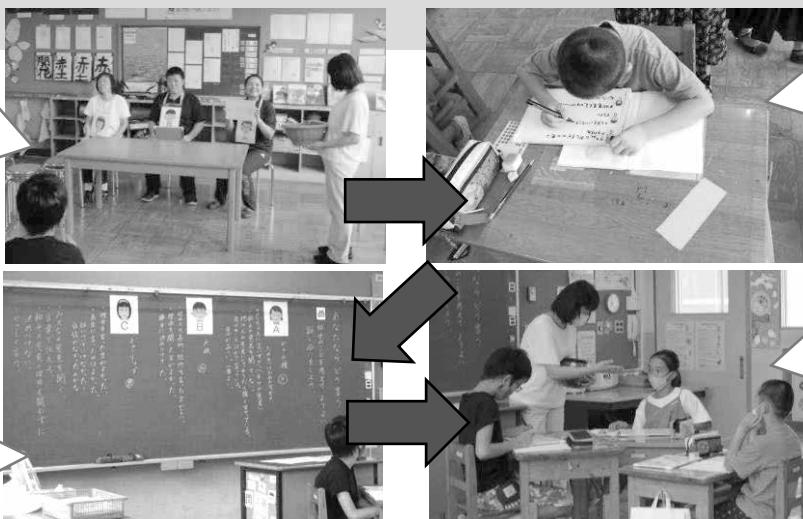
国語科「あなたなら、どう言う」教材文「あなたなら、どう言う」光村図書4年上

1. 参観のポイント(討議の柱)

- ①児童は、話し合いを通じて「このような言い方をしたのは、こういう思いがあったからなんだな」「このような言い方をしたら相手や周りの人はこのように感じるんだな」ということに気づいていたか。
- ②思いや考えによって、表現技法(言葉や口調、語尾など)が変わることを知り、よりよい表現技法があることに気づき、自分の生活に活かそうとしていたか。

2. 授業の様子

授業スタート！先生たちの話し合い演技を見て、気づいたことや改善点を探します。どこが気になるかな？



気づいたことはすこさずメモ！B君に対しての気づきには3人も悩んでいるようです。

みんなで意見を出し合って、たくさんの改善ポイントが見つかってきました！

では、今度は自分の番！くじで役割を決めて、実践です。どう言えば相手にうまく伝わるかな？

3. 研究会より (○…成果 ●…課題 ⇣…改善点)

○Cちゃんの演技に対して、それそれが違った認識や意見をもっていたが、「こうしたほうがよかった」という意見が出た後、「そうかも」や「こうだったんじゃない？」とさまざまな意見が聞かれ、めあてである『互いの意見の相違点』への着目に繋がり、そこから改善点を考えられた。

○言葉以外にも「ため息」や「語気の強さ」など、ことば以外のしぐさや様子が相手に与える印象にも注目し、自分の気づきをホワイトボードに書きこみ、よく発表できていた。

○題材の設定が子どもたちにとって身近な設定であり、意見が活発に出されていた。

●Bくんの演技に対しての気づきが少なく、着目しづらい部分があった。

⇨役割演技のとき、Bちゃん役の者はAちゃんばかりに同調するのではなく、Cちゃんにも同調してみせる必要があった。そうすることで、どっちつかずで自分の意見を言っていないことが強調され、気づきにつながったのではないか。

●第三者として改善点は見つけられたが、自分ごととして捉えるには至らない部分もあり、「どれにするか」ではなく、「どう言えばよいか」により一層注目させる必要があった。

⇨実践する際の形式をくじではなく選択制にするか、子ども同志に演技させるのではなく、役割演技を行った先生にも一度演じてもらうことも有効だったのではないか。

☆次回の授業研究会に向けて☆

- ・生活経験だけに頼って授業を進めるのではなく、「めあて」や「ことば」に立ち戻って授業を進めていく。

上田先生、貴重な授業提供ありがとうございました！

第5学年 国語科 実践事例

日時：令和2年12月7日（月）5校時
指導者：瀬古 育海

1. 単元名 どちらを選びますか

（教材文「どちらを選びますか」光村図書5年生）

2. めざす子どもの姿

（1）この単元で身に付けさせたい言葉の力（単元目標）

・互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる力。

【思考力、判断力、表現力等表A（1）一オ】

・思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる力。【知識及び技能（1）一オ】

（2）身に付けさせたい言葉の力に関する子どもの実態

本学級では、学級全体で何かについて話し合い、結論を出す活動を日ごろから行っている。しかし、主張の強い数人の児童や、そこへの質問や反論ができる数人の児童だけで話し合いが進み、残りはそれに同調して自分の意見を主張せず終わることが多かった。話し合いにおいて意識していることが児童によって大きく違い、自分の意見を結論として位置付けたい児童と、結論が出るまで大きく主張しない児童がいるというのが現状であった。そのため、結論を出すことを目的としないディベートやブレインストーミングはうまく進まないことが多かった。また、同じ顔触れで5年間生活を共にしてきた仲間ということもあり、はっきり口に出さなくても互いの言いたいことが想像でき、第三者からみて十分に話し合いができるのか分かりにくくなっている場面も多かった。

1学期の話す・聞く単元『きいて、きいて、きいてみよう』では、充実したインタビューを行うために聞き方を工夫する学習を行った。相手の話に応じて相槌を打ったり新たな話題や質問を考えたりする活動を通して、話をより広げるための「聞き方」に気付かせることを目指した。聞き手として「相手の話を最後まで聞くこと」や「状況に応じて質問する内容を変えること」などの工夫に気付かせ、多くのことを聞き取るインタビューを行うことができた。一方で、個々の話を逐一つて思い付きのような質問が続く場面が多く、相手の話をふまえて話題を広げることは全体的に難しかった。

本単元では、一つの問題を二つの立場に分かれて討論する活動を行った。自分の立場で意見を主張する根拠や理由について考え、異なる立場の相手と討論することで考えが広がっていくということを実感させる必要があった。自分の主張を通すこと、結論を出すことにこだわる児童が出ると思われたが、討論の意義は結論を出すことでなく、異なる意見が出る場でさまざまな考え方に対する触れることができること、話し合いを通して自分自身の考えの中により明確な根拠や理由が生まれることにあるのだということに焦点を当てることにした。また本単元では、「寝るならどちらがよいか：A布団、Bベッド」などのような質問において「AかBで迷っている友だちにそれぞれを薦める」という場面を設定した。そのため、討論を通して自分たちだけが納得するだけでなく、第三者から見ても説得力のある根拠や理由をもって意見を話すという相手意識が求められた。「言葉で思いや考えを話さなくても通じ合える」という意識になりつつあった本学級の児童だからこそ、この単元を通して、集団の中で立場や意見を明確にして話し合う力を高めたいと考えた。

3. 題材の特質と学びのつながりを生む単元構成の工夫 (教材と指導について)

本単元は、国語科学習指導要領解説（平成29告示）第5学年及び第6学年

1. 知識及び技能

(1) ア 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。

2. 思考力、判断力、表現力 A 話すこと・聞くこと

(1) オ 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること

言語活動

(2) ウ それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。

に基づいて構成したものである。

5年生は高学年として、学校全体の活動にかかわる重要な話し合いにも参加するようになった。その中では「どの意見を採用するか」という単純な結論に至らないものが多くなり、話し合いをし、相手の意見も部分的に受け入れるなどして元々の意見よりさらに良いものにしていく力が求められるようになった。だからこそ、言葉によって「相手とのつながりをつくる」ことを意識させる必要があった。

本単元では、「AかBで迷っている友だちにどちらかを提案する」という場面を設定し、実際に討論する活動を通して、複数の立場から考えるよさについて気付かせることをめざした。自分の意見を通すことに終始する児童や、他の友だちの意見を受け入れるだけになっていた児童へ、立場や意見を明確にして話すことの意義について考えさせることをねらった。第1時では自分の立場をはつきりさせてその根拠や理由を考えさせ、第2時では実際に2つの立場に分かれて討論会を行った。

初めに、場面設定と話し合う目的を伝えることで、本学習の課題を把握させた。そのうえで、よりよい提案をするためにどのような根拠や理由を述べれば有効か考えさせた。話し合いを広げ、さまざまな考え方が出る討論会にするために、どのような観点で質問や反論をすればよいかを、討論会の準備や実際の討論会の中で考える活動を通して、課題解決を図っていくこととした。

4. 校内研究と関わって

「主体的に学び、対話的に考えを深め合える子どもの育成」

～児童の言語感覚を養い、『読み解く力』を高める指導の在り方～

校内研究に関連して、本単元では以下のことを取り組み指導を行った。

①児童の躊躇の予想とそれに対する手立て

題材の特性上、「自分のチームの提案を通すこと」に意識が強くなり、異なる立場で意見を出し合ったり、質疑応答をして討論したりすることのよさに気付くのは難しいことが予想された。そこで、この討論の目的が「たくさんの意見を出し合い、第三者である『友だち』のよりよい判断材料にすること」である点を強調し、自分たちの間だけの勝ち負けにこだわらず、客観的に見て多くの視点や考え方が出る討論にしようと意識させた。また、結論自体は「AかBか」というシンプルなものになるが、話し合いを通じた考えの広がりを実感させるために、後述する「ABカード」に取り組ませた。

②対話的な学びを進めるために児童に与える視点

討論の意義は結論を出すことではなく、異なる意見が出され合う場でいろいろな考え方につれられること、話し合いを通して自分自身の考えにもより明確な根拠や理由が生まれることにある。今回の学習では、話し合いを聞く児童、話し合った児童自身の両方に「ABカード」に取り組ませた。これは「討論会前」「自分の討論会の

後」「別のグループの討論を見た後」の計3回、「今の時点で自分の思いはAとBのどちらに傾いているか」を、例えば「A60%・B40%」のようにパーセンテージで記せるものである。討論会を通してそれが変動し、その理由を添えて記すことで、「自分のチームの提案する選択がよりよいと思えた」「相手チームの提案する選択にもよいところが見いだせた」などという、考えの広がりに気付かせることをねらった。

③児童目線での授業研究会

- (1) 児童は討論会の中で、自分の立場や意見を明確にして話したり、質問に答えたりしていたか。
- (2) 児童は話し合いをすることによって考えが広がることを知り、複数の立場や意見で討論することのよさに気付いていたか。

5. 評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	主体的に学習に取り組む態度
思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使っている。 【(知・技) 1 (オ)】	「話すこと・聞くこと」において、立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。 【A 話す・聞く (1) オ】	互いの立場と考えの違いがはっきりするように進んで質疑応答をし、考えを整理したり広げたりしながら討論しようとしている。

6. 単元計画（全2時間）

時間	主な学習活動	指導内容及び支援【評価の観点】
1	<ul style="list-style-type: none"> ○「討論」についての経験を振り返り、単元のめあてを設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 立場をはっきりさせて話し合い、一つの問題を二つの立場で考えよう。 </div> ○討論の議題を確認する。 ○チームに分かれ、それぞれの立場で主張することを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> お互いの立場や意見をはっきりさせよう。 </div> 	<ul style="list-style-type: none"> ○討論の意義について知らせる。 ○事前にとったアンケートをもとに討論の話題を2つ設定し、それぞれの討論をするグループに分かれる。さらに、それぞれの話題について「Aを薦めるチーム」、「Bを薦めるチーム」に分かれる。 ○討論会の間、もう一方のグループは観覧役になる。その討論の話題について事前アンケートで「どちらか決められない」と答えていた児童が観覧役に含まれるよう、グループ分けを調整する。 ○「ABカード」の「討論会前」を書き、その時点での児童の考えを把握する。 <p>【知・技】互いの立場を明確にしながら討論する手順を理解し、学習の見通しをもっている。（発言・記述）</p> <p>【思・判・表】討論会に向けて、自分たちの意見が取り入れられるような理由を考えている。（記述）</p>

2	<p>○討論会を行う。</p> <p>○討論の中で気づいたことを共有する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>立場をはっきりさせて話し合い、二つの立場から考えるよさについてまとめよう。</p> </div>	<p>○前時をふまえ、討論の進め方を確認させる。</p> <p>○前半グループの討論と後半グループの討論を順に行い、待っているグループは様子を見て「気づいたこと」や「話し方・理由・根拠の示し方でいいと思ったこと」をメモさせる。</p> <p>○討論を通して変わった考え、深まった考えについて、「A B カード」に書かせる。</p> <p>○1つの物事について複数の立場から考えること、討論することのよさについて考えさせる。</p> <p>【思・判・表】互いの立場を明確にしながら討論を進めている。(発言)</p> <p>【思・判・表】討論を通して、多面的に物事を捉えることによって、考えを広げている。(発言・記述)</p>
---	--	---

7. 本時の目標

- 立場を明確にしながら討論し、多面的に物事を捉えることについて、考えを広げることができる。

【思・判・表 A 話す・聞く (1) オ】

8. 本時の展開 本時 (2時間目／2時間)

学習活動 ◎予想される児童の反応	指導のポイント・留意点	評価・評価方法
<p>1. 学習課題を確認する</p> <p>学習課題：討論会を行って互いのいろいろな考え方方に触れ、複数の立場から物事を考えることのよさに気付く。</p>		
<p>めあて：立場をはっきりさせて話し合い、二つの立場から考えるよさについてまとめよう。</p>		
<p>2. 討論の議題を確認し、前後半のグループで順番に討論会を行う。</p> <p><話し合いの流れ></p> <p>①両チームが主張を話す。</p> <p>②作戦タイム</p> <p>③質疑応答</p> <p>④両チーム、最後の主張を話す。</p>	<p>前半：過ごすならどちらの季節がいいか。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">A : 夏</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">B : 冬</div> </div> <p>後半：朝ごはんと食べ続けるとしたら、どちらにするか。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">A : ごはん</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">B : パン</div> </div>	<p>【思・判・表】互いの立場を明確にしながら討論を進めている。(発言)</p>

<p>※待っている方のグループは観覧し、ABカードに記述するためにはメモをとる。</p>	<p>考るよう促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループの討論終了後には、「ABカード」の「自分の討論会の後」や「別のグループの討論を見た後」の欄を書く。 観覧側の児童にはメモをとる際、「誰のどんな発言が印象に残ったか」に着目するよう声をかける。 	
<p>3. 討論の中で気付いたことや考えの変わったところをもとに、二つの立場から考るよさについてまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 考えが変わった部分や深まった部分については、互いの話し方や理由・根拠の示し方でいいと思ったことをもとに書くよう伝える。 机間指導を行いながら、一つの問題について二つの立場から検討することについて話しているグループがあれば、取り上げて価値づける。 最後に全体で共有する。 	<p>【知・技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。(発言・記述)</p>
<p>4. 単元の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 討論や討論後の話し合いを通して、立場を明確にして話すことや二つの立場から検討することについて振り返らせる。 	<p>【思・判・表】討論を通して、多面的に物事を捉えることによって、考えを広げている。(発言・記述)</p>

9. 板書

<p>ふ</p> <p>(例)・討論をすることと、自分の立場の意見も深く考えられた。</p> <p>・相手チームに質問されると困ってしまうので、討論の時は自分の考えの理由をもつとしつかりもつておきたいと思つた。</p>	<p>考が変わったり、深まつたりしたところが長いという良さに気付けた。</p> <p>・○○さんのように、聞いている△△さんが喜ぶように提案するのが上手だと思つた。</p>	<p>どちらを選びますか 立場をはつきりさせて話し合い、二つの立場から考るよさについてまとめる。</p> <p>討論の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両チームが主張を話す ・作戦タイム ・質疑応答 ・両チーム、最後の主張を話す <p>気付いたこと</p> <p>(例)・○○さんの発言のおかげで、夏は日が長いという良さに気付けた。</p>
---	--	--

10. 考察

①児童の躊躇の予想とそれに対する手立て



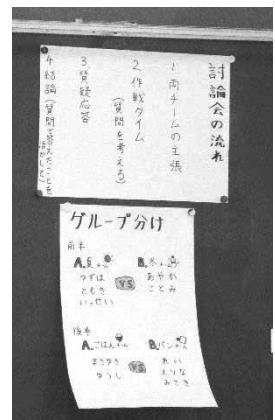
【成果】

今回の討論は、二つの立場に分かれて意見を出し合い、それを聞く第三者に対し説得力のある提案をするという場面設定に基づいて学習を行った。自分の意見を主張し相手を言い負かすことには終始する児童が出てくる懸念があったが、それを「ABカード」を用いた第三者からの判定ルールを設けることによってある程度方向性を定めることができた。その結果、自分の主張する立場の根拠や具体例をできるだけわかりやすく、多くの人が共感しやすい形で伝えようと努力する姿が見られた。また、判定した側の児童の振り返りにも、「自分も思ったことのある話が出ていて『たしかに』と思った。」など、討論の中で友だちの発言から気づいたことが書かれていた。討論会が單なる言い合いにならず、たくさんの意見が出て、第三者にとっても判定材料の出る建設的なものになったと考えられる。

【課題】

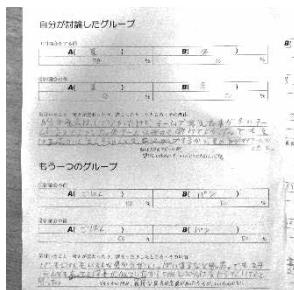
先に述べた通り、この学習では常に「話し合う児童」が「聞いている児童」を意識して話し合うことをねらいとしていた。しかし、実際の討論会では、話し合いが進むにつれてその両者の境界線があいまいになり、その結果、「聞いている」はずの児童が意見を話したり、質問をしたりする場面が見られたりしてしまった。また、話し合う児童のグループの中でも十分な役割分担ができておらず、実際の討論会の中でどうすればよいのか分からなくなっている児童もいた。発言の順番や回数を定めたり、「聞いている側の児童は討論中話さない」というルールを伝えたりするなど、討論中の役割に関する約束、討論会を成立させるために必要な約束ができておらず、準備不足が感じられた。

また、会の中での指導者の行動・役割についても課題が残った。この学習の中で指導者は、討論を進行し、児童に発言を促して要所で意見を言い換えるなどの司会的な役割を担った。しかし、そこで司会として児童に対する十分なフォローができていたとは考えにくい。討論の中で出た意見を板書にまとめ集約をすると、話し合う児童にも聞いている児童にも話し合いの流れが把握しやすくなるような支援が必要であった。



②対話的な学びを進めるために児童に与える視点

【成果】



討論の意義について気づかせることを目的に取り組んだ「ABカード」は、自分の元の意見にとらわれず、討論会そのものを評価させることに効果的だった。多くの児童が「(討論会をして)自分の立場のいい所がより見つかった」「相手の主張にもなるほどと思う所があった」などの振り返りを残していた。自分の主張をもって相手を言い負かすことではなく、意見をたくさん出し合うことの良さを感じられたことは成果と考えられる。

【課題】



児童は討論で意見を出し合うことの意義を理解しながら活動に臨んだが、振り返りを見ると「どのように話せば説得力が強まるのか」や「どのような意見が出ると討論会がよりよいものになるのか」ということに対する気づきが少なかった。それはこの学習において「討論そのものをどのように締めくくるか」と「どのような視点で本時の学習を振り返るか」という点が明確でなかったことが原因と考えられる。

本実践でのめあては「二つの立場から考えるよさについてまとめる」というものであった。しかしそのためには、児童にとってゴールが見通しやすく、具体的な到達点を設定する必要があったと思われる。「討論会で輝いていた友だちを見つける」や、「討論の流れの『決め手』になった発言を見つける」などがその例として考えられる。

今回は判定役となる児童が複数おり、「A Bカード」に自分の思いの変化をパーセンテージで示し、それを得点としてすることで各個人が判定を決めていた。しかし、今回の活動では討論の意見を集約し、結論として総括する時間が設定されていなかった。そのため、児童は自分たちの話し合った結果がどのような結論を生むことになるのか、聞いている側が最終的にどういう結論を出すかということを振り返れなかった。



それぞれの討論に結論を示すことで、児童は「自分たちの望む結論に至るにはどう考えて発言すればよいか」や、「自分たちの発言が一貫していたか、途中で無関係な横道に逸れなかつたか」などを振り返ることができたと考えられる。聞いている児童にとっても、「出た結論に大きく影響したのは誰のどの発言だったか」などを振り返る材料となり、より定まった視点で討論会を見ることができたのではないかと考えられる。

校内研究だよい

研究主題

主体的に学び、対話的に考えを深め合える子どもの育成
～児童の言語感覚を養い、『読み解く力』を高める指導の在り方～

12月7日（月）5校時 授業公開 5年生キクイタダキ学級
国語科「どちらを選びますか」光村図書5年

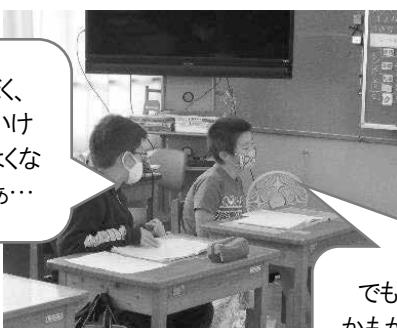
1. 授業の様子



私たちには、冬がいいと思います。なぜなら…



やっぱりぼく、ごはんもいいけどパンでもよくなってきたなあ…



でも、ごはんはふりかかけとかもかけられるやろ？味変できるし！炊き込みご飯とかも…

2. 校長先生・教頭先生より (○…成果 ●…課題 ↗…改善点)

○早い時期から教材研究に取り組んでいた。

●チームごとの役割分担や、話し合いを聞いている人へのフォローが十分ではなかった。

↗意見を板書したり、集約したりすることが担任としてのひとつの役目になる。

●討論する人・話し合いを聞く人の境界線がなくなってしまった。

↗討論は、結論を出すことが大切。今回は結論を出す時間を作れなかった。あえてテーマを2つにせず、1つに絞って意見の違いに気づかせてもよかったです。聞いている人はあえてしゃべらないというルールを守らせたかった。

●作戦タイムを十分生かし切れてなかった。

↗討論を楽しむためのルールや、作戦タイムの有効な使い方などの指導が必要だった。

●振り返りの視点が定まっていなかった。

↗討論会をすることが本時の目的であれば、「誰がこの討論会で一番輝いていたか」をみつけるという視点を与えておくことで、子どもたちの授業の参加の仕方が変わってくる。

瀬古先生、貴重な授業提供ありがとうございました！

第6学年 国語科 実践事例

日時：令和3年1月29日（金）5校時

指導者：寺川 紘理

1. 単元名 セルフプロデュース 卒業式

（教材文「みんなで楽しく過ごすために」光村図書6年生）

2. めざす子どもの姿

（1）この単元で身に付けさせたい言葉の力（単元目標）

・互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えをまとめることができる力。

【思考力、判断力、表現力等A（1）一オ】

・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる力。

【知識及び技能（1）一オ】

・自分たちも先生たちも納得のできる提案ができるように、目的をもって最後まで粘り強く学習に取り組むことができる力

【学びに向かう力、人間性等】

（2）身に付けさせたい言葉の力に関する子どもの実態

本学級の児童は、個人がもっている知識や語彙力に差はあるものの、わからないことを「わからない。」と言いかえる雰囲気があり、「ことば」がもつ意味や意訳したものを伝え合う風土が育っている。そのため、普段の会話や授業の中で、語彙や新たな表現方法を増やしながら生活できている。辞書をひくことや、ことばがもつ意味を尋ねると、自分たちなりに解釈して説明しようとする様子も見られ、ことばがもつ意味を理解し、説明しようとする力は、以前に比べて成長がみられていた。しかしながら、外部からの刺激が少なく、良い意味でも悪い意味でもさまざまな「ことば」や「表現」に触れる機会が少ないので現状であった。新しい「ことば」や「表現」を覚える場というのが、学校の中と家庭での動画サイトやテレビ番組の視聴中に獲得することがほとんどであり、特に動画サイトからの不確実な情報やことばがもつ意味を鵜呑みにして使用しているため、ことばの使いかたに對して疑問に思うところもあった。

また、友だち同士の会話に目を向けてみても、保育園の年長から6年以上も一緒に生活しているため、気心が知れしており、言葉にしなくても何を伝えたいのかがわかつてしまう状態であった。そのため、自分の思いとは多少違っていても、周りの友だちが言い換えてくれると「そのような感じかな。」と自分の主張を表出することが少なくなってしまう傾向があった。

国語科の学習の中では、1学期に目的や意図に応じて日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討する力を育成するため、『聞いて話を深めよう』という単元を活用してクラブ活動の運営方法について話し合った。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、例年のような活動をすることが難しいという制限がある中で、4・5・6年生全員が「安心・安全」に楽しめるためのクラブ活動の方法と内容、また、メンバーの決め方について話し合う必要があり、これらのことが、児童にとって話し合う必然性となり、目的意識がはっきりとした話し合いになった。また、聞いて考えを深めるために、校長にクラブ運営に関してのアドバイスをもらうことにした。メンバーの決め方について、自分たちが話し合って考えた方法には自信をもつことができていたため、校長からの鋭い質問にも、根拠を明らかにして話すことができていた。その一方で、よりよい活動にする

ためのアドバイスもいただくことができたが、自分たちの考えは変えないというこだわりも見られたことから、多様な意見を受け入れて再構築する力に弱さがみられるのではないかと考えられた。

それを確信づける出来事が、2学期教材である『いちばん大事なものは』で明らかになった。この単元では、自分が聞こうとする意図に応じて、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる力を育成することが目的であった。テーマは「修学旅行の昼食」とし、自分がおすすめするメニューとその理由を伝え合うことで、自分の考えを広めたりしながら、修学旅行の昼食で食べたいメニューを絞りこむために自分の意見と友だちの意見を比べながら、考えを深めていった。児童一人ひとりは、自分が食べたいものとその理由を明らかにして話すことができ、友だちが選んだメニューの良さについても聞き合うことができた。しかしながら話し合いが終わった後も、誰一人として自分が食べたいメニューを変更した児童はおらず、友だちの意見を聞いても気持ちが揺れ動くことはなかった。自分の意見と友だちの意見を比べることはできても、みんなの考えをひとつにまとめるために折り合いをつけるところまでには至らなかった。一度自分で決めたことは他の意見を受けても変えることはしないという強い意志やこだわりが顕著に表れた。

このような実態を踏まえ、3学期は『みんなで楽しく過ごすために』という単元に取り組んだ。本単元では、児童にとって共通の話題となる「卒業式」を取り上げることによって、自分たちで考えた卒業式を先生方に提案するというより明確な目的意識をもちながら話し合い活動を進めていくことの必要性を感じた。そのなかで、話し合いの取組具合によって、卒業式の内容が採用されるかどうかというわかりやすく結果に結び付く内容が、児童の中に話し合う必然性を生み、考えを共有したり試行錯誤したりしながら、意見の再構築をすることの重要性や、周囲との折り合いのつけ方についても学習していくことができるのではないかと考えた。

本単元で最もつけたい力は、考えをまとめる力つまり『意見の再構築』であった。中学校進学に向け多人数の集団の中への学びの世界を広げていく児童にとって、本単元でつけたい力を習得することで、国語科だけの学びにとどまらず、よりよい人間関係の構築のためのスキルとしても役立てることを期待した。

3. 題材の特質と学びのつながりを生む単元構成の工夫 (教材と指導について)

本単元は、学習指導要領(平成29年告示)第5学年及び第6学年

1. 知識及び技能

(1) 一オ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。

2. 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

(1) 一オ 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。

言語活動

(2) 一ウ それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。

に基づいて構成したものである。

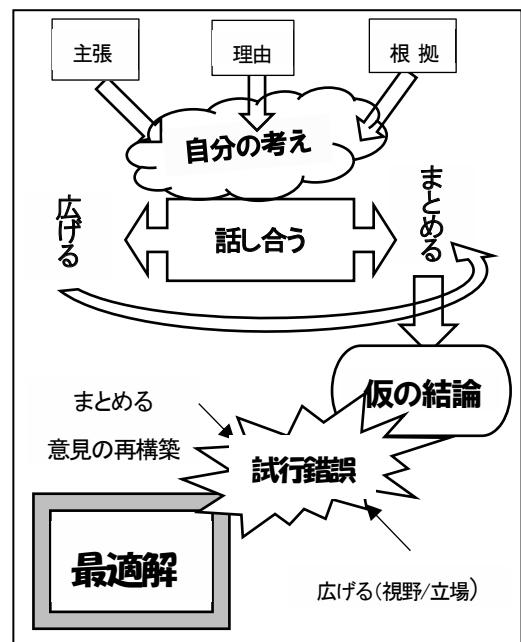
本単元は小学校生活最後の「話し合う」単元である。進行計画を立てることや、主張・理由・根拠を明らかにして自分の考えをまとめておくこと、目的や条件に照らし合わせて話し合うことにおいては、既習事項であり、日常生活の話し合い活動の中でも無意識のうちにこれらの力を発揮して学習を進めることができた。しかしながら子どもの実態のところでも述べたように問題点を明らかにしながら考えを共有することや、試行錯誤を繰り返しながら意見の再構築を行い、最適解を探すことを重点的に指導する必要があった。児童がやりとりを繰り返すことで新たな課題を見つけ、それを乗り越えるための話し合いを行うということも含めながら、「広げる」ことと

「まとめる」ことそして、一度「仮の結論」を出した後さらに思考を深め、よりよい考え方の再構築を目指す過程を大切にしながら学習を進めていった。

第一次では、議題として「卒業式」を取り上げることを知るとともに、卒業式はだれのためであるか、またはどのような目的で行われているのかについて考えさせた。相手意識と目的意識を明確にすることで、話し合うことに対する必然性が生まれるだろうと予想した。本単元では自分たちの卒業式をプロデュースするために話し合うことを言語活動として設定するため、話し合う方向性としては、意見を一つにまとめる必要があることも自覚させたかった。また、話し合いの進行計画を立てる際に、話し合いの方向性や時間配分についても考えさせることで、話を広げすぎることはないか、結論を後回しにすることのない建設的な話し合いの必要性を感じられているか、など話し合いの目的やルールについても確認させたいと考えた。

第二次では、昨年度までの卒業式をふり返り、「今年もぜひ続けたいもの」「今年は形を変えてでも続けたいもの」「今年は取りやめておいたほうがいいもの」について分類するとともに、主とした議題として取り上げるものとして「今年は形を変えてでも続けたいもの」に特化し、なぜそう考えたのかについて話し合いを通して考えを深めさせていきたいと考えた。自分の考えを明確にして伝える際には、主張と理由、そして根拠を明らかにすることを意識づけるようにした。ここで、出された意見について質問や疑問を明らかにしておくことが考えを広げる話し合いにつながっていくと推測した。考え方をまとめる話し合いについては、広げる話し合いで出された意見について、共通点や異なる点を明らかにしたり、問題点と改善点を明確にしたりしながら、仮の結論を導き出していく。ここで重要なのは、児童だけが納得のいく結果であってはいけないということであった。卒業式は儀式的行事であり、学校行事の中で児童の意見だけが採用されるものではない。意見を一つにまとめる際には、「この提案をして、先生方に理解が得られるのか」という視点が必要になってきた。自分たちの意見をまとめる時を「仮の結論」とし、その後、先生方が納得のいく提案と説明になっているのかを再度話し合うことで意見の再構築をさせたいと考えた。

第三次では、今まで話し合った結果をもとに提案書を作成し、校長に向けての提案を行った。話し合う活動に重点を置くため、説明するための準備に時間を割くことはせず、話し合ったことを校長に伝わるようについていねいに報告させるようにした。その後、児童の提案を受け卒業式の流れについて職員で会議を行った。その結果については児童に報告し、再度検討の余地があるものについては、問題点を明らかにすることから話し合いを行い、再び最適解を導き出せるように支援した。



4. 校内研究と関わって

「主体的に学び、対話的に考えを深め合える子どもの育成」
～児童の言語感覚を養い、『読み解く力』を高める指導の在り方～

校内研究に関連して、本単元では以下のことについて取り組み、指導を行った。

①児童の躊躇の予想とそれに対する手立て

互いに意見を出し合った後の「まとめる話し合い」において共通点や相違点を見つけ出すことや、問題点について根拠を明らかにしながら建設的に話し合うことについて躊躇が見られると予想された。話し合いが思うよう

に前に進まず堂々巡りすることも予想された。そのときには一次で話し合った「卒業式の目的」に立ちもどり、先生方に卒業式の提案をして納得してもらうことが、今回の話し合いで達成したいところであることを確認するようにした。あわせて、話し合いが停滞していると感じられる場合には、話し合いの進行計画に再度目を向け、この話し合いで必要なことは何なのかを自覚させるようにした。

②対話的な学びを進めるために児童に与える視点

対話的な学びを進めるためには、以下の視点を児童に与え、話し合いの目的からの「ずれ」が最小限になるよう配慮した

- ・自分たちで考えた卒業式を先生方に提案するために、話し合う。
- ・「考えを広げる話し合い」と「考えをまとめる話し合い」の両方を繰り返して、考えを固めていく。
- ・仮の結論を出した後、自分たちの提案が先生たちも納得のいくものになっているのか視点を変えて話し合う。

話し合いが白熱したと自分の意見をなんとか通そうとするあまり、全員が協力して意見を構築しようとする思いが弱まっていくことが予想された。そのようなときは、出し合った意見の中で「共通点」や「相違点」を見つけることや、話し合っている中の「問題点」は何かということについて指導者を含めて整理することで、見失いかけていた話し合いの道筋を再び見つけ出すきっかけにした。

③児童目線での授業研究会

- ・児童は、最適解を見つけ出すためによりよい意見を出し合い、話し合うことができたか。
- ・児童は、相手の思いを自分の考えや思いと比較しながら聞き、意見の再構築に活用していたか。

5. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
語感や言葉の使い方に 対する感覚を意識して、 語や語句を使っている。 【(1) 一オ】	「話すこと・聞くこと」において、 互いの立場や位置を明確にしながら 計画的に話し合い、考えを広めたりま とめたりしている。 【A 話す・聞く (1) 一オ】	言葉を通じて積極的に話し合いの相手 と関わり、よりよい解決に向けて見通しを もって話し合おうとしている。

6. 単元計画 (全8時間)

※下線部が各次の指導の重点

次	時間	主な学習活動	指導内容及び支援【評価の観点】
一	2	<u>学習活動の見通しをもつ</u> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業式の目的について話し合 う。 ・話し合いの仕方について学ぶ。 (予習) ・思い出に残っている卒業式に についてのインタビュー活動・調 べ学習をする。 	<p>○卒業式について、相手意識と目的意識を明確にさせる。</p> <p>○話し合いには「考えを広げる話し合い」と「考えをまとめる 話し合い」があり、今回は仮の結論を出してから意見の再構 築をすることが重要であることを周知する。</p> <p>○家族や先生に「思い出に残っている卒業式」についてインタ ビューすることで、自校の卒業式以外のものに触れ、卒業式 にも多様な方法があることを知らせる。</p> <p>【思考・判断・表現】目的や意図に応じて、議題に関わる目的 意識を明確にしている。(発言)</p>

二	4 (本時 5 /8)	<p>話し合い活動に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「今年もぜひ続けたいもの」「今年は形を変えてでも続けたいもの」「今年は取りやめたほうがいいもの」に分類して、その理由について考える。 ・分類したものを伝え合い、考えが共通しているところと違っているところを見つけ出す。 ・「今年は形を変えてでも続けたいもの」について話し合い、どのように変えていくのか6年生の意見として考えをまとめ る。 	<p>○「今年もぜひ続けたいもの」「今年は形を変えてでも続けたいもの」「今年は取りやめたほうがいいもの」に分類する際、自分たちの目線で考えるだけでなく、家族や在校生、先生たちの目線に立って考えられると視野が広がることを気づかせたい。</p> <p>○考えたことを伝え合い、共通点と相違点を見つけ出しながら「今年は形を変えてでも続けたいもの」について、どのように変えていけばいいのか考えを深めさせる。</p> <p>○話し合う際には、話し合いの進行計画を確認し、児童だけで話し合いが進められるようにする。</p> <p>○話し合いの目的が見失われそうな場面が見られたときは、<u>「共通点」や「相違点」を見つけること、話し合っている中の「問題点」は何かということについて指導者を含めて整理し、話の道筋を見つけだせるようにする。</u></p> <p>【思考・判断・表現】互いの立場を明確にして進行計画に沿って話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。 (話し合い)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】よりよい解決に向けて見通しをもって話し合っている。(話し合い)</p>
三	2	<p>提案する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長先生に向けた提案の準備をする。 ・校長先生に向けて自分たちが考えたことを説明する。 	<p>○報告をする際には、主張と理由、根拠となることを端的に説明できるように指導する。また、自分たちの思いについてはしっかりと伝えるよう指導する。</p> <p>【知識・技能】報告にふさわしい話し方になるように、言葉の使い方に対する感覚を意識して語や語句を使っている。 (提案)</p>

7. 本時の目標

「今年は形を変えてでも続けたいもの」について理由を明らかにしながら話し合い、仮の結論を導き出すことができる。

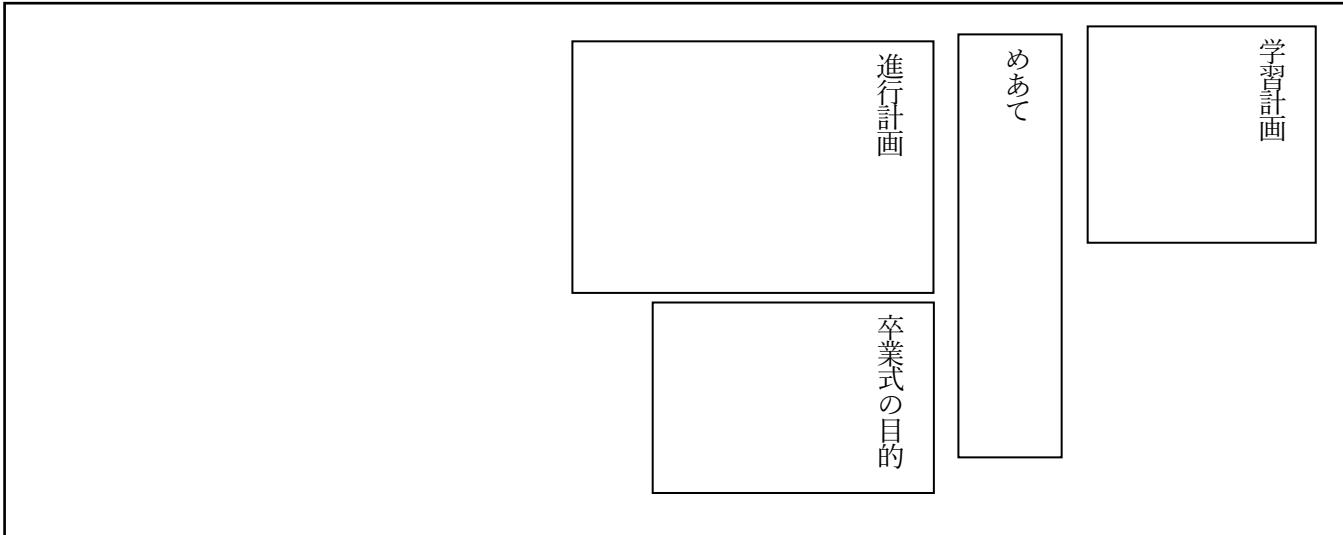
8. 本時の展開 本時（5時間目／全8時間）

学習活動	指導のポイント・留意点	評価・評価方法
<p>◎予想される児童の反応</p> <p>☆予想される児童の提案</p>		
<p>1. めあてを確認する</p> <p>「今年は形を変えてでも続けたいもの」について理由を明らかにしながら話し合い、仮の結論を導き出していくことを確認する。</p> <p>◎話し合いの目的は、自分たちも、先生たちも納得するような提案を考えることだ。</p>	<p>・本時の話し合いは、「考えをまとめる」ための話し合いであることを確認する。</p>	

めあて：考えを一つにまとめるための話し合いをしよう。

<p>2. 考えをまとめる話し合いを行い、共通点や相違点、問題点や改善点を明確にしながら仮の結論を出す。 (ひとつの項目について話し合いの目安時間：20分)</p> <p>◎感染症対策をしなくてはいけないと思うよ。</p> <p>◎今までの6年生のように呼びかけをしたり「旅立ちの日に」をうたったりしたいな。</p> <p>◎今年はいつもと違う年だから、今までの通りにはできないと思うよ。</p> <p>◎お家人への感謝を伝えたいな。</p> <p>◎卒業式を通して、いろんな人に伝えたいことがあるということは共通しているね。</p> <p>◎どんな風に形を変えればいいんだろう。</p> <p>☆呼びかけは形を変えても続けたい。</p> <p>☆卒業式で歌う曲の数は減らしたほうがいい。</p> <p>☆生き方学習で学んだことじやなくて、自分たちの思い出を話すのはどうか。</p> <p>3. 本時の振り返りと次時の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの目的からそれそうになった場合には、児童と一緒に意見の整理を行い、話し合いの道筋が見えやすいように軌道修正する。 児童の話し合いを見守りつつ、理由を明らかにしないで意見を押し切ろうとする様子が見られた場合には、自分の考えを再度整理して伝えるよう促す。 「今年は形を変えてでも続けたいもの」として挙げられた項目が少ない場合、仮の結論を出した後、視点を変えて再度話し合い、よりよい意見（最適解）の再構築を目指すよう促す。 意見の再構築を目指す際には、相手の立場を念頭に置くこと、自分たちでまとめた仮の結論も軽んじることなく、お互いの意見や考え方を尊重しあえるようにすることを伝える。 本時の話し合いでよかったところを伝えるとともに、課題となるところについても児童と共有する。 次時は最適解を目指すため、意見の再構築を行う時間とすることを伝えるとともに、視野を広げることの良さについても前時までの学習をふりかえりながら、気づかせたい。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 互いの立場を明確にして話し合い、考えをまとめている。（話し合い）
--	---	---

9. 板書

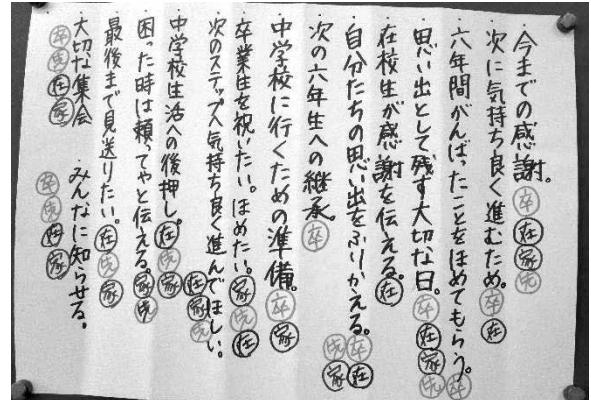


10. 考察

①児童の躊躇の予想とそれに対する手立て

【成果】

話し合いが思うように進まず堂々巡りすることを予想していたが、「卒業式をプロデュースする」という目的意識が明確であったことから、目的から離れた話し合いになること少なかつた。卒業式の目的を考え始めたときは、卒業生自身や在校生に目を向けた目的が多く出された。しかし、今回の話し合いのポイントは「立場を変えて話し合う」ということであると事前に伝えていたため、家族や先生たちにとって「卒業式」とはどういうものなのかについても考えることができた。「祝ってあげたい」「困ったときには、これからも頼ってねと伝えたい」など見方を変えることで、今まで気づかなかつた人の思いに目を向けることができた。

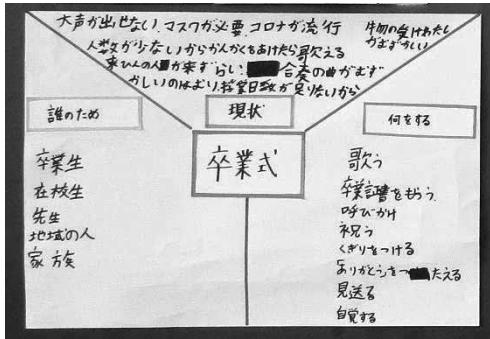


【課題】

卒業式は「誰のため」に「何をする」という目的を考えた後、学校生活で直面している「現状」にも目を向けることにした。すると、この「現状」が児童の思考の中に大きく影響を及ぼしてしまうこととなつた。例として、児童は在校生に花束を渡して欲しいけれど、卒業式で新型コロナウイルスの感染者を出すわけにはいかないという思いを強くもち、その解決策を話し合うために多くの時間を割いてしまつた。そのため、自分たちが主として考えることができる「呼びかけ」や「卒業式の歌」に話し合いの重点が置かれる時間が短くなつてしまつた。

「自分たちも先生たちも納得のいく提案」という言葉に児童が敏感になりすぎるあまり、自分たちが本当にしてほしいことや、したいことを考へるのではなく、いかにして感染対策を行うのかということに重点が置かれてしまつた。この事態を踏まえ、感染症対策や卒業生以外が大きく関わること（自分たちではどうにもならないこと）については一度自分たちの話し合いの土台から離して、本当に自分たちがしてみたいことを話し合つてから、視点を変えた話し合いをするよう指導した。それでも、「感謝を伝えるために歌は必要だ」と主張する児童もいれば「卒業式の歌で感染を広めてはいけないから、歌をやめて合奏にするべきだ」という児童もいて、児童

の間に、新型コロナウイルスによる影響が非常に大きくのしかかっていることを思い知らされる場面となった。



児童にとって、今回のように目的意識を明確にもたせて話し合いを進めることは、一つの答えにまとめていくといく過程において重要なことが分かった。しかしながら、意見の再構築を目指す際に、今回のような「大人の思いや願い」「社会の状況」などが大きく関わりすぎると児童は本音で語ることができず、自分たちだけでは解決しきれない問題に目を向けてしまうことがわかった。小学6年生の3学期という学習のまとめ段階での話し合い活動において、自分たちでつくりあげた意見を再構築するという新たな視点をもつことは、これから日常生活の中で話し合いを進める際にも必要な力である。ただし、再構築するために常に大人の立場に立って考えるのでは、児童が本音で話し合うことが難しくなってしまう。そのため、他者の立場で考える際の相手を工夫する必要がある。立場を変えて考える際にモデルにする相手は、できる限り身近な存在であることが望ましい。また自分たちも経験したことのある内容が話し合いの議題になっていることで、自分たちの経験をもとに「今」の自分と「過去」の自分とで立場を変えて話し合えるのではないかだろうか。

②対話的な学びを進めるために児童に与える視点

【成果】

「卒業式をプロデュースする」という目的意識が明確であったことで、児童は今まで自分の考えを述べることはできても、その理由についてはあまり詳しく話してこなかった。しかし、本単元では話し合った結果が自分たちの卒業式という形で現れるという条件があるため、お互いの考えを深く理解する必要があった。そのため、必然的にお互いに理由を確かめ合ったり、「〇〇でよくない?」と折衷案を出し合ったりと今までにない前向きな話し合いが行えるようになっていた。

また対話的な学びという視点では、友だちが意見を最後まで



伝えきれていないと判断した際には「ほかに言いたいことないの?」と尋ねる児童も現れた。また、お互いの主張を聞きあう際には色カードやホワイトボードを活用することで「意見が変わったと言葉でいいにくいかもしれないから、書いたり出したりしたほうがいいやん。」とお互いを思いやりながら意見が主張できるように話し合いを進めることができるようになった。

その後のクラスの話し合いでも「なんでそう思うの?」と自然に理由を聞くことや、「こっちは譲るから、これだけはしたい!」と自分の思いの伝え方を変えることができるようになった。話し合うことに目的をもつことや、よりよい解決策を見つけ出すために話し合いが必要だという意義が、本単元を通して児童の中に浸透したのではないかと考えられる。

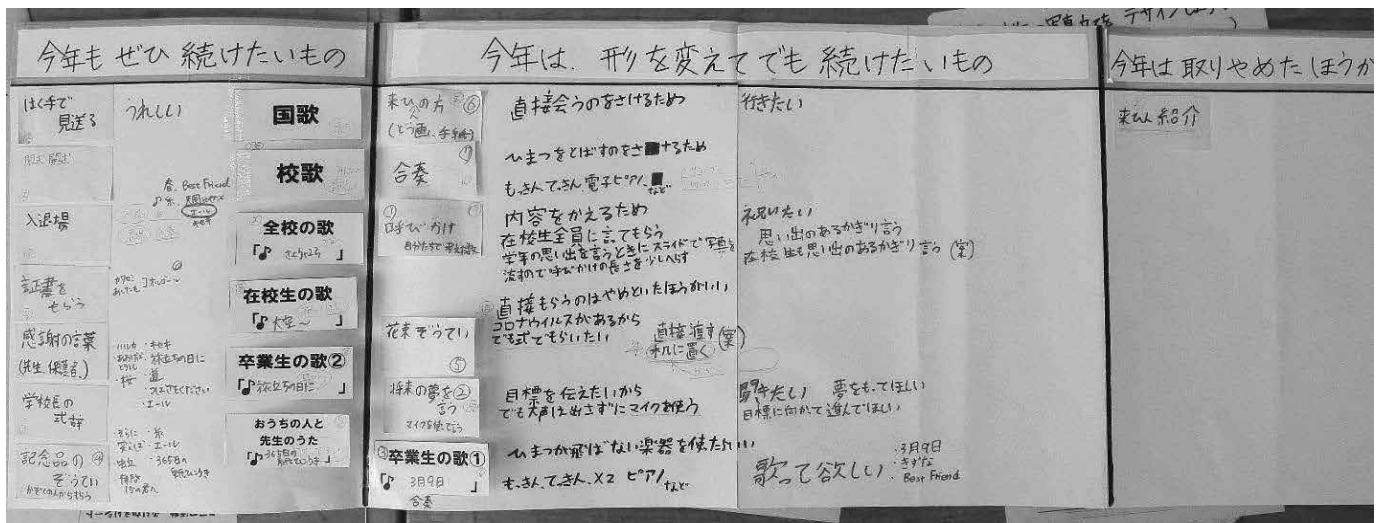
【課題】

考えを広める話し合いでは、思いついたことや考えたことについて順序を気にすることなく話していく。そのため、考えを広める話し合いの際に作ったメモは、重要度や優先順位がついていないままのものになっている。しかしながら考えを固めていくためには、さまざまな面を考慮しながら話し合いを進める必要がある。児童は、出し合った意見の一つひとつを取り上げて解決していくこうとしたため、自分たちでだけでは解決しきれない議題

になった時も、なんとか話し合いをして結論を導き出そうとして多くの時間を割いてしまった。話し合いには重り度や優先順位をつけることも重要であるということに気付かせるタイミングも遅くなってしまったため、効率的に生産性の高い話し合いにはならなかった。



話し合いが行き詰ったときに、目的に立ち戻って何のためにこの話し合いを行っているのか確認することも重要である。しかしながら、それ以前に考えをまとめる際には優先順位や重要度を確認しあい、ひとつ解決すれば関連して解決できるものもあるということを伝える必要がある。児童に気づかせるべきことと、指導として児童に教えることを見極め、スキルとして身につけておくべきことについては、その時その時に応じて適切なタイミングで指導する必要がある。



校内研究だよい

研究主題

主体的に学び、対話的に考えを深め合える子どもの育成

～児童の言語感覚を養い、『読み解く力』を高める指導の在り方～

1月29日（金）5校時 第4回授業研究会 6年生椋鳥学級

国語科：セルフプロデュース卒業式（「みんなで楽しく過ごすために」光村図書6年）

1. 参観のポイント

- ①児童は仮の結論や最適解を見つけ出すために、よりよい意見を出し合い話し合うことができていたか。
- ②児童は、相手の思いを自分の考えや思いと比較しながら聞き、意見の再構築に活用していたか。

2. 授業の様子

めあての確
認と話し合
いのねらい
の確認



「せえの一で。…」みんなで、ホワイトボードを見せ合う。

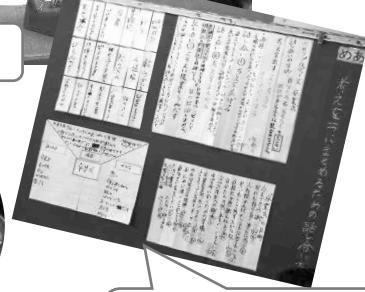
「じゃあ、
これでい
い？…」
書き込む。



まずは、
歌うか歌
わないか
…。



次は、これについて話し合おう！



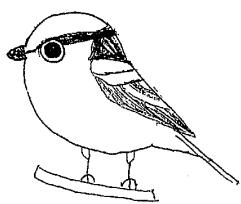
見通しがもてるよう、
学習の資料を提示！

3. 研究会より (○…成果 ●…課題 ⇝…改善点)

- これまでの学習の足跡が残るように工夫されていて、どの子も見通しをもってより良い意見を出し合い、学習に臨めていた。
- 5人の話し合い活動では、目的意識をもちながら主体的に話し合い、役割を決めなくても自分たちだけで、話をつなげて進めることができた。
- 教師の助言や資料を渡すタイミング等支援が適切で、かつ助言も最小限に絞られていて見習うべきことが多かった。
- 日頃の学級経営が反映されていて、友だちの言いたいことをくみ取ったり、教え合ったりしていて、雰囲気がとても良かった。
- 友だちの思いや意見を聞き意見の再構築を行い、相手の意見を肯定する発言が見られたり、自分の意見を変えたりする様子が伺えた。
- 「今年は形を変えても続けたいもの」についての話し合い中、理由を話すか対策を話すかで、子どもたちの中での迷いが見られた。
- 振り返りの場面では、今回は教師がまとめてしまったが、子どもの声で振り返りができるともっと良かった。
☞教師がまとめて振り返る場合もあるし、子ども自身が発表して振り返り場合もあるので、その時々に見極めることが大切である。

寺川先生、貴重な授業提供ありがとうございました！

Memo



IV. 令和3年度授業実践

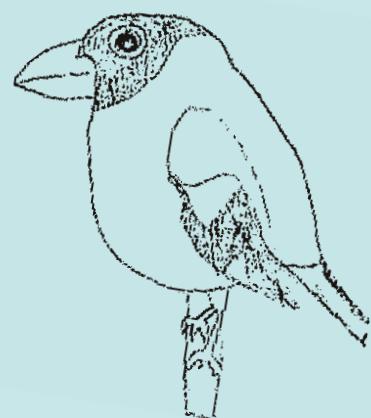
ひまわり学級「国語科」

6年生「国語科」

3年生「国語科」



サンコウチョウ



イカル

ひまわり学級 国語科 実践事例

日時：令和3年5月24日 2校時

指導者：鈴木 健悟

1. 単元名 先生と仲良くなろう！～先生たちとオリジナルかるたで遊ぼう～

2. めざす子どもの姿

(1) この単元で身に付けさせたい個別の力（単元目標）

- ・相手に伝わるように、話す事柄の順序に気を付け具体例を挙げながらゲームのルール説明ができる。
- ・相手に伝わるように、話す事柄の順序に気を付け、必要な事柄を落とさずにゲームのルール説明ができる。
- ・自分が負けたり、うまくいかなかったりしてもすねずに気持ちを切り替えることができる。（自立）

(2) 身に付けさせたい力に関する子どもの実態

本学級の児童は明るく元気な性格であり、人と接することが大好きである。休み時間にはジェンガや、カードゲームを使って遊んだり、時には体育館で交流学級の友だちと遊んだりして、楽しく過ごしている。昨年度から、言語でのコミュニケーション能力を高めることを目標としてきた。生活単元学習や国語科の学習の中で、「お休みトーク」を通してスピーチをしたり、ゲーム屋さんを開き、相手に説明したりすることで、わかりやすく話す力を伸ばしたりしてきた。少しづつ力を伸ばしてきているが、まだ、わかりやすく伝える力については弱さが見られるため、今年度も引き続き、言語によるコミュニケーション能力を高めるための学習が必要である。

今年度はまず、夏野菜を育て、八百屋さんの開催することで、コミュニケーションの力をつけることを目標とした。自分が好きな野菜だけでなく、どんな野菜を育てれば先生たちが買ってくれるかを調べるために、アンケートを取ることとなり、その中で、協力を依頼する際の適切な話し方を考え、調査活動を行うことで、コミュニケーションの向上に向けた取り組みを始めた。

今回は昨年取り組んだ「ワードウルフ大会」の経験を生かし、ひまわりスペシャルかるた大会を開くことで、より一層、相手にわかりやすく説明する力をつけることを目的とした。本学級の児童は、カードゲームを好んでおり、休み時間にもよくカードゲームを使って遊んでいる。また、学校の先生を相手にして学習を行うことも好んでおり、先生を招待するとなると、興味関心を強く持つことが多い。そのため、本単元では楽しいイベントを題材にすることで、児童の学習意欲を喚起することができると考えた。先生を招待するために、どのような準備を行えばよいかを考える活動を仕組む中で、主体的に話し合いに参加する力を育てていくこととした。今回採用したひまわり学級オリジナルルールについて先生たちに説明する際、どのように説明すれば、うまく伝わるのかを考えることで、相手に対してわかりやすく話す力を伸ばしていきたいと考えた。

3. 題材の特質と学びのつながりを生む単元構成の工夫

本単元は、国語科学習指導要領解説（平成29告示）第3学年及び第4学年

1. 知識及び技能

日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようとする。

2. 思考力、判断力、表現力 A 話すこと・聞くこと

(2)筋道を立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようとする。

ア 目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。

イ 相手に伝わるように、理由や事例を挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。

ウ 話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。

言語活動

ア 説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたり、それらを聞いたりする活動。

ウ 互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。

及び、国語科学習指導要領解説（平成29告示）第1学年及び第2学年

1. 知識及び技能

日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようとする。

2. 思考力、判断力、表現力 A 話すこと・聞くこと

(2)順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようとする。

ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。

イ 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。

ウ 伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。

言語活動

ア 紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出て確かめたり感想を述べたりする活動。

イ 尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。

に基づいて構成したものである。

本単元では子どもにとってなじみ深い、「かるた」を教材とし、交流学級の児童や学校の教師にそのゲームを通して、ひまわり学級での学習や様子を学校の教師に知ってもらうことを学習のゴールとした。なじみ深い遊びであるが、今回はオリジナルルールを取り入れ、かるた大会をより盛り上げるために、ゲームのルールをわかりやすく相手に説明する力が必要不可欠であった。本学級の児童は「相手にわかりやすく伝える力」にそれぞれの課題を抱えており、昨年度からゲーム大会を開き、人前でわかりやすく話すことを積み重ねてきた。本単元では、かるた大会をより楽しくするというためにオリジナルルールを取り入れて、それを説明する活動に重点をおくことで、どのように説明すれば相手は理解してくれるのかを主体的に考える力をつけることをねらいとした。本学級では昨年度、「ワードウルフ大会」を行い、ルールを説明する学習を経験した。その中で、お手本などの具体例を入れながら話すことでも、よりわかりやすく伝えることができるることにも気づいたため、昨年度つけた力を生かしながら、更にルールを理解しやすいような説明をできるようにすることを目標とした。

4. 校内研究と関わって

「主体的に学び、対話的に考えを深め合える子どもの育成」
～児童の言語感覚を養い、『読み解く力』を高める指導の在り方～

校内研究に関連して、本単元では以下のことに取り組み指導を行った。

① 児童の躊躇の予想とそれに対する手立て

- ・説明の際、思いつくままに話してしまい、相手に伝わりづらい。

→ルール説明の原稿を作成する際、「まず、次に、最後に」などの順序を表す言葉を示し、それを用いて原稿を作成させる。また、説明をより具体的にするために、お手本や実演を取り入れた。

→特別なルールを自分たちで考え、説明する活動を取り入れることで、相手にわかりやすく説明する必然性をつくった。

② 振り返りの充実

- ・振り返りにおいて、「特別ルールを正しくわかつてもらえてよかったです。」「お手本を見せたら、先生たちにわかりやすく説明できて、楽しんでもらえてよかったです。」といった内容が書けるよう、よりルールを理解しやすい説明を意識できるようにした。そのために、自分たちだけでなく、相手にも楽しんでもらうためにはどのように説明すればよいかを考えることができるようとした。

③ 児童目線での授業研究会

- ・児童は相手意識を持ち、わかりやすい説明を意識してルールの説明ができていたか。

5. 評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	主体的に学習に取り組む態度
・わかりやすくかるたのルールについて説明するため、必要な語句を探そうとしている。 【(1) (ア)】	・「話すこと・聞くこと」において、相手にわかりやすく伝えられるよう、順序や具体例を用いることに気をつけながら、かるたのルールを話そうとしている。【A 話す (イ)】	・相手にわかりやすく伝えられるように、積極的に説明文を考え、かるたの説明をしようとしている。

6. 単元計画（全8時間）

次	時間	主な学習活動	指導内容及び支援【評価の観点】
一	①	学習活動の見通しをもつ ○「第三小かるた」のゲームを実際に体験する。 ○先生を招待することを知り、次時からすることに見通しを持つ。	○昨年度に6年生が作った第三小カルタで、オリジナルかるたの楽しさに触れられるよう支援する。 ○先生を招待するだけでなく、新しく来た先生にひまわりを知ってもらうという目的意識をもてるようとする。 ○わかりやすいルール説明が重要であることに気づかせる。 【主】 まずは自分たちがかるたを楽しみ、学習内容について見通しを持つことで、これからかるた大会の準備をしていくことに意欲を持っている。（発表・行動観察）
二	②	「ひまわりかるた大会」の開催に向けて、必要な準備をする。 ○かるたを通してひまわり学級を知ってもらえるような、五十音の文章を考える。	○五十音を分担して考えるようにする。 ○ひまわり学級ならではのテーマを考えさせることで、かるた大会に向けての意欲を高める。 【主】 どのようなかるたにすれば、ひまわり学級らしさができるかを考え、進んで発表しようとしている。（発表）

	③	○決まった文章を元に、取り札や読み札を作る。	○よりよい一文が浮かんだ際は、文言を変更してもよいことを伝える。 ○取り札の絵には写真データや画像データを利用し、絵に対しての苦手意識を軽減できるようにする。 【知】言葉の持つ特徴を表す言葉を意識して、書き込んでいる。 (発表・プリント)
	④	○かるたの特別ルールを考える。	○ゲームバランスを崩さないように意識させながら、加点の仕方や、特別カードの枚数を考えられるようにする。 【主】かるたをもりあげるためのルールを考え、進んで発表しようとしている。(発表)
	⑤	○かるた大会の説明原稿を作る。	○説明の際に必要となる言葉を黒板に列挙したうえで、順序を表す言葉を示し、どのように文を繋いでいけばわかりやすいかを考えられるよう支援する。 【知】順序を表す言葉を使い、自分の伝えたいルールをわかりやすく原稿にまとめようとしている。(発表・プリント)
	⑥	○原稿を読みあい、わかりやすいものになっているか推敲する。	○言葉だけでの説明が難しい場合、具体例を入れたり、実際に見せてみたりすることも有効であることを伝える。 【知】助言をもとに文章の組み立てを再考しようとしている。 (発表・プリント)
	⑦	○ひまわりかるた大会に向けて、説明の練習を行う。	○声の大きさや、説明する速さ、目線についてポイントを絞つて提示し、練習の際に意識できるようにする。 ○練習の様子を動画で撮影し、自分たちで見返すことで、自分で改善点に気付けるようする。 【知】声の大きさ、速さ、目線を意識し、相手にわかりやすい説明をしようとしている。(発表・行動観察・動画)
	⑧ （本時）	○第三小学校の先生を招き、ひまわりスペシャルかるた大会を開催する。	○特別ルールを拡大提示しながら説明できるようにする。 ○お手本を見せてることで、よりわかりやすい説明ができるようする。 【思】相手にわかりやすく伝えられるよう、順序や具体例を用いることに気を付けながら、ひまわりかるた大会のルールを話そうとしている。(発表)
三	⑨	学習活動を振り返る。 ○説明はうまくできたか、ひまわりのことを知ってもらえたか、について振り返る。	○参加した教師にインタビューすることで、振り返りに客観的な視点をもてるようする。 【主】進んで自分たちの活動を振り返り、良かった点やもうこうしたかった点を考えさせる。(発表・プリント)

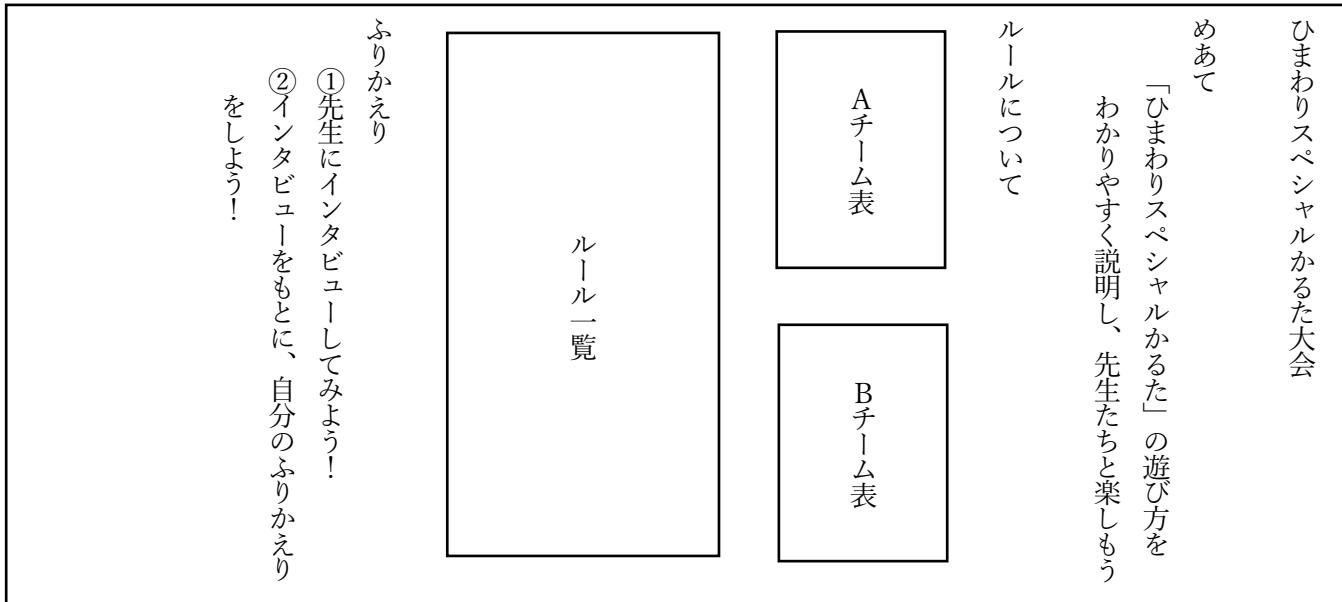
7. 本時の目標

- ・相手に伝わるように、話す事柄の順序に気を付け、具体例を交えてルールが説明できる。
- ・相手に伝わるように、話す事柄の順序に気を付けてルールの説明ができる。
- ・かるたの途中で自分が不利になってしまっても、すねずに気持ちを切り替えることができる。(自立)

8. 本時の展開 本時（8時間目／9時間中）

学習活動 ○予想される児童の反応	指導のポイント・留意点	評価・評価方法
1. 前時までの学習を振り返る。 2. 学習課題を確認する。	・前時までの学習内容を思い出し、本時ですることを確認する。	
めあて：「ひまわりスペシャルかるた」の遊び方をわかりやすく説明し、先生たちと楽しもう。		
3. ○先生に「ひまわりスペシャルかるた」の方法を説明する。 ○先生と「ひまわりスペシャルかるた」のゲームを実際にを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルかるたでの特別ルール一覧を作成し、提示しながら説明ができるようにする。 ・場合によっては具体的にお手本を見せながら説明ができるようにする。 ・特別ルールによる加点を覚えておけるよう、加点があった時には、ポイントカードを渡せるようにしておく。 ・かるたは2セット作り、それぞれのチームに分かれてゲームができるようにする。 ・読み役は教師が行う。 ・取り札の裏側につける個別ミッションは当日まで児童には伝えないでおく。 ・個別のミッションはそれぞれの児童の実態に合わせ、内容が違うものにする。 	【思】相手にわかりやすく伝えられるよう、順序や具体例を用いて、ゲームのルール説明ができる。（発表）
4. 本時の活動を振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りシートに書き込ませる。 ・まず、教師にインタビューをし、客観的な視点を持たせてから、自己の振り返りを行うようする。 	

9. 板書



10. 考察

①児童の動きの予想とそれに対する手立て

【成果】

今回は学習課題のゴールに「ひまわりスペシャルかるた大会」を開催し、学校の先生を招待して一緒に楽しく遊ぶことを目標として学習を組み立てた。本学級の児童はこうした教師を招いての学習を好んでおり、今回も学習のゴールをかるた大会にすることは有効だったと思われる。大会本番までの準備段階でも意欲的に取り組み、自分たちで主体的に準備しようとする姿が見られた。その中で、今回も前年度同様に本学級の児童に共通して当てはまる「わかりやすい説明」ができる目的とした。その中で成果であったことは、前年度に「わかりやすい説明」を目標にした授業を行っていたため、今年度の説明をどうすればわかりやすくなるかを児童に投げかけた際、自然と昨年度の経験から、読む練習をすることだけでなく、「どのような順序で説明するか」や「お手本を示すこと」といったアイディアがでてきたことである。自分の経験を生かすことで、よりわかりやすい説明をするにはどうすればよいかを考えることができたと思われる。



【課題】

今回、かるた大会をより楽しいものにするために、オリジナルルールを取り入れた。取り札の裏に個人の持つ課題に応じた特別ミッションを書き、達成することで、得点が増えるというもので、児童が自然と自分の持つ課題に取り組むことができるようとした。

その中のひとつに児童のアイディアから、「じゃんけんをして、勝てば相手の取り札をもらえるが、負けると自分の取り札を失う」というものができた。学習の中でA児がその札をとったのだが、自分の取り札を増やすことだけを考え、取り札を多く持つ先生を相手に選んだのだが、逆に負けると相手の勝利が確定してしまうということを理解していなかった。一つの課題に対



し、「Aかもしれないし、Bかもしれない」という複数の考え方を持つ力や、結果を予測する力も本児には必要な力であるため、じゃんけんをする相手を決めた際、本当にその相手でよいかどうかゆさぶりをかける必要があったと考えられる。



②振り返りの充実

【成果】

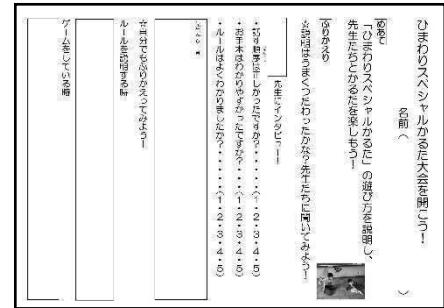
前年度からの反省により、今回の授業では振り返りの仕方に重点を置いた。相手に説明し、きちんと理解してもらえるかどうかが児童にとってのめあての達成に大きくかかわるため、今回の学習を振り返る際、個人の中でできたかどうかを振り返るだけでなく、振り返りの際に説明を受けた相手からの意見を取り入れることで、視野を広げた振り返りをめざした。3つの評価項目について、参観した教師に判定をしてもらい、良かった点や改善点をインタビューすることで、児童は、自分の思っている達成度と相手の思っている達成度を比較することができた。その後自分で振り返りを書く際には、自信をもって振り返りを書くことができていた。振り返りの目的をより強く持たせることで、ねらいにせまる振り返りを書くことにつながった。

【課題】

めあてに対しての振り返りはできていたが、振り返りを互いに共有できていなかったことが課題で



あった。児童は真剣に振り返りを書くことができていたため、お互いがどのような振り返りを行ったのか、取り上げて板書に示したほうが、考えを共有し、より学習が深まったのではと考えられる。



校内研究だより

研究主題

主体的に学び、対話的に考えを深め合える子どもの育成
～児童の言語感覚を養い、『読み解く力』を高める指導の在り方～

5月24日（月）2校時 第1回 授業研究会 ひまわり学級

「先生と仲良くなろう！～先生たちとオリジナルかるたで遊ぼう～」

1. 参観のポイント（討議の柱）

- ・児童は相手意識をもち、わかりやすい説明を意識してルールの説明ができていたか。

2. 授業の様子



今日は、何をするのかな。
めあては何にしようかな。
子どもたちとのやり取りの
中で、一緒につけたい力を
確認してきました。



先生たちに分かりやすいル
ール説明をめざして、話
します。
「まずは、チームに分かれ
てください。次に…」
順を追って説明できま
した。



ボーナスポイントカード
ってどんなの？
カードが出たらどうする
の？子どもたちと先生が実
際に見本を示して、ルール
説明をしました。



ゲームスタート。札をとっ
たり取られたり。ボーナス
ポイント獲得に向けて協力
もできました。
悔しい思いもしたけれど、
スペシャルルールを守って
最後まで学習していま
した。

3. 研究会より (○…成果 ●…課題 □…改善点)

○めあてを指導者がうまく設定できていた。児童とも共有ができておりゴールが明確だった。

○児童は、先生から出される質問に対して臨機応変に答えることができていた。

○校長先生と札の取り合いになったとき、ルールを守って、校長先生にカードを渡すことができていた。

→生活経験が生きている。生活経験と今回の学習を結びつけることができていたことが素晴らしい。

●めあてに対しての振り返りができていたが、十分共有できていなかった。

□板書にはめあてが明記されていたため、児童の振り返りが終わった後、いくつか取り上げて共有し板書に残すとよかったです。

●「じゃんけん」という結果がわからないことに対して、複数の考えをもつことができなかった。

□1つの課題に対し、「Aかもしれないし、Bかもしれない。」という複数の考えをもつ力や、予知・予測をする力を、学習の中や日常生活の中で身につけさせたい。

☆次回の授業研究会に向けて☆

- ・何のために話し合うのかという「目的意識」を“子ども”がしっかりととてるような課題を設定する。
- ・学習の出口（ゴール）を明確にして、児童の実態や思考の流れに即した単元計画を立て、実践し、振り返る。

鈴木先生、貴重な授業提供ありがとうございました！

第6学年 国語科 実践事例

日時：令和3年6月30日（金）5校時

指導者：寺川 紘理

1. 単元名 1年生ともっと仲良くなろう！

（教材文「みんなで楽しく過ごすために」光村図書6年生）

2. めざす子どもの姿

（1）この単元で身に付けさせたい言葉の力（単元目標）

・互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げることができる力。

【思考力、判断力、表現力等A（1）一オ】

・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる力。

【知識及び技能（1）一ア】

・自分の考えと友だちの考えを比較しながら話し合い、目的をもって最後まで粘り強く学習に取り組むことができる力

【学びに向かう力、人間性等】

（2）身に付けさせたい言葉の力に関する子どもの実態

本学級の児童は、個人がもっている「ことば」や「読みとる力」に差に開きはあるものの、全員が与えられた課題に対して真面目に取り組もうとする姿勢が身についている。板書を写すことや、新出漢字の練習など作業が比較的単純なもの、容易にクリアできるものに対して意欲をもって取り組むことができている。

友だちとのやりとりをみると、小学校生活6年目となり、人間関係も十分醸成され、互いの言いたいことや、考えていることは何となく予測できるようになっている。自分の考えを「ことば」で正確に伝えなくてもなんとなくわかり合えるような気がするため、本当に自分が伝えたいことと、相手が読みとったことに多少のずれがあったとしても「まあ、そんな感じ。」と曖昧なやりとりで終わらせてしまうことが多い。そのため、自分が伝えたいことがあっても我慢してしまったり、ほかの誰かが考えてくれるだろうと他力本願になったりする傾向がある。「なんとなくお互いのことが分かり合っている関係」が、児童の主体性や積極性を育成するための一つの障壁となり、周囲で起こっているできごとを「他人事」として捉えてしまう環境が当然かのようになってしまっている。このようなことから、考えることや想像することに対して消極的になってしまふ風土が育ってしまったのではないかだろうかと考えた。

国語科の学習の中では、4月に目的や意図に応じて日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討する力を育成するため、『聞いて話を深めよう』という単元を活用してクラブ活動の運営方法について話し合った。今年も、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、例年のような活動をすることが難しいという制限がある中で、4・5・6年生全員が「安心・安全」に楽しめるためのクラブ活動の方法と内容、また、メンバーの決め方について話し合う必要があり、これらのこととが、児童にとって話し合う必然性となり、目的意識がはっきりとした課題設定で話し合い活動が実施できた。国語科で話し合った内容が、学校生活に影響を与えることがあるのだということを実感することもできた。

話し合いのプロセスとしては、類似した考え方3～4人グループで自分たちの考えを深め合い、それを全員で共通理解しながら、意見の再構築を図っていった。話し合いをする際、ほとんどの児童が少人数グループの中で、自分の意見を伝えたり、わからないことを尋ねたりしあえていた。しかしながら、全員で意見の再構築をす

る場になると、各グループの代表が自分たちの意見を発表し合うことにとどまってしまう場面が多く、指導者が発表を聞いていた児童に対して意見がないか尋ねない限り、自ら発表したり話し合いを深めたりしようとする姿はみられなかった。話し合いの間、一言も声を発することがなかった児童もいた。ここには、自分ではない誰かが話してくれるだろうという悪い意味での「安心感」が存在し、本校にしては人数の多いクラスの中で意見を述べることや、周りの人と異なった考えを述べてしまうことへの「不安」や「緊張感」「恥ずかしさ」が高まってしまったことが原因のひとつだと考えられた。

このような実態を踏まえ、本単元では『1年生ともっと仲良くなるための企画を考えて実践する』というゴールを設定し、話し合うこととした。相手を『1年生』に向け、1年生との関わりが深いが、恥ずかしさと周りの同調圧力に敏感で自分の考えを伝え合うことにためらいが強い女子と、行動力はあるが、自分たちの考えだけではつ走ってしまいがちになる男子が力を合わせなければ達成できないゴールを仕組んだ。本単元で最もつけたい力は、考えを広げる力、つまり『試行錯誤』であった。本単元でつけたい力を習得することで、「ことば」には、相手との関係をよりよくしていく力があることを実感させたいと考えた。そして、中学校へ進学した際に、多人数のなかの一人として個性を隠してしまうのではなく、相手とのつながりをつくるために本単元でつけた力を發揮し、好ましい関係を構築する姿がみられることが期待し、実践に取り組んだ。

3. 題材の特質と学びのつながりを生む単元構成の工夫 (教材と指導について)

本単元は、学習指導要領(平成29年告示)第5学年及び第6学年

1. 知識及び技能

(1) 一オ 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。

2. 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

(1) 一オ 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。

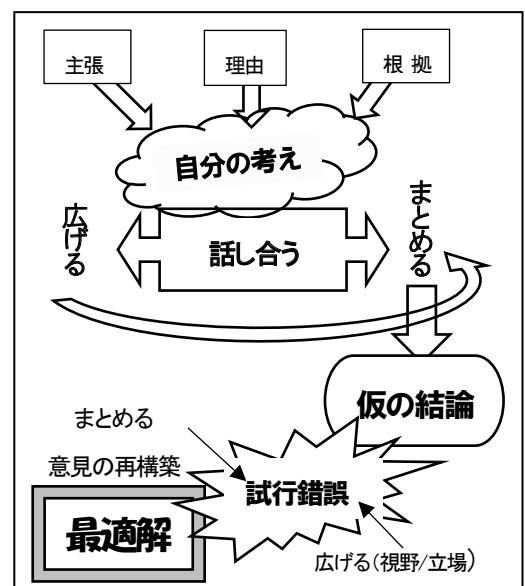
言語活動

(2) 一ウ それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。

に基づいて構成したものである。

本単元は小学校生活最後の「話し合う」単元であった。進行計画を立てることや、主張・理由・根拠を明らかにして自分の考えをまとめておくこと、目的や条件に照らし合わせて話し合うことにおいては、既習事項であり、日常生活の話し合い活動の中でも無意識のうちにこれらの力を發揮して学習を進めているところである。しかしながら子どもの実態のところでも述べたように、言葉が果たす役割を意識しながら、自分の考えをより広げるために、友だちの考え方との共通点や相違点、利点や問題点等を明らかにし、全員で試行錯誤を繰り返しながら意見の再構築を行い、最適解を探すことを重点的に指導する必要があった。子どもたちがやりとりを繰り返すことで新たな課題を見つけ、それを乗り越えるための話し合いを行うということも含めながら、「広げる」と「まとめる」ことそして、一度「仮の結論」を出した後さらに思考を深め、よりよい考えの再構築を目指す過程を大切にしながら学習を進めていった。

第一次では、議題として「1年生との交流会」を取り上げることを知るとともに、話し合いを通して達成した



いこと（つけたい力）を児童と共有し、どのように話し合うのか（方法）について考えていった。相手意識と目的意識を明確にすることで、話し合うことに対しての必然性が生まれると考えた。本単元では1年生も6年生も楽しめるような交流会を実行するために話し合うことを言語活動として設定したため、話し合う方向性としては、意見を一つにまとめる必要があることも自覚できるようにしたかった。また、話し合う際に、異なる立場からの考えを聞き、意見の基となる理由を尋ね合うこと、お互いの問題点を見つけたり、言い負かしたりするのではなく、出された問題点をどうすれば改善できるのか建設的な考えを生み出せるように話し合うことなど話し合いの目的やルールについても確認していくことにした。また、交流会を行う時間や場所、遊び方などの条件について自分の考えを明確にする前に全員が共通理解しておく必要があった。

第二次では、話し合いの過程を2段階設定した。スマールステップを踏むことで「話し合うこと」への不安感や緊張感を取り除き、自分の意見を伝え合い解決へ導くことの達成感を味わうことで、一人ひとりの「自信」としていきたいと考えた。最初のステップでは、よりよい解決方法を導いていけるように「1年生との交流会」の内容に重点を当て、3つのグループに分かれて話し合いを行った。この話し合いでは、自分が考えてきた提案について理由や根拠を明らかにしながら小グループで検討することで、考えを広め新しいアイデアをつくり出すための素地としたいと考えていた。そこから、各グループで仮の結論となる「交流内容のしぶりこみ」を行っていった。各グループの仮の結論が出たら、次のステップに移り、全員がひとつのグループで話し合いを行った。仮の結論をお互いに主張しあい、共通点や相違点、利点や問題点等を明らかにしながら、試行錯誤をくり返し最適解を探していく。交流内容を絞り込む上で、遊び方のルールや条件に目を向ける児童が現れると予想された。その場合、意図してその発言を取り上げ、交流内容だけでなくルール作りも重要なことに気付いたことを価値づけたいと考えていた。この時に気をつけたいことは、「全員参加型」の学習になっているかということであった。児童の実態でも述べたように、全員での学習になると悪い意味での「安心感」が働き、特定の児童だけで話し合いが進んでいく可能性があった。それを回避するためにも司会をする児童に意図的指名をするように事前に指導しておくほか、話し合いが暗礁に乗り上げそうになったときには、再度小グループに分かれて考えを整理するよう促していくことにした。

第三次では、交流学級の児童に自分たちが考えた交流内容やルールなどの条件を含めた自分たちの最適解を伝え、実際にためし遊びをした。「ためし遊び」は試行錯誤の中の一つである。試行錯誤を続けることで、よりよい解決策を見出すことができ、実生活においても今回の学習過程が活用できる場を想起させていけるようにしていきたいと考えた。ためし遊びで感じた課題を再度出し合い、1年生の交流会に向けてねばり強く最適解を追い求めていく姿を期待していた。

4. 校内研究と関わって

「主体的に学び、対話的に考えを深め合える子どもの育成」
～児童の言語感覚を養い、『読み解く力』を高める指導の在り方～

校内研究に関連して、本単元では以下のことについて取り組み指導を行った。

①児童の躊躇の予想とそれに対する手立て

児童の実態でも述べたとおり、話し合いの人数が4人以上になると消極的な姿を見せる児童が増えてしまう。全員での学習になると働く悪い意味での「安心感」が働き、特定の児童だけで話し合いが進んでいく可能性があった。それを回避するためにも司会をする児童に意図的指名をするように事前に指導しておくほか、話し合いが暗礁に乗り上げそうになったときには、再度小グループに分かれて考えを整理するよう促した。

最初に話し合う3つのグループについては、友だちの意見に左右されやすい児童を中心に置いた、Aグルー

プ、自分の意見をことばにすることにためらいが大きい児童を中心に置いたBグループ、考えることやまとめるについてすぐにあきらめの気持ちをもつてしまいがちな児童を中心においたCグループに分けた。それぞれのグループの中心人物が、いかに自分の意見をもって最後まで粘り強く話し合えるのか支援するとともに、同じグループの児童が上記に挙げた3名の話をいかにして引き出していくのかを時には見守り、必要に応じて声をかけるなど支援した。

②振り返りの充実

話し合い活動に取り組む際、児童の振り返りには「自分の意見が伝わったか。」「相手の意見でわかったことは何か。」などの活動についての振り返りがどうしても多くなってしまっていた。個人の感想や成長を感じたり、友だちの意見と聞き比べて、ちがいを見つけたりすることも振り返りの中では大切にしていきたいと考えた。しかしながら今回は国語科の話し合い活動であり、話し合い方についての振り返りを児童に求めたいと考えた。例として、以下のような振り返りができると期待した。

- ・話し合いを進めるには「目的」がはっきりしていないとみんなで答えを出し合えないことがわかった。
- ・話し合いがうまく進まないときは友だちの意見と自分の意見の「共通点」と「相異点」を見つけることで、意見をまとめていくことができやすくなった。
- ・話し合いを進めるなかで「問題点」ばかりを探すのではなく、「改善点」をみんなで見つけだせたので、意見をひとつにしぼることができた。

これらのことばを児童から引き出すために、毎回、「話し合いの設計図」を作成して話し合いを「見える化」した。本日の議題（目的）は何か、あるいは何を目指して話し合うのか（最適解を見つけるのか 話を広げるのか）をまず明らかにした。そこが一回の話し合いのゴールとした。ゴールへ向かうために、今日は「質問の時間を多めにとる」のか「お互いの主張の共通点と相異点を見つける時間を長めにする」のか、ゴールまでの過程を考えるようになるとを考えた。この過程を考えることで、振り返りを行う際に「ことば」に関する振り返りを引き出すきっかけづくりとした。

③児童目線での授業研究会

- ・児童は、最適解を見つけ出すためによりよい意見を出し合い、話し合うことができたか。
- ・児童は、相手の思いを自分の考えや思いと比較しながら聞き、自分の考えを広めようとしていたか。

5. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。 【(1) 一オ】	「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や位置を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。 【A 話す・聞く (1) 一オ】	言葉を通じて積極的に話合いの相手と関わり、よりよい解決に向けて見通しをもって話し合おうとしている。

6. 単元計画（全8時間）

※下線部が各次の指導の重点

次	時間	主な学習活動	指導内容及び支援【評価の観点】
一	1	<p><u>学習活動の見通しをもつ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの目的を確かめ、学習の見通しをもつ。 ・話し合いの仕方について学ぶ。 ・1年生との交流会の「目的」「条件」について共通理解を図る。 <p>(予習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生との交流会の活動内容について考える。 	<p>○1年生との交流会について、相手意識と目的意識を明確にもてるよう指導する。</p> <p>○話し合いの進行計画や役割分担を考える際に、それぞれがもつ目的や役目について確認する。</p> <p><u>○話し合いには「考えを広げる話し合い」と「考えをまとめる話し合い」があり、今回は「考えを広げる」ための話し合いに重点を置くことを周知する。</u></p> <p>【思考・判断・表現】目的や意図に応じて、議題に関わる目的意識を明確にしている。(発言)</p>
二	4 (本時 4 / 7)	<p><u>話し合い活動に取り組む</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・3人グループで話し合い、それぞれのグループの中で「交流会にふさわしい遊び」「その理由」について仮の結論を出す。 ・3グループの仮の結論を聞き合い、交流会にふさわしい遊びとそのルールについて話し合い、最適解を見つける。 	<p>○「1年生も6年生も一緒に楽しめるもの」であること、クラブ活動の内容を考えたときに作成した「安心・安全のクラブとは」を参考にしながら「安心・安全な内容」になっていることを条件とする。</p> <p><u>○考えを広げる話し合いでは、考えたことを伝え合うとともに、それぞれの考えに対して疑問に思ったことも伝え合うように指導する。</u></p> <p>○考えをまとめる話し合いでは、それぞれの意見についての「共通点」や「相違点」「問題点」と「改善点」を考えながら話し合いを進め、仮の結論を導き出せるようにする。</p> <p>○話し合う際には、話し合いの進行計画を確認し、児童だけで話し合いが進められるようにする。</p> <p>○話し合いの目的が見失われそうな場面が見られたときは、「共通点」や「相違点」を見つけること、話し合っている中の「問題点」は何かということについて指導者を含めて整理し、話の道筋を見つけだせるようにする。</p> <p>【思考・判断・表現】互いの立場を明確にして進行計画に沿って話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(話し合い)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】よりよい解決に向けて見通しをもって話し合っている。(話し合い)</p>

三	2	<p>ためし遊びをして、再度検討する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流学級の児童に向けて、自分たちが考えた最適解の内容を提案し、実際に「ためし遊びをする」 ・ためし遊びで見つけた「問題点」について再度検討し、よりよい交流会に向けて話し合う。 ・最適解を見つけるための話し合いに必要な過程や方法についてまとめる。 	<p>○提案の際には、主張と理由、根拠となることを交流学級の児童に伝わるような話し方で説明できるように指導する。</p> <p>○1年生と交流するという目的や相手を意識しながら「ためし遊び」を行い、この遊びの「問題点」について考えを深められるようにする。</p> <p>○これまでの学習を想起し、話し合うためには「考えを広げること」「まとめる」との両方が必要であったことを思い出す。</p> <p>○意見が分かれた場合には「共通点」と「相違点」を互いに見つけ合うこと、それぞれの「問題点」を見つけてその「改善点」を踏まえながら最適解を導いていくことが重要であることを、話し合いのメモやノートの振り返りから気づいていくようとする。</p> <p>【知識・技能】目的や条件に応じて話し合うことについて、どんな点に気をつける必要があるのか理解し、ことばでまとめることができる。(まとめ)</p>
---	---	--	---

7. 本時の目標

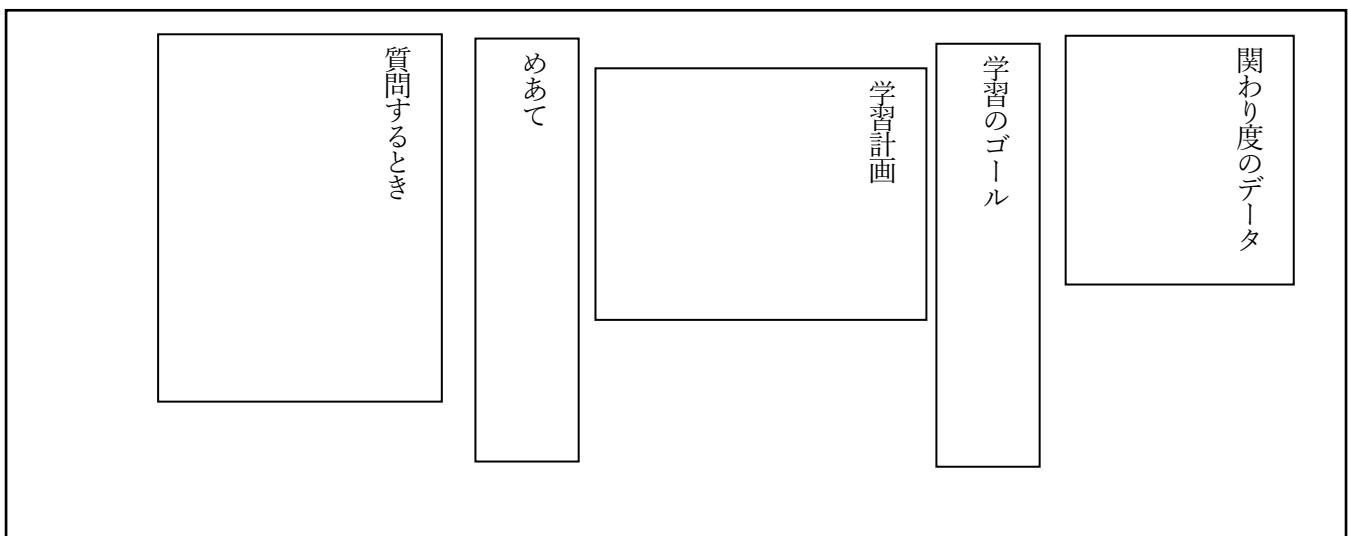
3つのグループの仮の結論について主張しあい、疑問点について尋ね合い考えを広げることができる。

8. 本時の展開 本時（4時間目／全7時間）

学習活動	指導のポイント・留意点	評価・評価方法 めざす振り返りの姿
1. めあてを確認する。 「グループごとに考えた仮の結論について主張しあい、お互いの疑問点を尋ね合って考えを広げる話し合いをする」ことを共通理解する。	・本時の話し合いは、「考えを広げる」ための話し合いであることを確認する。	
めあて：グループでの結論をもとに、考えを広げるための話し合いをしよう。		
2. 話し合いの設計図をつくる。	・本時のめあてが「考えを広げる」ための話し合いであることを確認し、お互いの意見を主張する時間や、疑問に思ったことを質問し合う時間に重点を置く必要がある	

<p>3. 設計図をもとに話し合う。</p> <p>※時間があれば、考えをまとめる①②の「共通点」や「相違点」について話し合う。</p> <p>4. 本時の振り返りと次時の見通しをもつ</p>	<p>ることに気づけるよう指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合いの目的からそれそうになった場合には、児童と一緒に意見の整理を行い、話し合いの道筋が見えやすいように軌道修正する。 児童の話し合いを見守りつつ、理由を明らかにしないで意見を押し切ろうとする様子が見られた場合には、自分の考えを再度整理して伝えるよう促す。 次時は最適解を目指すため、意見の再構築を行う時間とすることを伝えるとともに、視野を広げることの良さについても前時までの学習をふりかえりながら、気づかせたい。 	<p>【思考・判断・表現】 話し合いの中で、友だちの意見と自分の意見を比べ、自分の考えを広げようとしている。 (話し合い・振り返り)</p> <p>めざす振り返りの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ○○さんの意見を聞いて、自分では考えなかったけれど、△△のよさも分かった。 ○○さんの意見を聞いて、こんな考え方もあるんだなと気づくことができた。 自分の主張も言えたし、友だちの主張も聞いて、新しい考え方がうかんだ。
--	---	--

9. 板書

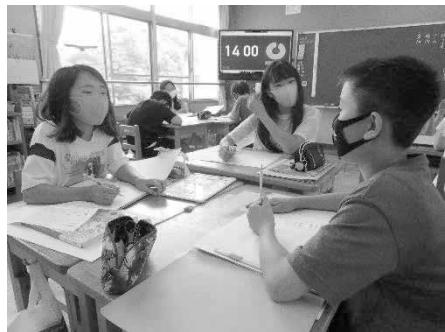


10. 考察

①児童の躊躇の予想とそれに対する手立て

【成果】

最初に話し合うグループを意図的に3つに分けたことで、同じグループ同士で目的を共有して話し合いを進めることができた。Aグループはひとりの児童が中心となって話し合うことができた。友だちの意見を聞くだけでなく、問題点や課題点を明確にすることで自分たちオリジナルの遊びを提案する形を持っていくことができた。これは、目的が明確であったことと、3人の力を合わせることが必要であるという意識が大きく働いたからであると考えられる。



Bグループは、「1年生との関わり度平均60%以上になるために」という目的を最も意識しながら話し合いを進めることができた。ひとりの児童がほかの2人の意見をうまく引き出すことができたため、自分の意見をことばにすることにためらいがちな児童も安心して自分の意見を伝えることができていた。自分の意見を受け入れてもらえる土壌があると理解することで、児童の中に安心感が広がり、自分の考えを伝えることや、友だちの意見と比べて考えることに抵抗が少なくなっていたのではないかと考えられる。



Cグループでは、話し合いが始まるとすぐ「あ、わからんな。」「まとまらへんわ」とネガティブに捉えられるがちな発言をしていた児童もいたが、話し合いの中心となっている児童が優しく受け止め、やる気をもたせるようなことばかけができたため、話し合いが進むにつれ、よりよい提案ができるような話し合いに発展させることができた。ひとりの児童がボールを使う遊びにこだわっていたこともあり、二人が説得するような形の話し合いになったことも、円滑に進んだ要因の一つであると考えられる。

また全員での話し合いを進めたときにも、小グループごとに司会を経験したが、各グループのメンバーが協力して役割分担し、それぞれができることを考え行動に移すことができた。このことは、これまでの学習の成果であり、多人数での話し合いを進める上では司会やタイムキーパーなどが必要であることを実感できた証である。

【課題】

小グループで1回目の話し合いをしたときはそれぞれの意見に対して共通点や相違点、問題点などを意識しながら話し合うことができたため、全員での話し合いの場に「だるまさんが転んだ」「お題付きだるまさんが転んだ」「こおりおに」の3つの遊びが提案できた。しかし、小グループで十分話し合いを重ねたことに満足感を抱いてしまったこともあり、再度全員での話し合いになったときに、児童は目的を見失いがちになってしまった。児童にとっては、それぞれのグループで話し合って仮の結論を出すことが大きな目的となってしまっていたのではないかと考えられる。また、3人という話しやすい人数構成の中で安心して自分の意見を伝えるのと、自分たちのグループで決めたことを土台とし、意見の再構築を目指して話し合うのとでは、目的や話し合い方についても変化が伴うため、どのように話し合いをすすめていくべきかという戸惑いもあったのではないかと考えられる。



今後、中学校進学を見据えたときに、グループ活動のような限られた人数の中で自分の意見を伝えられる力とともに、多人数のなかでも自分の意見をもって話し合いに参加できる力も必要になってくる。周りの環境や意見

に流されることなく、ひとりの意見をもったクラスの一員として話し合いに参加できる力につけるためにも、まずは全員で話し合うときに自分の意見に自信をもって話ができるよう、今後も繰り返し話し合い活動を行い、話し合うことや集団の中で自分の意見を伝えることへの抵抗をできる限り減らしていきたい。そのためにも、話し合い型や司会のマニュアルを作成し、活用することを一つの手立てとしたい。

②振り返りの充実

【成果】

振り返りについては、日常の授業でも取り組んでいるため、書くことに抵抗を示す児童はいないが、授業の感想になってしまい、めあてに対しての振り返りができる児童は限られていた。本時のめあては、「グループで話し合った結果をもとに、考えを広げる話し合いをしよう。」であったため、話し合う時のスキルについて振り返ることがどうしても多くなってしまいがちだったが、小グループで話し合うよりも、考えが広がることに注目して振り返っていた児童もみられるようになった。小グループでは気づけなかったことも、多様な意見に触れることで気づきが広がることもあるということに気づけた児童がいたことは成果として挙げられる。また、それを全体の場で共有できたことで、複数で話し合うことの価値づけができる、振り返る視点についてもモデルケースを示すことができたことで、今後の振り返りにも変化がみられるのではないかと期待している。

【課題】



遊びを決める話し合い一つをとっても、話し合うべき内容としては「遊び」「遊び方」「ルール」など多岐にわたる。また、それぞれに共通点や相違点、問題点も存在するため『1年生ともっと仲良くなるための企画を考えて実践する』という大きな目的を全員が共有するだけでなく、話し合うべき内容も全員が理解し、学習課題として提示していく必要がある。日々、話し合いの設計図を児童の手によって作成していたが、その際に、今日の話し合いのなかで解決すべきもの（学習課題）は何かを明確にしたうえで、話し合いの設計図を作成することで、1時間の学習の流れや目的にずれが生じることなく学習を進めることができ、振り返りをするうえでも、今日のめあてに対しての振り返りができるようになるのではないかと考える。

校内研究だより

研究主題

主体的に学び、対話的に考えを深め合える子どもの育成
～児童の言語感覚を養い、『読み解く力』を高める指導の在り方～

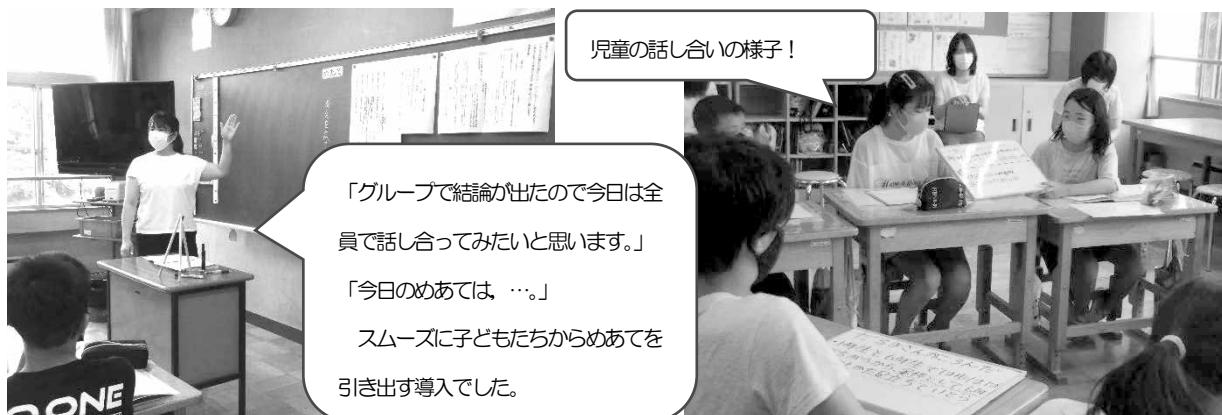
6月30日（水）5校時 第2回 6年生 授業研究会

『1年生ともっと仲良くなろう！』（教材文「みんなで楽しく過ごすために」光村図書6年生）

1. 参観のポイント（討議の柱）

- ☆児童は最適解を見つけ出すためによりよい意見を出し合い、話し合うことができていたか。
- ☆児童は、相手の思いを自分の考えや思いと比較しながら聞き、自分の考えを広めようとしていたか。

2. 授業の様子



3. 研究会より（○…成果 ●…課題 ↗…改善点）

- 話し合う話題が、身近なものだったので、話し合う必然性が生まれ、指導者の要所要所のゆきあぶりや投げかけも効果的であった。
- 司会のグループを中心に、自分たちで話し合いを進め、より良い遊びにするために質問をしたり、頑張って考えたりできていた。どの子も話し合いに参加しようとする姿勢がよい。
- 話し合いの中で、教師が的確に声かけをして小グループの話し合いに戻ったり、考えを深めたりすることができていた。小グループでは、安心して話し合いができていた。
→これからの生き方学習にとって、必要なことである。
- 振り返りでは、他のチームの意見を参考にして新しい気づきが見られた児童がいた。
- それぞれの小グループで十分検討していた内容だったので、さらに考えを広げるのは難しかったかもしれない。
- 遊びの相違点を見つけるのは、なかなか大変であった。話し合い活動をどのように広げていくかが今後の課題となる。
- ↗キャッチボールになるような話し合いをめざして、いろんな場で工夫していくことが大切である。

☆次回の授業研究会に向けて☆

- ・司会マニュアルを作成し、子どもたちが普段からいろんな場面でトレーニングを積んでいき、自然と話し合いが進められる工夫をしていく。

寺川先生、貴重な授業提供をありがとうございました！

第3学年 国語科 実践事例

日時：令和3年9月22日（水）5校時

指導者：上杉 尚裕

1. 単元名 対話の練習

(教材文「山小屋で三日間すごすなら」光村図書3年生)

2. めざす子どもの姿

(1) この単元で身に付けさせたい言葉の力（単元目標）

- ・目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる力。
【思考力、判断力、表現力等A（1）一オ】
- ・比較や分類のしかたを理解し使うことができる力。
【知識及び技能（2）一イ】

- ・自分の考えと友だちの考えとを比較しながら話し合い、考えをより良いものにしようと粘り強く学習に取り組む力。
【学びに向かう力、人間性等】

(2) 身に付けさせたい言葉の力に関する子どもの実態

本学級の児童は、学力には個人差があるものの、自分の考えをよく話し、活発に活動できる児童が多い。自分が考えたことを友だちに説明したり、分からずに困っている友だちに教えたりすることができる。自分の考えを説明する場面では、言葉足らずであったり、ちぐはぐになつたりするときもあるが、なんとかして自分の考えの根拠や理由を友だちに伝えようとする姿が見られる。

一方で、話し合いをしているうちにテーマとはちがう話題に変わっていたり、学習とは関係のない部分で盛り上がったりする場面も見受けられる。また自分の考えを伝えることだけに熱心になり、友だちの考えを聞いたり、認めたり、自分の考えと比べて思考を深めたりできる児童は少ない。

6月には「もっと知りたい、友だちのこと」の単元で、友だちの簡単なスピーチを聞いて、質問をする学習を行った。学級の全員が授業に参加してほしいという思いから、挙手での質問ではなく、質問を思いついた児童からどんどん質問をしていくという活動を行った。質問を考える方法として、いつ、どこで、誰など尋ねる「What」の質問と、なぜ、どのように尋ねる「How」の質問の大きく二つの種類があることを学習した。児童は、学習中熱心に質問を考えようとする姿があったが、質問を考えることばかりにかたよりがちになり、質問をして終わりという状態になった。話し手とのやり取りを楽しんだり質問をすることでさらに話が広がったり、相互に考えが整理され深またりする場面はとても少なかった。

このような実態を踏まえ、本単元では、「考えを広げる話し合い」と「考えをまとめる話し合い」の二種類の話し合い活動を通して、自身の考えの広がりを感じ、他者との考えのすり合わせや折り合いをつける経験をつませた。そして、友だちと考え方を交流することのよさや楽しさを実感し、学級活動や他教科、ふだんの生活での話し合いにも活かすきっかけにしたいと考えた。

3. 題材の特質と学びのつながりを生む単元構成の工夫 (教材と指導について)

本単元は、国語科学習指導要領解説（平成29告示）第3学年及び第4学年

1. 知識及び技能

(2) 一イ 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。

2. 思考力、判断力、表現力 A 話すこと・聞くこと

(1) 一オ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。

言語活動

(2) 一ウ 互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動

に基づいて構成したものである。

本単元は対話のスキルの中でも、学校生活や社会生活において必須の話し合いのスキルを学習する。児童に身につけさせたい力を明確に示し、ここで学習したことをいつ活かすのか、どう活かすのかという視点を持たせた。中学年になり、学級活動や係活動、他教科での話し合いなど、話し合ってアイデアを広げたり、広げたものをまとめ合意形成を図ったりする機会が多くなってきている。そのため、単元の終わりに学習した内容を活かす場を提示し、身につけた力を活用する場面を設定した。また、学習の振り返りで出てきた話し合いのポイントを児童の言葉でまとめていき、話し合いのきまりごととして掲示しておき、他の場面でも意識できるようにした。

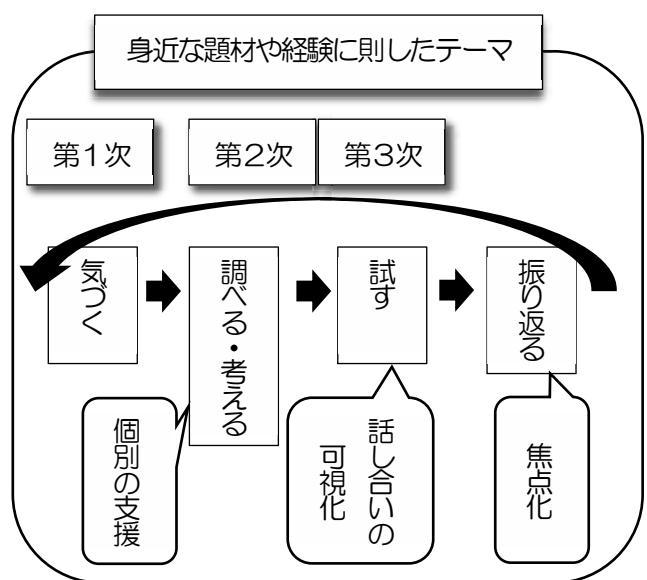
話し合い活動については、低学年の発達段階では相手の発言を受けて話をつなぐことが中心だったが、中学年になると目的や進行を意識して話し合い、互いの考えについて検討していくことが求められるようになる。その第一歩として、話し合いには段階があり、それぞれに適した進め方があることを、本単元で押さえた。特に司会は立てずに自由に話し合いを進めた。司会の役割や方法については、2学期後半の「班で意見をまとめよう」の単元で学習したい。教科書にまとめられているそれぞれの話し合いで大事にすべきことを意識させ、目的に沿った発言をしているか、話し合いの段階にあった進行となっているかについて随時確認しながら学習を進めていった。

第一次では、これまでの話し合い活動を振り返り、うまくいかなかったことや困ったことなどを出し合った。自分たちのこれまでの経験から学習をスタートすることで、より必然性のある学習にした。

第二次では、手本となる教材文の分析と、学習したポイントを実践する話し合いを往還することで話し合いの手順や気を付けるべきことなどの具体的なスキルを身につけさせた。

「考えを広げる話し合い」と「考えをまとめる話し合い」の二種類の話し合いがあることを明確に示し、各時間で、習得させたいスキルを焦点化していった。そして、身につけたスキルや話し合いにおいて大切なことを児童の言葉を使って目に見える形で蓄積していった。第三次は、第一次・二次で学習してきたことを実践する適応問題的な場とした。第二次においてスマールステップで学習してきたものをより実際の話し合いに近い形で行うことで、学習したことが定着するのではないかと考えた。

単元全体を通して、気づく、調べる、試す、振り返る（蓄



積する）という循環があるような単元を構成した。そのためにも、児童一人ひとりが自分の考えを持つことができる個別の支援、話し合いや話し合いでのポイントが可視化できるような教具の工夫、自分の考えの広がりや深まりが確認できる振り返りの場の3点を大切に、単元を進めていった。また、楽しく想像が膨らむような話題を設定し、みんなで話し合うのって楽しいと思えたり、役に立つなと思えたりする学習とした。

4. 校内研究と関わって

「主体的に学び、対話的に考えを深め合える子どもの育成」
～児童の言語感覚を養い、『読み解く力』を高める指導の在り方～

校内研究に関連して、本単元では以下のこと取り組み指導を行った。

①児童の躊躇の予想とそれに対する手立て

全員が自分の考えをもってから話し合いを行うことで、話し合いに参加できない、意見が出てこないという事態を避けた。自分の考えを持てる児童には、複数の考えを用意させておくことで、話し合いの場でグループの考えが広がるようにした。自分の考えを書く際には、付箋に記入しておき、話し合いで一枚のシートに貼りつけながら進めていった。このときに付箋や画用紙を使って、共通点や相違点を視覚化した。

話し合いが進むにつれて論点がずれたり、考えが広がりすぎてまとめられなかったりすることが予想された。その際には、話し合いの目的と条件に立ち返り、より具体的な場面を想像させるため「山小屋」についての条件や道具などを話し合う前に共通理解し、何を基準に考えを選んでいくのかを考えさせた。

②振り返りの充実

第一次では、話し合いについて学習する必然性を感じることができるような学習を仕組みたかった。第二次では、「考えを広げる話し合い」と「考えをまとめる話し合い」に分けて学習していった。それぞれの話し合いのポイントや意義、よさについて振り返らせた。第三次には、話し合い活動を通して得た、自分の考えの広がりや深まりについて振り返らせた。具体的には以下のよう振り返りである。

- ・話し合いには、広げる話し合いとまとめる話し合いの2つがあることがわかった。
- ・考えを広げる話し合いの時には、友だちの考えをよく聞くことが大切だとわかった。
- ・考えをまとめる話し合いの時に、意見を合体させたり、ミックスさせたりすることができた。
- ・○○さんの意見がとても納得できた。
- ・考えがまとまらないときは、目的と条件にもどって考えればいいとわかった。次の話し合いでも使いたい。
- ・話し合いをするときにはみんなが納得することが大切だとわかった。

このような振り返りを引き出すための手立てとして、振り返りの場面でどのようなことを振り返らせるのか視点を明確に示した。本時のめあてに立ち返り、本時のめあてに対する達成度を数値化し、視点を明確化していった。達成度に対する理由を書かせることで、本時での学びを俯瞰して見直す時間とした。

③児童目線での授業研究会

- ・児童は、話し合いの目的に対する共通点や相違点に着目した比較という考え方で、グループの考えをまとめようとしているか。
- ・児童は、話し合いすることで自分の考えが広がった・深まったと感じているか。

5. 評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	主体的に学習に取り組む態度
比較や分類のしかたを理解し使うことができる 【(2) (イ)】	「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめようとしている。 【A 話す・聞く (1) オ】	自分の考えと友だちの考えを比較しながら話し合い、考えをより良いものにしようと粘り強く学習に取り組もうとしている。

6. 単元計画 (全5時間)

次 時 間	主な学習活動	指導内容及び支援【評価の観点】
一 1	1. 自分たちの話し合いの映像を見ながら、普段の話し合いや学級会議などで、困ったことやうまくいかなかつた経験を出し合う。 2. 学習の見通しをもつ。 3. テーマについて自分の考えをワークシートに記入する。	○話し合いの動画を視聴し、普段の自分たちの話し合いの様子を振り返らせ、話し合いの学習に意欲をもたせる。 ○山小屋の写真やイラストを掲示し、意欲を引き出し、テーマに対する理解を深める。 【主体的に学習に取り組む態度】テーマに沿った自分の考えをもち、見通しをもって学習に取り組もうとしている。(発言・ワークシート)
2	1. 話し合いの目的や条件と話し合いの仕方をたしかめる。 2. 考えを広げる話し合いのときに大切なことをたしかめる。 3. グループで考えを広げる話し合いをする。	○対話の仕方の動画を視聴し、考えを広げる話し合いの時に大切なことを確かめて、話し合い活動に取り組む。 【思考力・判断力・表現力】話し合いの目的・条件や進め方を理解して話し合い、考えを広げている。(発言・観察) 【知識及び技能】出た意見を目的に沿って分類して整理している。(発言・観察)
二 3 本 時	1. 考えをまとめるとときに大切なことをたしかめる。 2. グループで考えをまとめ話し合いをする。 3. グループで話し合いを振り返る。	○考えをまとめるとときに大切なことを確認し、目的と条件を確かめてから、話し合い活動を行う。 【思考力・判断力・表現力】話し合いの目的・条件や進め方を理解して話し合い、共通点や相違点を確認しながら、考えをまとめている。(発言・観察)
4	1. 話し合いで決まったことや話し合いの様子を報告する。 2. 2つ目のテーマについて自分の考えをワークシートに記入する。 (海の家で3日間すごすなら)	○持ち物、選んだ理由、話し合いでうまくいったこと、うまくいかなかつたことを共有し、話し合いで大切なことをまとめめる。 【知識及び技能】目的や条件に沿って話し合うことの大切さや、それぞれの話し合いで大事にすべきことを自分なりに考えている(発言・観察)

三	5	<ol style="list-style-type: none"> 1. 話し合いの時に大切なことを確認する。 2. 二つ目のテーマについてグループで話し合う。 3. グループごとに話し合いをまとめ、結果や様子を報告する。 4. 単元の学習を振り返る 	<p>○話し合いで大切なことを確認し、もう一度別のテーマで話し合いを行うことで、学習内容の定着を図る。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】互いの考えの共通点や相違点に着目して、みんなが納得いく形で考えをまとめることができる。(発言・観察)</p>
---	---	--	--

7. 本時の目標

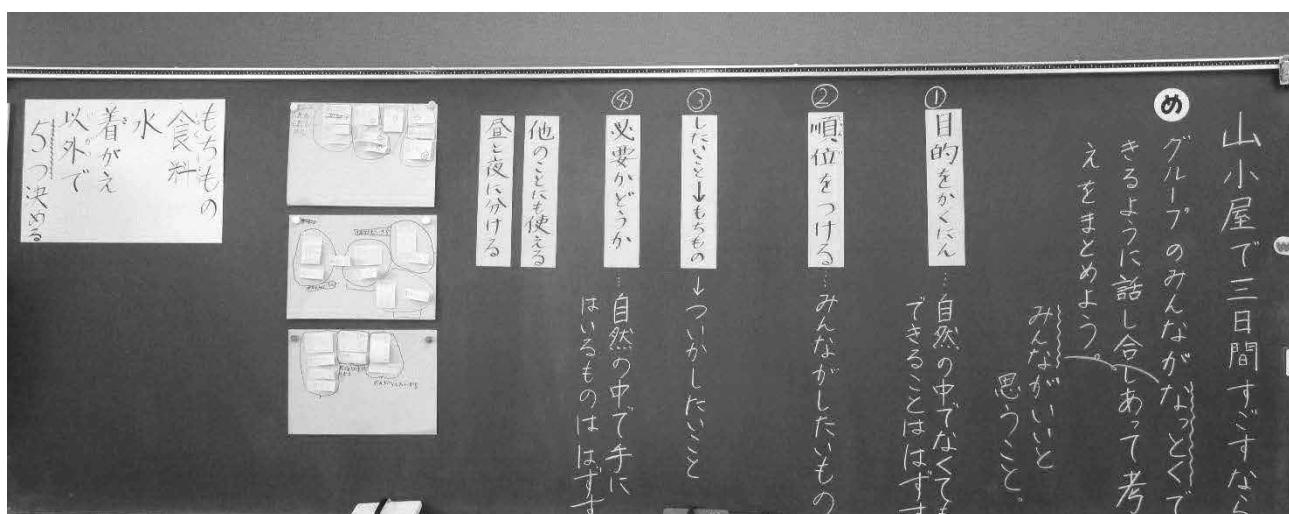
- ・グループでの話し合い活動を通して、互いの考えの共通点や相違点に着目して、みんなが納得いく形で考えをまとめることができる。

8. 本時の展開 本時 (時間目 3／5 時間)

学習活動 ◎予想される児童の反応	指導のポイント・留意点	評価・評価方法
1. 考えをまとめた話し合いで大切なことを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までにお手本の話し合いの映像を視聴し、考えをまとめた話し合のポイントを確認してから話し合いに臨む。 	
めあて：グループのみんなが納得できるように話し合って考えをまとめよう。		
2. グループで話し合いをする。 •付箋に考えを記入しておき、重ねたり、マーカーで囲んだりしながら話し合う。 ◎絶対に必要なものだけ持っていくことにしよう。 ◎持ち物が重なっている活動をしよう。 ◎昼と夜でできることが違うから2つの活動をしよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に考えた自分の考えを3人または4人グループで交流させる。 ・個人差や自分の考えをもとにグループのメンバーを構成しておく。 ・広げた考えがうまくまとまらないグループには、優先順位を決めたり、持ち物の重なりが多いところから考えたりするように促す。 ・話し合いがテーマからそれてきた場合は、目的・条件に立ち返り、軌道修正をさせる。 ・グループの話し合いを整理するきっかけを与える。 ・グループで決まったことを5つ報告させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの考えの共通点や相違点に着目して、みんなが納得いく形で考えをまとめることができる <p>【思考力・判断力・表現力】 (発言・観察)</p>

<p>4. 本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 他のグループのよい点を考えながら聞くように促す。 振り返りをワークシートに書かせる。 	<p>めざす振り返りの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 最初は考えが一つしか思い浮かばなかつたけれど、友だちの話を聞いてほかにもあることが分かった。 自分の考えも友だちの考えも合体てきてよかつた。 みんなで話し合うことで、いろんな考えをミックスしたアイデアができた。
-----------------------	---	--

9. 板書



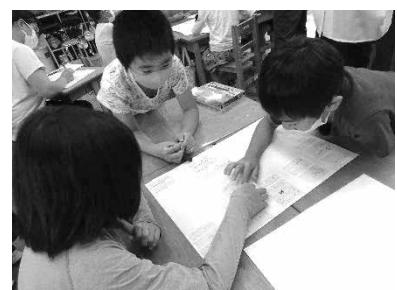
10. 考察

①児童の躊躇とそれに対する手立て

【成果】

自分の考えをもつ時間を十分に確保することができたため、各グループでたくさんの考えを出すことができた。考えを広げる話し合いの時間には、どの児童も友だちに考えを伝えることができた。考えをまとめる話し合いの場面では、話し合いが始まってしばらくは、まとめる事に苦戦しているグループがあった。話し合いを中断し、全体で話し合いの目的を確認する時間を取り入れたことで、判断の基準を再確認することができ、話し合いの視点を軌道修正することができたと考える。

考えをまとめる話し合いにおいては、友だちに自分の考えを伝えることももちろん大切であるが、グループのみんなが折り合いをつけながら考えをまとめていく過程で、友だちの発言や考えをいかに引き出すことができるのかが重要であった。特に、発言力の大きい児童や学力の高い児童には、本時までに友だちの話を聞くことの大切さやグループのみんなが真似したいと思えるようなまとめ方ができることの価値づけや声かけを何度も行った。その効果もあり A



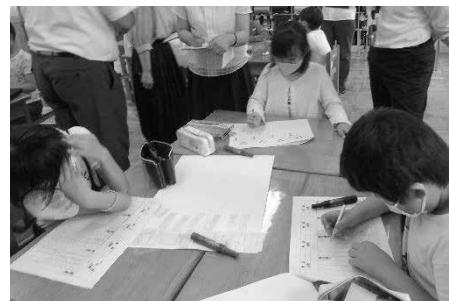
グループでは、中心となる児童が、友だちの意見を取り入れつつ自分の考えも伝えることができ、他のグループと比べてスムーズに考えをまとめることができた。Bグループでは、中心となる児童が他の2人に話を振り、みんなの思いを引き出しながら考えをまとめていこうとする姿が見られた。

【課題】

話し合いが進むにつれて、話の展開についていけない児童も出てきていた。意見を求められても返答に困っている場面があった。これは、彼らが思考の最中であり、聞かれたことに対して誠実に答えようとするが、答えられない葛藤の姿でもあった。今後、彼らの考える時間を確保することや、発言意欲を高めるための雰囲気や仕掛けづくりの手立てを考えていく必要がある。



グループの人数については、3人または4人で構成した。3人グループでは、話す人、聞く人、話の間に入る人の関係が成り立っていたが、4人グループでは、2人ずつに分かれたり、物理的に距離が遠くて話に入れなかつたりする場面があった。学級の人数の都合上、どうしても4人グループができてしまうが、グループのメンバー構成を工夫したり、思考ツールを活用したりすることによって解決していきたい。



②振り返りの充実

【成果】

本単元では、振り返りを書く際に本時のめあてに対して自分は何点であったかを記入させていた。それは、振り返りを書く視点を明確にするためであったが、単元を通して、自分の点数が上がっていくことを実感できることにもつながった。また、振り返りの内容も単元が進むにつれ変容がみられた。単元導入時は、自分や友だちのよくないところに目が行きがちであったのに対し、前時や本時には、自分やグループのみんなができたことや得た学びに着目できるようになってきた。

【課題】

本時でめざしていた児童の振り返りの姿は、「自分の考えも友だちの考えも合体できてよかったです。」「みんなで話し合うことで、いろんな考えをミックスしたアイデアができた。」などのように、共通点と相違点を比較しながら考えを確かなものにしたり、創造したりするといった『再構築』する姿であった。しかし多くの児童が、話し合いがうまくいったことについての満足感や「発言できてよかったです。」・「理由を言えてよかったです。」など自分の行動に対する振り返りを書いており、自身の考えの変容や再構築について振り返るというところまでは到達していなかった。

その原因として二つのことが考えられる。一つは本時のめあてが「～しよう」という Let 's 型のめあてであったことである。本時のめあてを「グループのみんなの考えをまとめるにはどうすればよいだろう。」のような Question 型のめあてにすることで、めあての答えになるものを書くことができたのではないかと考えられる。もう一つは、考えをまとめる話し合いのポイントとしてとりあげた数が多すぎたことである。ポイントが多すぎたことで児童はどのことを書いたらよいのかわからなくなり、視点がぼやけてしまった。本時で抑えるべきポイントはできるだけ絞り、四象限マトリックスやアイスクリームイメージ図を用いて、話し合いのポイントを視覚化することによって解決できたのではないかと考える。国語科だけでなく、他教科においても思考ツールを活用して、まとめたり深めたりするときに効果的な使い方を考えていきたい。

校内研究だより

研究主題

主体的に学び、対話的に考えを深め合える子どもの育成
～児童の言語感覚を養い、『読み解く力』を高める指導の在り方～

9月22日（水）5校時 第3回 3年生 授業研究会

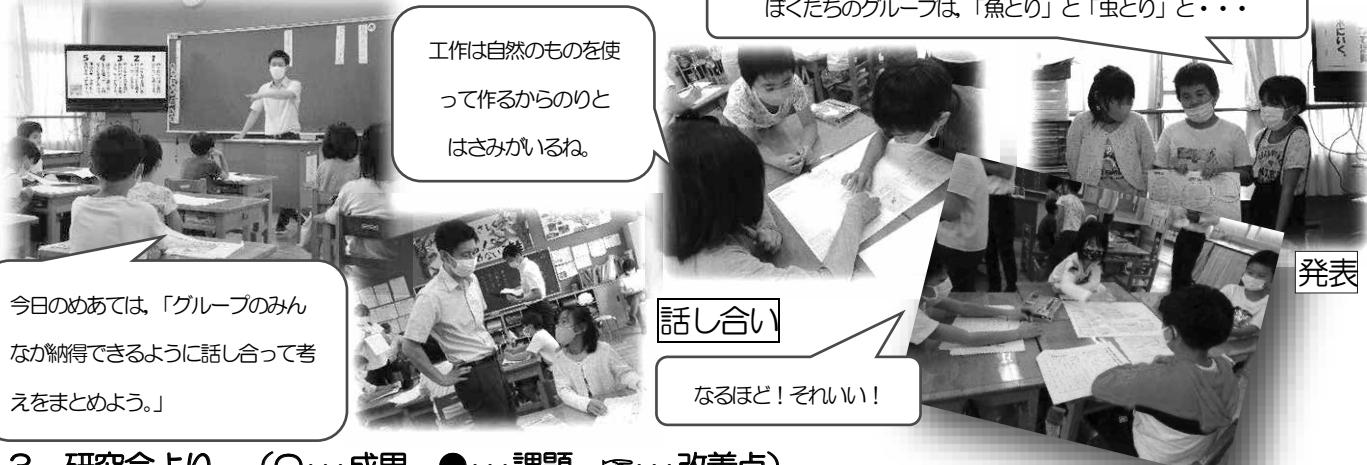
『山小屋で三日間すごすなら』（教材文「山小屋で三日間すごすなら」光村図書3年下）

1. 参観のポイント（討議の柱）

☆児童は、話し合いの目的に対する共通点や相違点に着目した比較という考え方で、グループの考え方をまとめようとしているか。

☆児童は、話し合いをすることで、自分の考えが広まった・深まったと感じているか。

2. 授業の様子



3. 研究会より (○…成果 ●…課題 ↗…改善点)

○児童は目的意識を明確にして、話し合うことができていた。思わず立ち上がりてしまうほど話し合いに熱中していた様子がうかがえた。

自分たちの経験をもとに考えたり話し合ったりできたことがよかった。

○話し合いの途中で、一時中断して指導する時間をとることで、話し合いの軌道修正ができた。上杉先生が全体をよく見て、穏やかな語り口調で話をされていたこともよかった。

●「めあて」に沿った「振り返り」はできていたが、めざす振り返りの姿との違いがあった。

↗再構築する姿を振り返りに書かせようと思うのならば、めあてを「～しよう（Let's型）」から「どうしたらしいだろう（Question型）」にするとよい。

◎指導助言・指導講話より

読み解く力の視点からみると、「考えを広げる」時間は、発見・蓄積→分析・整理の力が働く。「考えをまとめ」時間は、分析・整理→再構築の力が働く。子どもが持っている「間」を大切にして、安心してことばを紡ぎだせる環境をつくっていくことが大切。

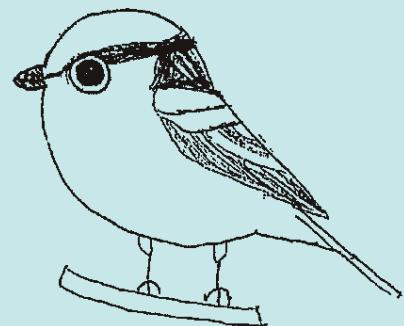
☆次回の授業研究会に向けて☆

- ・めざす振り返りの姿から、めあての型を選ぶようにする。
- ・子どもがもつ「間」を大切に。待つ勇気をもつと同時に、自分のことばで伝えきることの自信をつけていく。

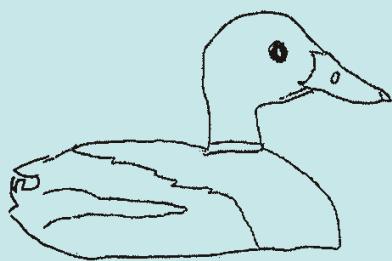
上杉先生、貴重な授業提供をありがとうございました！

V. 研究のまとめ

成果と課題



エナガ



マガモ

研究の成果と課題について

1) 主体的に学ぶための日常の取組

① ひまわり詩集の取組

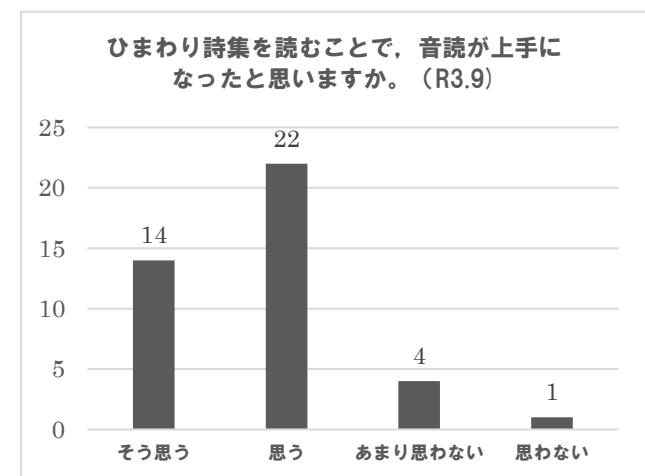
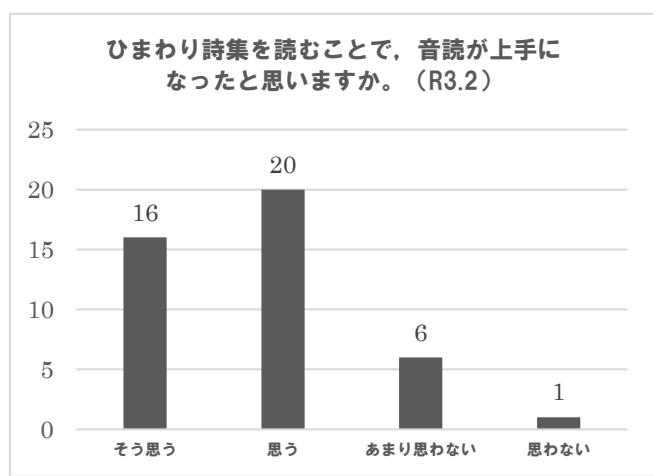
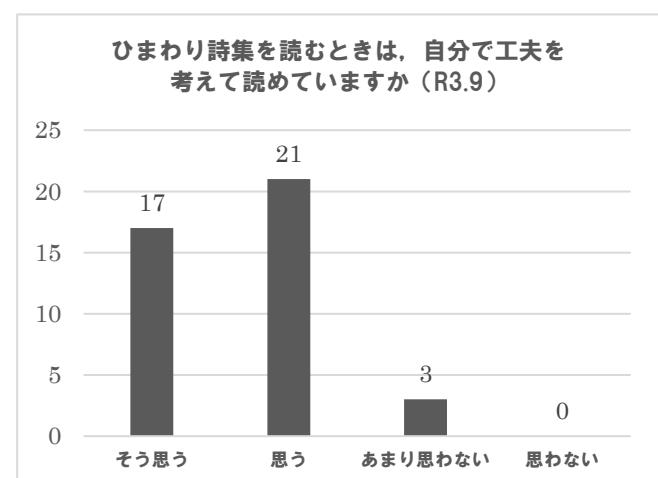
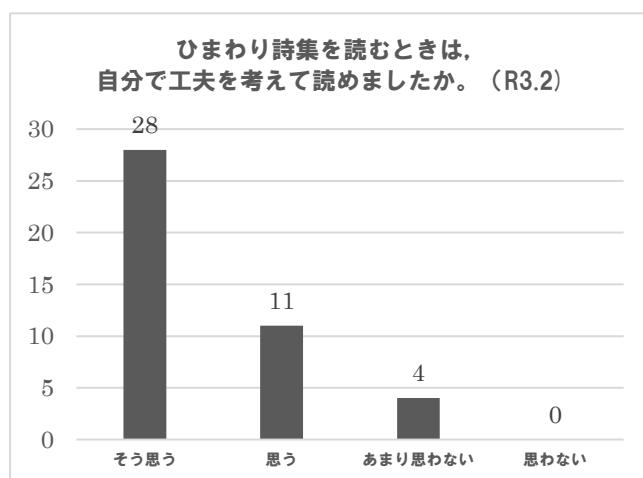
【成果】

昨年度より採用した『話す聞くスキル』を活用したことで、詩だけでなくさまざまな文例に触れることができた。語彙力の伸びを感じられる児童も見られ、表現の幅が広がりつつあると感じられる。また、朝学習の時間にクラスでひまわり詩集を活用した学習を取り入れたことで、今まで題材がもつ意味を十分理解しないまま暗唱したり音読・朗読したりしていた児童が、ことばの意味や響きをクラスで考えたり、自分で考えたりするようになってきた。クラスの実態に合わせてひまわり詩集の進捗状況に変化をもたらせられるようにしたことで、児童にとって無理のないペースで学習に取り組めるようにもなった。

昨年度2月に実施した児童アンケート結果からも、「自分で工夫を考えて読めた」「音読が上手になった」と感じている児童が全校の8割を超えた。今年度9月に実施したアンケートでも、昨年度と同様の結果が得られたことから、音読や朗読など『声に出て表現する』活動を通して、児童自身が成長を感じられるようになっていることがわかる。今後もひまわり詩集を活用した学習を継続していきたい。



1.ひまわり詩集を聞いてもらう児童



【課題と改善策】

ひまわり詩集は、クラスの学習だけで完結するのではなく、家庭学習で保護者に聞いてもらうことも必要になる。高学年になるにつれ保護者に音読を聞いてもらう機会も限られてくるため、保護者のチェックが受けられずに教職員に聞いてもらう9回目・10回目に進めない児童も見られた。家庭の状況等で保護者に聞いてもらうことが難しい場合の配慮についても考える必要があった。

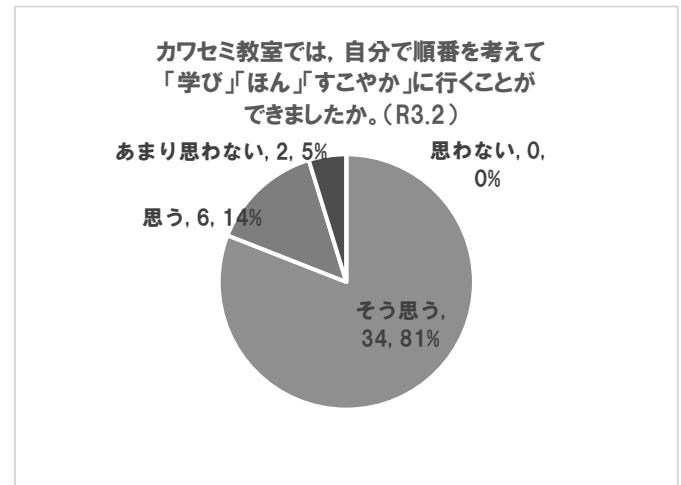
今年度は、児童の実態と家庭の状況も十分配慮しつつ個別の配慮が必要な場合は、児童と相談の上、保護者との連携もとれるような方法をとりながら、取組の継続を図っている。高学年になっても、自分の成長を見守っている人がいることを伝え、自分の学習の成果を発揮することの重要性を児童といっしょに考えることで、自らすすんで家族にひまわり詩集を聞いてもらう機会をつくることができるようになっている。なぜこの取組を続けているのかという理由を児童と共有することで児童の意欲喚起につながることがわかった。

② カワセミ教室の改善

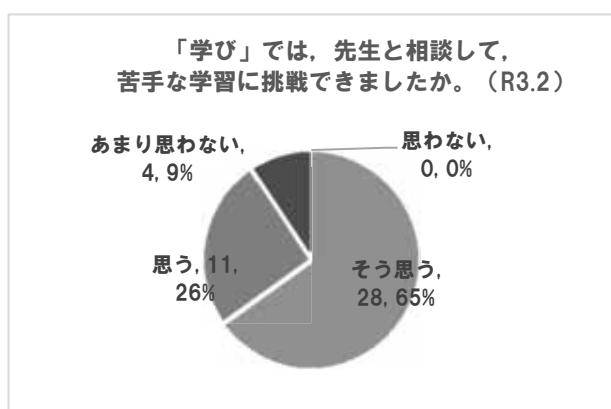
【成果】

昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休校措置が取られたため、1学期に1回、2学期に3回、3学期に3回、計7回の取組となった。密閉・密集・密接した空間での学習や、道具を共有した学習が不可能になる中、担当教職員が空間や道具を工夫しながら児童が安心・安全に学習できる環境づくりをめざすことができた。児童アンケートの結果からも、チケット制を導入し、学習内容を自分で決めるということに関して、概ね意欲的に実施できた様子がうかがえる。「自分は何をがんばりたいのか。」「得意なものから取り掛かるのか、苦手なものから挑戦するのか。」など児童一人ひとりが考えられるようになった証である。ただし、どうしても仲の良い友だちと離ががたい児童もみられるため、今後も自分で考えて動けるようになることの重要性を伝えていく必要がある。

「学び」では、児童2～3人に対して教職員1名が児童のそばに寄り添い、児童が苦手としている単元の問題に取り組む時間とした。普段は、じっくりと向き合うことができにくい問題にも挑戦することができたこと、わからないときはすぐに教職員に質問できる環境を整えたことにより、児童は25分間集中して学習に取り組むことができた。アンケート結果からも苦手な学習に挑戦できたと考えている児童が9割を超えた。短時間ではあるが、いつもは後回しにしてしまいがちな苦手分野にあえて取り組む時間を設けることで、「がんばった」「できた」という達成感を少しずつ味わうことができたのではないかと考える。



2. カワセミ教室「学び」①②

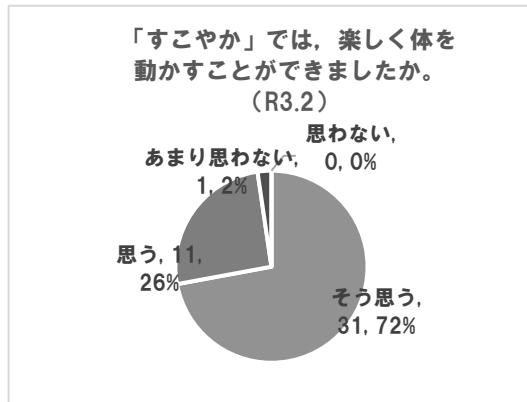


「学び」では、先生と相談して、苦手な学習に挑戦できましたか。(R3.2)

り、児童は25分間集中して学習に取り組むことができた。アンケート結果からも苦手な学習に挑戦できたと考えている児童が9割を超えた。短時間ではあるが、いつもは後回しにしてしまいがちな苦手分野にあえて取り組む時間を設けることで、「がんばった」「できた」という達成感を少しずつ味わうことができたのではないかと考える。

「ほん」では、図書室で静かに読書に取り組むことができただけでなく、学習の時間が終わった後も続きが気になる児童は自発的に図書を借りて読もうとする姿を見せていました。

「すこやか」では「投」の運動を中心としたプログラムを実施した。普段の遊びでは動かすことの少ない体の部分を使うことで、体を動かすことの楽しさを味わうことができた。また、異学年で協力して活動する楽しさも味わうことができた。



児童が、「学び」「ほん」「すこやか」の中で一番楽しみにしているのが「すこやか」である。学力向上の取組とともに、集団活動の良さを味わう活動の一端も担うことができる「カワセミ教室」は次年度以降も継続しつつ、児童の実態に合わせて内容の工夫と精選を行っていきたい。



3. カワセミ教室「ほん」

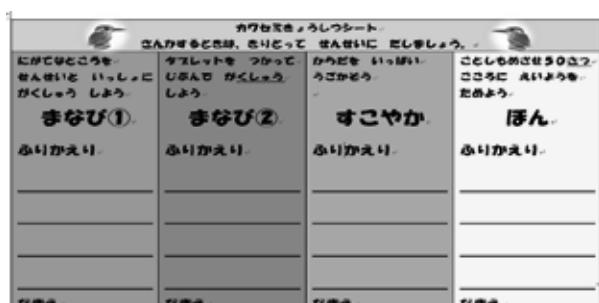


4. カワセミ教室「すこやか」

【課題と改善策】

「学び」では苦手の克服に取り組んできたが、学びの回数が学期に1回だけと限られていたため、学びの定着までには至らなかった。学びの回数を増やすことで、児童の学びの定着度が向上するのではないかと考えたが、苦手な分野の学習を児童が一人ですることは難しく、教職員がそばにいていつでも質問できる環境をつくることで「苦手なことでも頑張ってみよう！」という意欲がわいてくるのではないかと考えられた。

今年度からは自ら考え学習内容を決定する自己決定能力の育成と、学力向上の両立を図るために、カワセミ教室の回数を1学期4回・2学期4回・3学期3回の計11回設定した。1学期と



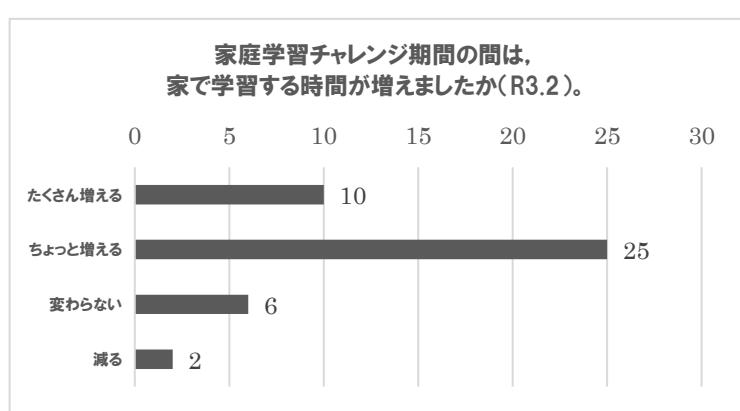
5. カワセミ教室ふりかえりシート

2学期については、「学び」を苦手克服とタブレットを使った自主的な学習の2本立てにすることで、学力向上の一端を担えるような取組を実施している。今年度から新たな取組として、終了時にふり返りを記入する時間を設け、毎回ふり返りシートに記入することにより、自分のがんばりを認めつつ、次回の学習に向けの目標が立てやすくなるように取組を継続している。

③ 家庭学習チャレンジ期間の充実

【成果】

昨年度2月に児童向けに実施した学びのアンケートの結果からもわかる通り、家庭学習チャレンジ期間は、普段と比べて学習時間が「増えた」「ちょっと増えた」とそれぞれ変化を感じている児童がおよそ8割にのぼる。家庭学習チャレンジ期間終了後すぐに、3か月に1回程度行っている「生活習慣振

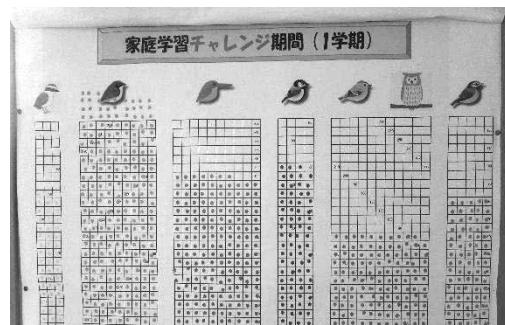


り返り週間」を実施するようにしたため、児童が学年相応の家庭学習を意識して行う期間が約2週間続くようになっていた。この期間は児童のなかにも「家庭学習を頑張ろう」という意識が芽生えるようになるとともに、家庭学習についての記録もつけるため、普段よりも家庭学習に対する意識が高まっていることがわかる。学習時間に応じて、鳥のえさタンクにシールを貼る活動も児童の意欲向上の一役を担っていたのではないかと考えられる。

また、一昨年度より取り組み期間を7日間に短縮したことで、いわゆる「中だるみ」期間がなくなり1週間継続して学年相応の時間に取り組むことができたのではないかと考える。



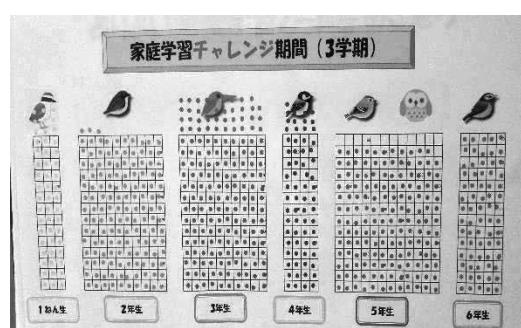
6. 鳥のえさタンクにシールを貼る児童



7. 家庭学習チャレンジ1学期 (R2)



8. 家庭学習チャレンジ2学期 (R2)



9. 家庭学習チャレンジ3学期 (R2)

【課題と改善策】

課題の一つ目として挙げられるのが、「家庭学習ノートの質の向上」である。2年生以上の児童は家庭学習ノートを活用し、国語・算数・理科・社会など教科の学習で学んだことの復習や予習などを行っている。指導者の願いとしては、学習した内容をまとめたり、わからないところを調べたりしながらノートをつくっていくことで、家庭学習の充実を図っていきたいと考えていた。しかし、児童の多くは家庭学習ノートを漢字練習帳のように活用して、ひたすら漢字の書き取りに取り組んだり、計算ドリルの計算問題ばかりを解き直したりして、家庭学習で「まとめる」や「調べる」といったことに取り組むことが難しい様子であった。家庭学習のめやす時間達成するためだけにノートを使ってひたすら「書く」ことを続けている児童もみられた。定期的にノート展を開催し、お手本になるような家庭学習ノートを掲示板に掲示していたが、よりよいノートに仕上げていこうという意欲づけにはなかなかならなかった。

そして、家庭学習チャレンジ期間には毎学期のそれぞれのめあてがあった。1学期は「家庭学習時間の定着」2学期は「家庭学習ノートの充実」3学期は「苦手の克服」である。1・2学期の取組については、児童も指導者も、めあての達成に向けて取組を進めることができたが、3学期の「苦手の克服」については、児童と担任が一緒になって一人ひとりの苦手なところを話し合ってその日の課題を決めて、学年が下がるごとに一人では苦手な学習に取り組むことが難しく、めあての達成に至らなかった、また、意欲の低下から家庭学習の目安時間に到達できなかつた児童が2学期よりも増加傾向にあった。

また、家庭学習時間の「見える化」のために取り組んでいたえさタンクにシールを貼る活動についても、個人間や学年間の競争がどうしても生まれてしまうなどの懸念もあり、見直しが必要ではないかという案が研究会の中で出された。

これらのことから、今年度の家庭学習チャレンジ期間については、以下の方法で取り組んでいくことを研究会で共通理解した。

- チャレンジ期間は年間3回、学期ごとに7日間実施する。
 - 1学期は「家庭学習の定着」2学期は「家庭学習ノートの充実」を目標とする。
 - 3学期については、各学年で目標を決めて実施する。
 - えさタンクについては、廃止する。その代わりに、家庭学習記録表に毎日目標が達成できたら目標達成がわかるようなシールを貼って個人の「見える化」を図る。
 - ノート展は定期的に実施する。児童一人ひとりのなかで家庭学習ノートが上達してきたと感じられたら、通常のシールとは別の特別感のあるものを用意し、児童の意欲喚起に活用する。

今年度は、昨年度の課題をふまえて、個人の家庭学習記録表に毎日、目標が達成できたら目標達成がわかるようなシールを貼って個人の「見える化」を図った。1学期の取組の成果としては、家庭学習ノートに「めあて」と「ふりかえり」が書けるようになったことや、「がんばった」というような感想のみの振り返りが少なくなり、学習で気づいたことを具体的なことまで書けるようになったことが挙げられる。その一方で、土日を中心として学習時間「0分」の児童がいることが大きな課題となった。まずは5分ずつでも毎日学習を続けていけるようにするために、2学期以降の改善策として、タブレットや百ます計算など学習し始める前段階での活力となるような課題を用意し、学習の起爆剤を活用していきたいと考えている。

10. R3. 家庭学習チャレンジ記録表

④ 読書活動の推進

【成果】

読書通帳や本の巣の取組、朝学習で図書室に通うことの習慣化などの結果、児童の読書量が年々増加している。絵本バッグを児童の個人机のフックにかけておくことも定着したため、いつも身近に図書が手に取れる環境整備も整ったといえる。令和2年度本校児童の年間平均読書冊数は2月時点で56.05冊、最多読者は200冊を超えた。令和3年度9月時点での平均読書冊数は20.12冊。多読者の冊数をみると低学年で40冊、中学年で78冊、高学年60冊となっている。

学年によって平均読書冊数に変化はあるものの、低学年から図書に対する親しみが現れた結果となった。本の巣に記録を残すことをしなくても数多くの本に触れ合うことが児童の中で日常化しているため、今後も朝学習にはすべての学年が図書室に通う日を設定し、引き続き読書活動の推進を行っていきたい。

⑤ 朝学習（ことばタイム）の改善

【成果】

昨年度も引き続き水曜日の朝学習の時間に全校児童が同じ課題に取り組み、語彙力を高めたり、表現力を生かしたりして作品づくりを実施した

ことばの力を活用した俳句や文章づくり、ことばあつめの学習を通して、友だちの作品や意見に刺激を受け多様な考え方につながる機会をもつことができた。活動の中には、1年生から6年生が学年を超えてともに学ぶ機会をもつことができたものもあった。1年生らしい表現の仕方に刺激を受ける高学年、高学年の言葉の使い方に憧れをもつようになる低・中学年の姿もみられ、縦

割りで学習する「良さ」をそれぞれ感じることができた。また、縦割りでの学習が難しい時期には、内容を統一して各クラスで学んだことについて、掲示板を使って共有するようにした。他学年の学習の成果を客観的にみることができ、次回の自分たちの学びにいかすこともできた。



11. ことばあつめ 1・6年生 (R2)



12. ことばあつめ 2年生 (R2)



13. ことばあつめ 3年生 (R2)



14. ことばあつめ 4年生 (R2)



15. ことばあつめ 5年生 (R2)



16. ことばタイム 掲示板 (R2)

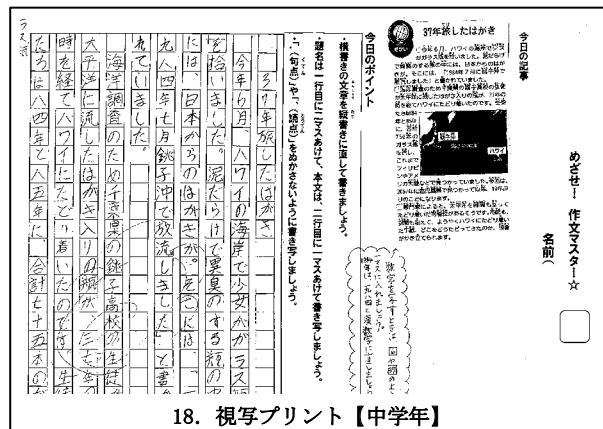
【課題と改善策】

縦割りで朝学習を行う場合、難易度に差をつけるかどうかの問題がある。内容ごとに学年相応の力をつけたいと思っていても、低学年にしては難しすぎないか、高学年にしては簡単すぎないか考えたときに、どうしても低・中学年でも取り組める内容なってしまうことが多く、高学年の児童にとっては多少の物足りなさがあった。

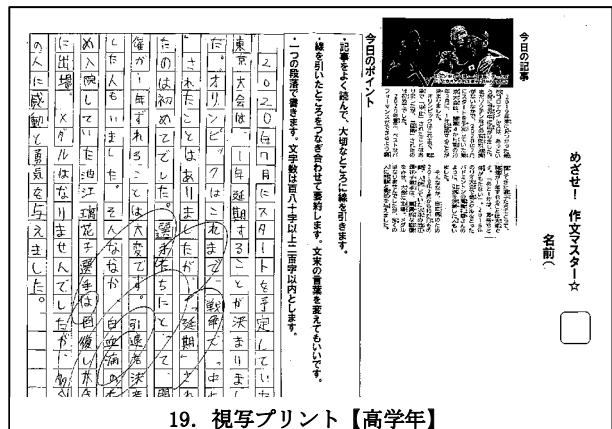
そこで、今年度は縦割り学習を行うことが、どの学年にとっても学習効果がみられるものは縦割りで学習し、同じ課題に取り組みながらもそれぞれの学年でつけたい力が大きく異なる場合は学年や学年部で取り組むようにすることで、取り組み方の最適化を図っている。学年別に学習する場合も、その学年だけの学びとしてとどめておくことはせず、昨年度と同様に掲示板等を活用してお互いの学習の様子を客観的にみられるような工夫を引き続き行っている。また、今年度は、語彙を増やすための新たな取組として「文章を読む力」や「まとめる力」の育成も図っている。条件を読んで自分の力で解く難しさも感じながら、日々の積み重ねが「書き写す力」「要約す力」に生かされ始めている。



17. 視写に取り組む児童 (R3)



18. 視写プリント【中学年】



19. 視写プリント【高学年】

⑥ 話し合い活動の取組

【成果】

昨年度から、国語科で「話す・聞く」ことについて研究を進めたほかにも、委員会活動やクラブ活動を運営する中で話し合い活動を意図的に増やすことができた。クラブ活動では、準備の段階から6年生が中心となって、タイムスケジュールや準備物について話し合い、担当教員からアドバイスをもらう形をとった。クラブ活動終了後には、振り返りを行い、自分たちの準備が適切であったか、全員が楽しみながら活動できたか、後始末まで自分たちの力でできたかなどを点数化し、次回の活動への課題を明らかにした。このことは、JRCの理念でもある「気づき・考え・実行する」を具体化した形であり、三要素に加え、次時の学習にいかすため「振り返る」という四つ目の要素を取り入れることで、児童が主体となって活動する楽しさや充実感、また、達成感などを味わうことができるようになった。

【課題と改善策】

クラブ活動や委員会活動については、児童が主体となって活動できるようになってきた。その一方でクラスごとの様子を見てみると、どうしても少人数校ならではの良いところであり、改善すべきところでもある「手が行き届きすぎる」という点が作用して、児童主体の話し合いになりにくかったという点が挙げられる。

児童が「自分たちの力だけで話し合って成功させたい」と感じるためにも、自然と話し合いたくなるような話題や課題の設定能力が指導者に求められている。今年度は、今よりも児童が主体となって話し合い、学習や行事が進んでいくように、どのような話題設定が必要なのかについても研究を進めているところである。また、話し合うことに慣れることや、話し合うときに使うことばに親しむことを目的として、学年部ごとに「話し合い方マニュアル」を作成し、活用することで話し合うことの素地の育成を行っている。

2) 『読み解く力』を働かせた主体的で対話的な授業のためのしきけづくり

① 付けたい力を明確化するための児童の実態把握

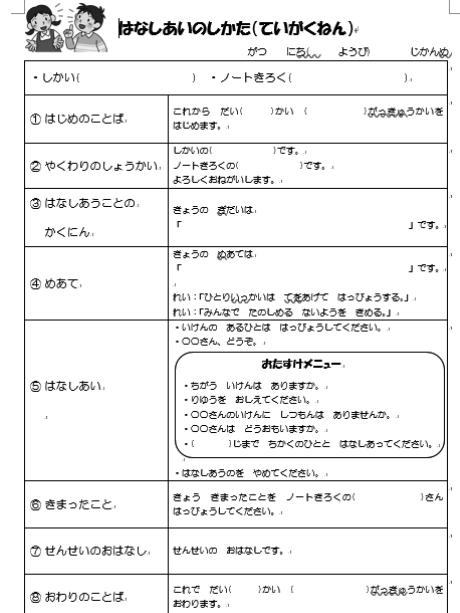
【成果】

昨年度より、年度当初に国語科の「話す・聞く」領域、特に「話し合うこと」に特化した単元を取り上げ、単元の内容について吟味し、つけたい力を明確化する作業を行った。研究授業や授業公開に向けてそれまでにつけておかなければならぬ力も見えてくるようになり、年間を通して系統的な指導の在り方について担任が中心となって教職員が協力して考えることができた。

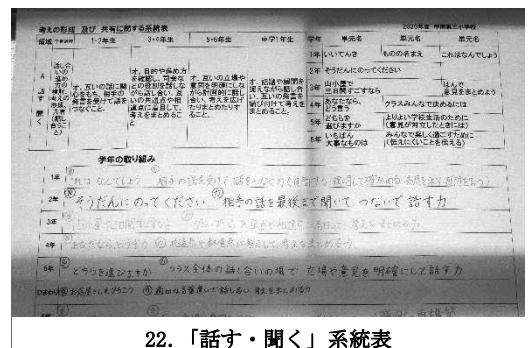
研究授業や授業公開を前に、指導案を作成する際に大切にしたのが「児童の実態」の部分である。国語科の学習の中で



20. クラブ活動をふりかえる児童



21. 話し合いマニュアル【低学年】



22. 「話す・聞く」系統表

できるようになったことと、これから力をつけてほしいところを分析し明記することで、この単元でつけたい力を持つためのアプローチの仕方をより詳細に考えることができた。話し合う話題を設定する段階でも、児童が話したくなるような話題を考えることができ、児童の実態に沿った話題設定が可能となった。

今年度の研究授業については、特別支援学級と各学年部から1本ずつ計4回計画し、実践に取り組んでいるところである。昨年度の実践をもとに、課題として挙げられたところの手立てを新たに考えるとともに昨年度とは児童の実態も変わるために、目の前の児童の強みと弱みを分析しながら授業を進めている。児童の実態を分析し、個別の支援を考えることで、めざす子どもの姿に近づくことができている。また、高学年の授業を1学期に公開したこと、6年間を通して国語科を中心に話し合う力を身につけた姿が明らかとなり、各学年の指導法を系統立てて考えることができるようになってきた。



23. 6年生「話し合うこと」授業の様子

【課題と改善策】

児童の実態把握に努めたが、児童の思考についての分析が十分にできていなかったことが課題として挙げられた。授業のふりかえりの時間や、研究会等で児童が考えに至った経緯をたどっていくことができれば、児童の気づきや躓きのポイントとなったところが明確になり、今後の指導に生かすことができるようになる。また、児童の中には、考えを直接ことばにして話さなくても通じているだろうと思っている子どももいるため、自分の言葉にして話すこと・伝えることの重要性についても話し合い活動を進める中では伝えていかなければならない。

また、年度当初に単元を通してつけたい力を明確にすることが重要なことではあるが、実際に目の前にいる児童が学習の中で新たな課題に直面した時に、それを解決するための力が十分備わっていないと思われた場合には、つけたい力を変えずに授業を進めるのではなく、少し学習を戻ってふりかえったり復習したりする時間も必要になるのではないかと考えた。児童の実態を一番よく理解しているのは学級担任である。学習を「進める」勇気とともに「戻る」勇気も持ち合わせる指導者でありたい。

② 児童の躓きの予想とそれに対する手立て

【成果】

どの学年においても、話し合いの目的意識が明確であったことから、目的から離れた話し合いになることが少なかった。学級担任がそれぞれに児童の実態を把握し、生活経験や既習内容を活用して解決できそうな話題が設定できたことで、学級全員が話し合い活動に参加できた。

【課題と改善策】

学年によって話し合う内容はそれぞれ違ったが、自分の意見にこだわりをもちすぎるあまり周囲の意見を聞き入れて再度自分の考えを深めようとできなかったり、決められた時間内に解決すべき課題についてまとめられなかったりしたことも多かった。高学年になるにつれ、話題が自分たちの考えだけでは解決しきれないものになっていくこともあり、さまざまな立場に立って物事を考える視点が必要となった。話し合い活動をするうえで求められる力は多岐にわたるため、

「話し合いが行き詰ったときは、いったん自分で考える時間を持つ。」「友だちの意見を聞きながら、この考え方自分にはないから素敵だと思うところを見つける。」など話し合うために必要な技術や力を整理して提示できるようにしておくと、児童が話し合いの中で活用し、自分たちの力で話し合い、解決できることが増えていくのではないかと考える。

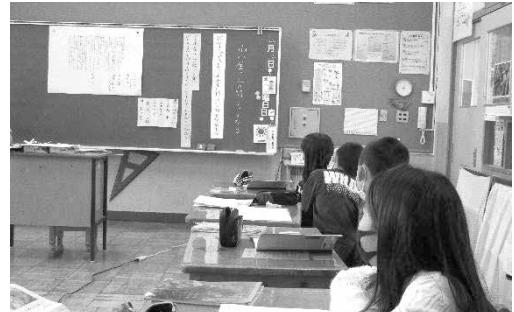
また、低学年のうちは生活経験の差や、語彙力の差も話し合い活動に大きく影響してくること

も明らかとなった。教科書で使われていることばや日常生活で身につけておきたいことばについては、国語科の時間やことばタイムなどでも補いつつ、児童の間で語彙力に大きな差が生まれないように指導を続ける必要がある。生活経験の差については、経験値が高い児童にその出来事について詳しく説明させるとともに、不足部分については指導者が補うことで、実際に体験・経験していなくても疑似体験したような気分になるようにしかけていくことも必要である。

③ 対話的な学びを進めるため児童に与える視点の提示

【成果】

話し合いを進めるにあたり、モデルとなる「話し合い方」を示すことが重要になる。2・3年生のうちからCDや映像等を通して、話し合うことのイメージを児童一人ひとりがもつことができたことで、「自分もCDのような話し合いができるようになりたい。」「司会者をやってみたい。」などの目標が明確になった。自分たちの話題での話し合いの前に、指導者から話題を提示し、みんなで相談にのる活動を取り入れた模擬体験を実施した学年は、どのように話し合ったらよいのかを経験でき、話し合いの見通しがもてるようになった。



24. 話し合いのCDを聞く児童

高学年になると、話し合いの目的が重要になる。「何のためにこの話し合いをするのか」という目的を共有化することで、話し合いが行き詰りそうになったときに立ち戻ることができた。また話し合う目的が実生活と深く結びついていたことで、必然的にお互いに理由を確かめ合う姿や、折衷案を出し合う姿が見られ、今までにない前向きな話し合いが行えるようになっていった。

【課題と改善策】

考えを広める話し合いでは、思いついたことや考えたことについて順序を気にすることなく話していくことができる。そのため、考えを広める話し合いの際に作ったメモなどは、重要度や優先順位がついていないままのものになっている。しかしながら考えをまとめていくためには、さまざまな面を考慮しながら話し合いを進める必要がある。本校の児童は、話し合う内容を俯瞰的にみることが難しく、出し合った意見の一つひとつを取り上げて解決していくこうとしたため、自分たちの力だけでは解決できそうにない話題でさえ、なんとか話し合いをして結論を導き出そうとし、多くの時間を割いてしまうことがあった。話し合いには重要度や優先順位をつけることも必要であるということに気づかせ、効率的で生産性の高い話し合いに向かわせることが十分できなかつた。

そこで今年度からは、考えをまとめる際には優先順位や重要度を確認しあい、限られた時間の中で解決していくことの必要性を伝えていくこととする。児童に気づかせるべきことと、指導として児童に教えることを見極め、スキルとして身につけておくべきことについては、適切なタイミングで指導していく。また、低学年のうちから話型を使いながら、話し合いをリードできる力もつけていきたい。

④ 振り返りの充実

【成果】

授業者自身が児童にどのような振り返りをさせたいのか具体的に考え、記述するところから1時間の授業づくりを行っていくことで、授業のゴールが明確となり、めあてと振り返りとの整合性が取れるようになった。児童の振り返りの姿が具体化されることで、この姿を引き出すために必要な手立ては何か、何を学ばせたいのかがより具体的に考えられるようになり、1時間の学習の中でつけたい力がより明確化できるようになってきた。

【課題と改善策】

児童の振り返りを見ていると、話し合いを通して学んだことを振り返るよりも、話し合う活動自体で感じたことについて記述していることが多く見られた。指導者にとっては、話し合いを通して学んだことや、学びの連続性から考えて次の学習に生かしたいことなどを記述してほしいという思いがあった。ここで、指導者と児童とのずれが生じていた。そのずれを解消する一つの手段として今後、めあての立て方の改善が求められる。従来の授業スタイルでよく使われている「～しよう。(Let's型)」というめあてだと「・・・できた。」と活動について振り返ることが多くなってしまう。しかし、めあての提示の仕方を「どうしたら～できるだろう (Question型)」という形にしたり、「(活動) して (スキル) を身につけよう (to Do型)」という形にしたりして、答えが見つけられるような振り返りや、スキルを身につけられたか振り返ることができるようなめあても取り入れることで、振り返りの質的向上を図っていきたい。



25. 学ぶ力向上学校訪問 指導講話より

⑤ 児童目線での授業研究会

【成果】

昨年度は、三本の研究授業についてビデオカメラやタブレットを使って録画したこと、授業記録と動画を視聴しながら授業研究会を行うことができた。動画を視聴することで、児童のしぐさや視線、つぶやきなどもふりかえることができ、「読み解く力」を働きかせ、単元でつけたい力や国語科で必要とされている資質や能力が身についているか確認することができた。



26. 校内研究会

【課題と改善策】

児童の目線に立って授業を参観し、研究会に臨むことは定着しつつあるが、討議を進めるうえで討議の柱については積極的に意見を交流することはできても、「読み解く力」の視点に立って児童の様子がどうであったかの交流が十分できていなかった。

授業の中で児童が「読み解く力」を発揮している姿を想像するとともに、指導者が再度「読み解く力」についての理解を深めることが、次年度も研究を進めるうえで必要となってくる。また、国語科の「話し合うこと」と学級活動の「話し合い活動」との区別を理解するとともに、カリキュラムマネジメントの視点に立って、教科横断的な学習が実現できるように、よりよい授業改善を目指していきたい。

◎ J R Cに関わる活動について

昨年度より新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、学校生活にもさまざまな制限が求められる状況にあったが、児童・教職員が工夫を凝らしてJ R Cの実践目標である『健康・安全』『奉仕』『国際理解・親善』にかかわる取組を実践し続けることができた。取組を通して児童自ら課題に『気づき』、解決の方法を『考え』、『行動』し、『振り返る』サイクルが定着したことによって、本校の課題であった主体的に考え、行動に移す力に改善の兆しが表れるようになった。

自分の思いをことばにして伝えようとする1年生。お互いに協力し合って足りないところを補い合おうとする2年生。全校の前でも臆することなく頷きや反応をみせる3年生。初めての委員会活動でも自分のできることを探して学校のために働くとする4年生。6年生と一緒に行事を成功させようといっしうけんめい考え抜く5年生。そして、学校のリーダーとして自分たちのできることは何か考え試行錯誤し続けている6年生。学校生活を主体的に、そして前向きに送つていこうとする姿が増えたことが、この2年間の研究の大きな成果ではないかと考えている。

令和3年度 JRC実践目標にかかる取組より



交通安全教室



救急救命講習



びわ湖の日一斉清掃



水難防止教室



あとがき

本校は、国語科を窓口に「主体的に学び、対話的に考えを深め合える子どもの育成～児童の言語感覚を養い、『読み解く力』を高める指導の在り方～」をテーマとして研究を進めてまいりました。国語科で培った力を他教科や特別活動などで計画・相談するときの話し合い活動に活かし、より充実した活動となるように取組を積み重ねてまいりました。

子どもたちの活動の中に、JRCの精神「気づき」「考え」「実行する」の実践目標を取り入れた姿を見ていただけたのであれば幸いです。2021年度は本校がJRCに加盟して50年目の節目の年となったことにも縁を感じます。今後は研究の成果を活かし、本校の特色である愛鳥モデル校としての活動をさらに充実させ、生物のつながりや環境といのちを大切にしようとする態度を育てていきたいと思います。

昨年度から続く新型コロナウイルス感染症拡大の中、1年延期されてオリンピック・パラリンピックが開催されました。日本選手だけでなく全ての選手が開催に関わった方々に感謝の意を表し、その思いを受けて全力で競技に打ち込む姿やがんばりが私たちの生活に元気と勇気を与えてくれました。子どもたちも学校行事や学校生活にさまざまな制限を受けながらも、できることを考え、工夫し、学校生活を楽しもうと明るく元気いっぱいに過ごしています。できないことが多い中で、できることを探すこと、どのようにしたらできるかを考えることはまさに、『生きる力』が試されているのではないでしょうか。AIが発達し、情報化社会がますます加速していくこれからの時代に、「課題に気づき」、「解決策を考え」、「実行し」、「振り返り」ながら、未来をたくましく切り拓いていける「宮」の担い手となるような取組を進めてまいります。

最後になりましたが、本校の研究を進めるにあたり、専門的な見地から多くのご教示ご示唆をいただきました県市指導主事様、日赤滋賀支部のみなさま、地域のみなさま、本当にありがとうございました。まだまだ不十分な取組ではありますが、今回紀要としてまとめさせていただきました。今後ともみなさまのご支援とご協力をよろしくお願ひいたします。

甲賀市立甲南第三小学校 教頭 早川 学

研究同人

[令和3年度]

角出 昭子	早川 学	上杉 尚裕	上田ひとみ	大吉 千夏	奥野 香
鈴木 健悟	寺川 紘理	中野 瑞己	林田 親子	松本英里子	杉田 勝
大原 麻衣	増井ゆりか	松原 博美	和田佳代子		

[令和2年度]

大杉真由美	瀬古 育海	棚橋 良介	藤橋 知子	山口すが子	竜王みやび
-------	-------	-------	-------	-------	-------



学校の鳥 カワセミ
【Kingfisher】



学校の花 ヒマワリ
【sunflower】



甲賀市立甲南第三小学校
〒520-3305
滋賀県甲賀市甲南町野川 840
TEL 0748-86-2038 FAX 0748-86-0538